



パソコンのスペルも 知らなかったら もっとも

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！

機能や設定など、もっと知りたいあなたに！

パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

マニュアルを活用しよう

このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。
『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。



『はじめにお読み
ください』

パソコンを使っているいろいろなことをはじめたい!



『使っておぼえるパソコンの基本』

- ・インターネットやメールをする
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作
- ・BIGLOBEに入会する

パソコン初心者なので、基本的なことから覚えたい!



『パソコンのいろは』

- ・NXパッドの使いかた
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作を覚える
- ・インターネットの練習

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい!

『もっと知りたいパソコン』

- ・パソコンの機能を詳しく知る
- ・周辺機器を接続する
- ・アプリケーションを追加 / 削除する
- ・パソコンのメンテナンスをする
- ・BIOSの設定を変更する



困ったなあ、どうしたらいいのかな?



『困ったときのQ&A』

- ・トラブルを解決する
- ・パソコンを再セットアップする
- ・知りたいことが、どのマニュアルに載っているかを調べる
(全マニュアル用総索引)

知りたいことを画面上で調べてみよう



『サポートセンター』(電子マニュアル)

- ・添付のアプリケーションを使う
- ・トラブルを解決する
- ・アプリケーションを追加 / 削除する
- ・サービス&サポート窓口紹介

巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2000年 5月 初版

2000年 6月 2版

2000年 7月 3版

表記について

記号

パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

| | |
|---|---|
|  警告 | 注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。 |
|  注意 | 注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。 |
|  感電注意 | 注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。 |

その他の記号

| | |
|---|--|
|  チェック | してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性がります。 |
|  メモ | 利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。 |
|  参照 | 関連する情報が書かれている所を示しています。 |

モデル

モデルの呼びかた

| | |
|-----------------|--|
| CD-ROMモデル | CD-ROMドライブを内蔵または添付しているモデルのことで。 |
| CD-R/RWモデル | CD-R/RWドライブを内蔵または添付しているモデルのことで。 |
| ワイヤレスインターネットモデル | 本体にワイヤレス通信機能を内蔵し、ワイヤレスモデムステーションを添付したモデルのことで。 |
| 携帯 / PHSモデル | 携帯 / PHSインターフェイスを内蔵しているモデルのことで。 |

対象モデル一覧

| 型名 | 表記の区分 | |
|-----------------------------|----------------|-----------------|
| | CD-ROM・CD-R/RW | 通信機能 |
| LC600J/34DR LC600J/34DR9 | CD-R/RWモデル | 携帯 / PHSモデル |
| LM500J/32D LM500J/32D9 | | |
| LM500J/32DW LM500J/32DW9 | CD-ROMモデル | ワイヤレスインターネットモデル |
| LM500J/32D2 LM500J/32D29 | | |
| LM40H/32D1 LM40H/32D19 | | 携帯 / PHSモデル |
| LM40H/32D6 LM40H/32D69 | | |

内蔵モデム以外の通信機能

操作方法

| | |
|-----------------|--|
| 【 】 | 【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを示します。 【 】+【 】はキーを同時に押すことを表しています。 |
| ⏪ | ⏪は、Enterキーを表しています。 |
| 「 」 「 」 「 」 「 」 | 「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。 [例] 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「メモ帳」 「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」 「メモ帳」を順に選択することを示します。 |

コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは次のどちらかの方法で開くことができます。

- ・「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」
- ・「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、表示された「マイコンピュータ」画面の「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックする

「添付ソフトの使い方」

次の方法で「添付ソフトの使い方」を開き、各アプリケーションの使いかたを参照することができます。

「スタート」ボタン 「サポートセンタ」 「添付ソフトの使い方」

記載内容

- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアの正式名称

| | |
|-------------------------|---|
| Windows、 Windows 98 | Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版 |
| Windows 2000 | Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system |
| Outlook 2000 | Microsoft Outlook® 2000 |
| Office 2000 Personal | Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/ Shogakukan Bookshelf® Basic) |
| インターネット エクスプローラ | Microsoft® Internet Explorer 5.01 |
| MS-IME2000 | Microsoft® IME2000 |
| Acrobat Reader | Adobe® Acrobat™ Reader 4.0J |
| AOL | AOL 5.0 for Windows |
| DirectCD | DirectCD™ 3 |
| Easy CD Creator | Easy CD Creator™ 4 Standard |
| KaraOK! | インターネットカラオケ KaraOK! for Windows |
| NEWEB サインアップ | NEWEBオンラインサインアップソフトウェア for Windows Ver1.0 |
| PostPet | PostPet for Windows ver. 2.0jp |
| So-netサインアップ | So-netオンラインサインアップソフト |
| ThumbsStudio | ThumbsStudio(Ver.2.0) |
| VirusScan | VirusScan Ver4.0.3a |
| @niftyで インターネット | @niftyでインターネット for Windows Version2.10 |
| 携快電話2001 | 携快電話2001N |
| 筆王 | 筆王 平成12年編 |



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

| 対象機種 | 電話回線 |
|--|------------|
| LM500J/32D LM500J/32D9 LM500J/32D2 LM500J/32D29 LM40H/32D6 LM40H/32D69 LM40H/32D1 LM40H/32D19 | A00-0322JP |
| LM500J/32DW LM500J/32DW9 | A99-0923JP |

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリバックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリバックを取り付けている場合]

本装置にバッテリバック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブが添付されています。

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの内容がありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9)ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、NetMeeting、Outlook、Windows Media、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

パソコン大学は、㈱アピパジャパンの商標です。

@niftyはニフティ㈱の商標です。

アメリカ・オンラインおよびAOLは、AOLの登録商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPuma Technology, Inc.の商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

「てきばき家計簿マム」は、テクニカルソフト株式会社の商標です。

ODN(Open Data Network)は日本テレコム㈱の登録商標です。

DIONは第二電電株式会社登録商標です。

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

コペルニックライト、Copernic Litelは、日本テクノラボの登録商標です。

NEWEBはKDD㈱の商標です。

Virtual CDは、Far Stone Tech, Inc.の登録商標です。

PostPetは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。

So-netは、ソニー株式会社の登録商標です。

携帯電話はソースネクスト株式会社の登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc.の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc.の商標です。

RealPlayerはRealNetworks, Inc.(<http://www.real.com>)の商標です。

「BIGLOBE」「BIGLOBE電話で入会ナビ」「BIGLOBEページ」「ThumbsStudio」「PCポータル」「クタイプメニューNX」は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

| | |
|---|----|
| このパソコンの基本機能 | 1 |
| 本体の各部の名称 | 2 |
| 本体前面 | 2 |
| 本体背面 | 3 |
| 本体底面 | 3 |
| 表示ランプ | 4 |
| 表示ランプの名称と役割 | 4 |
| ワンタッチスタートボタン | 6 |
| ワンタッチスタートボタンを使う | 6 |
| ワンタッチスタートボタンの設定を変更する | 8 |
| キーボード | 9 |
| キーの名称 | 9 |
| キーの使いかた | 10 |
| キーボードの設定をする | 12 |
| 日本語入力を使う | 13 |
| NXパッド | 15 |
| NXパッドの使いかた | 15 |
| NXパッドの設定をする | 16 |
| ハードディスク | 20 |
| ハードディスクを使用するときの注意 | 20 |
| ハードディスクの領域の確保とフォーマット | 21 |
| FAT32ファイルシステムの利用 | 24 |
| フロッピーディスクドライブ | 27 |
| 名称と役割 | 27 |
| 使用できるフロッピーディスクの種類 | 27 |
| フロッピーディスクドライブを使用するときの注意 | 27 |
| フロッピーディスクドライブを取り付ける | 28 |
| フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた | 29 |
| フロッピーディスクをフォーマットする | 30 |
| CD-ROMドライブ | 31 |
| 名称と役割 | 31 |
| 使用できるディスク | 34 |
| CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブを使用するときの注意 | 35 |
| ディスクのセットのしかたと取り出しかた | 36 |
| Easy CD Creatorを使う(CD-R/RWモデルのみ) | 38 |

| | |
|------------------------------------|-----------|
| DirectCDを使う(CD-R/RWモデルのみ) | 40 |
| 液晶ディスプレイ | 43 |
| 画面表示を調整する | 43 |
| 表示できる解像度と表示色 | 43 |
| バーチャルスクリーン | 46 |
| ディスプレイストレッチ機能 | 47 |
| 画面回転機能 | 48 |
| デュアルディスプレイ機能 | 49 |
| バッテリー | 51 |
| バッテリーのみで使う | 51 |
| バッテリーを充電する | 51 |
| バッテリーの残量を確認する | 52 |
| バッテリーリフレッシュ | 54 |
| バッテリーパックを交換する | 57 |
| バッテリー容量を増やす | 60 |
| 省電力機能 | 64 |
| 省電力機能とは | 64 |
| 省電力機能を使用するときの注意 | 65 |
| スタンバイ状態(サスペンド) | 66 |
| 休止状態(ハイバネーション) | 69 |
| セキュリティ機能 | 74 |
| このパソコンのセキュリティ機能 | 74 |
| パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する | 74 |
| その他のセキュリティ機能を使う | 79 |
| ファイル転送機能 | 81 |
| ファイル転送機能について | 81 |
| 赤外線通信機能を利用する | 81 |
| ケーブルによるファイル転送を利用する | 83 |
| ファイル転送を行う | 83 |
| サウンド機能 | 86 |
| 音量を調節するには | 86 |
| ホットキー機能を使う | 86 |
| ボリュームコントロールを使う | 86 |
| ピープ音量を調節する | 89 |
| 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について | 89 |

| | |
|--------------------------------|-----|
| 通信機能 | 93 |
| モデム | 94 |
| 内蔵のモデムを利用する | 94 |
| インターネットへの通信環境を切り替える | 97 |
| ワイヤレス通信機能 | 102 |
| ワイヤレス通信機能を使う | 102 |
| ワイヤレス通信機能を使用するときの注意 | 107 |
| ワイヤレス通信機能を活用する | 107 |
| 通信速度を変更する | 113 |
| ワイヤレスフォンを使う | 113 |
| インターネットへの通信環境を切り替える | 118 |
| PHSインターフェイス | 119 |
| PHSと接続する | 119 |
| PHSインターフェイス使用上の注意 | 120 |
| 接続先を設定する | 121 |
| ダイヤル設定のしかた | 121 |
| 携帯 / PHSインターフェイス | 124 |
| 携帯電話またはPHSと接続する | 124 |
| 携帯電話 / PHSインターフェイス使用上の注意 | 126 |
| 接続先を設定する | 126 |
| ダイヤル設定のしかた | 126 |
| いろいろなデータ通信を行う | 128 |
| 携帯電話連携機能 | 131 |
| 携帯連携 / i | 131 |
| 携快電話2001 | 132 |

| | |
|------------------------|-----|
| マルチメディア機能 | 133 |
| 音楽の再生 / 編集機能 | 134 |
| 音楽を再生するには | 134 |
| 音楽を編集するには | 134 |
| 編集してオリジナルMDを作る | 134 |
| 編集してオリジナル音楽CDを作る | 135 |
| 音楽CDや音楽データを再生する | 136 |

| | |
|--|-----|
| 周辺機器を使う | 137 |
| このパソコンに接続できる周辺機器 | 138 |
| 本体前面 / 右側面 | 138 |
| 本体背面 | 139 |
| 本体底面 | 140 |
| 周辺機器を接続する前に | 141 |
| 周辺機器を利用する | 141 |
| 周辺機器を利用するときの注意 | 141 |
| 周辺機器を使うようにセットアップする | 144 |
| プリンタ | 145 |
| プリンタを接続する | 145 |
| プリンタを設定する | 146 |
| 外部ディスプレイを使う | 150 |
| CRTディスプレイを使う | 150 |
| プロジェクタを使う | 152 |
| 接続した外部ディスプレイを設定する | 152 |
| PCカード | 154 |
| PCカードとPCカードスロットを使う | 154 |
| PCカードを使用するときの注意 | 155 |
| PCカードのセットのしかたと取り出しかた | 155 |
| メモリ | 159 |
| メモリを増設する | 159 |
| 増設RAMボードを取り扱うときの注意 | 159 |
| 増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた | 160 |
| USB対応機器 | 166 |
| USBとは | 166 |
| USBコネクタに接続する | 166 |
| その他の機器を使う | 169 |
| その他の周辺機器について | 169 |
| PHSインターフェイス | 169 |
| 携帯 / PHSインターフェイス | 169 |
| ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 | 170 |
| シリアルコネクタ | 171 |
| パラレルコネクタ | 171 |
| DCコネクタ | 172 |

アプリケーションの追加と削除 173

| | |
|--|-----|
| インストールされていないアプリケーションの追加 | 174 |
| インストールが必要なアプリケーション | 174 |
| アプリケーションの削除 | 175 |
| アプリケーションを削除する前に | 175 |
| インストーラ-NXを使って削除する | 176 |
| コントロールパネルを使って削除する | 179 |
| アンインストール機能を使って削除する | 180 |
| 削除したアプリケーションの再追加 | 181 |
| アプリケーションを再追加する前に | 181 |
| インストーラ-NXを使って自動でインストールできるアプリケーション | 181 |
| インストーラ-NXを使って内容を確認しながら インストールするアプリケーション | 184 |
| パソコン大学一年生CD-ROMを使って追加する | 185 |
| Office 2000 Personal CD-ROMを使って追加する | 185 |
| Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROMを 使って追加する | 186 |

BIOS セットアップメニュー 187

| | |
|-------------------------------|-----|
| BIOSセットアップメニュー | 188 |
| BIOSセットアップメニューを使ってできること | 188 |
| BIOSセットアップメニューを使う | 188 |
| BIOSセットアップメニューを終了する | 189 |
| 工場出荷時の値に戻す | 190 |
| 設定項目一覧 | 190 |

付録 201

| | |
|--|-----|
| パソコンのお手入れ | 202 |
| 用意するもの | 202 |
| パソコンのお手入れをはじめの前に | 202 |
| お手入れのしかた | 203 |
| Windows 98でMS-DOSモードを利用する | 204 |
| MS-DOSモードを利用する | 204 |
| MS-DOSモードでCD-ROMドライブ またはCD-R/RWDドライブを利用する | 205 |

| | |
|--|-----|
| Windows 2000 Professionalを使う..... | 208 |
| Windows 2000 Professionalをセットアップする前に..... | 208 |
| 1. パソコン本体の準備をする..... | 209 |
| 2. Windows 2000 Professionalをセットアップする..... | 210 |
| 3. 周辺機器の設定を行う..... | 213 |
| 携帯 / PHSインターフェイスの利用..... | 223 |
| 機能一覧..... | 224 |
| 本体..... | 224 |
| 内蔵FAXモデム..... | 227 |
| ワイヤレス通信機能..... | 229 |
| PHSインターフェイス..... | 229 |
| 携帯 / PHSインターフェイス..... | 230 |
| 割り込みレベルとDMAチャンネル..... | 231 |
| 割り込みレベルとDMAチャンネルについて..... | 231 |

| | |
|---------|-----|
| 索引..... | 233 |
|---------|-----|

P A R T

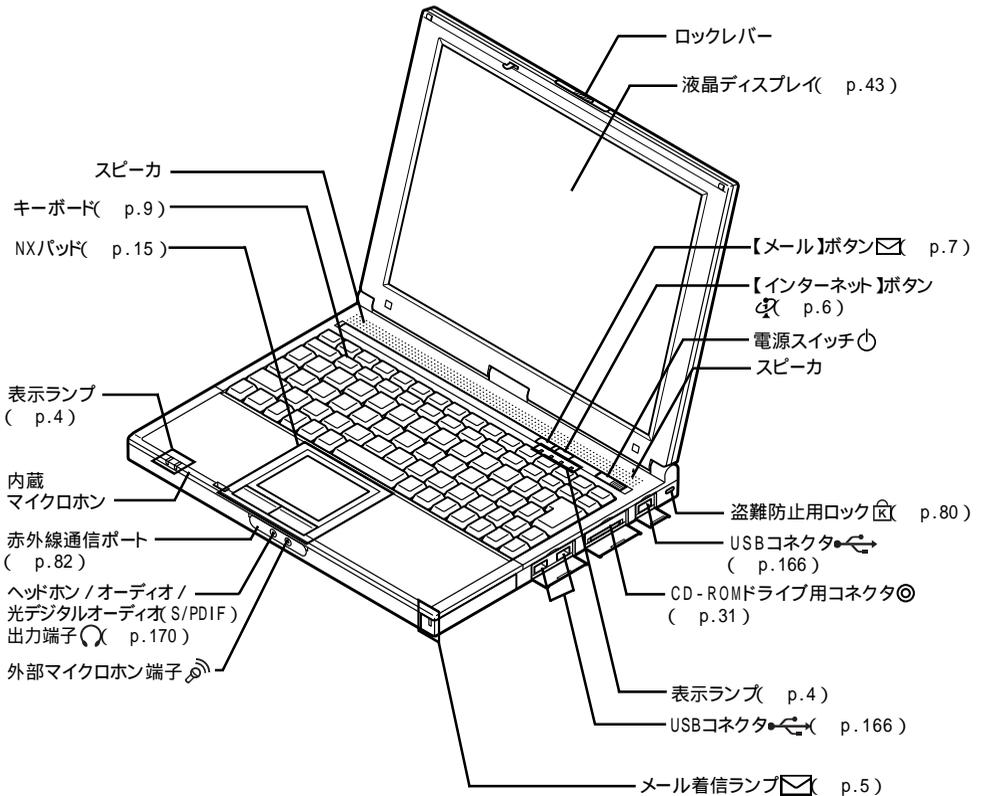
1

このパソコンの基本機能

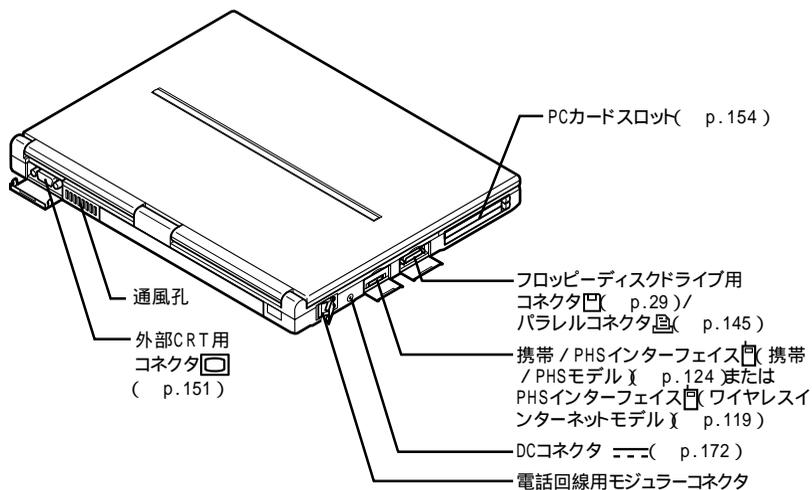
このパソコンの各部の名称とおもな機能について説明しています。

本体の各部の名称

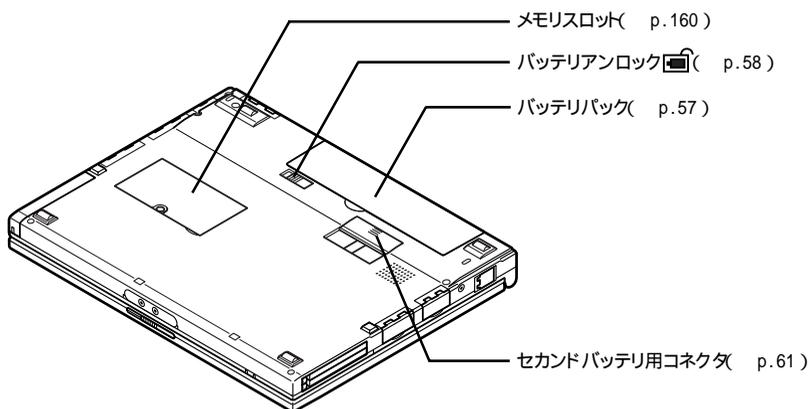
本体前面



本体背面

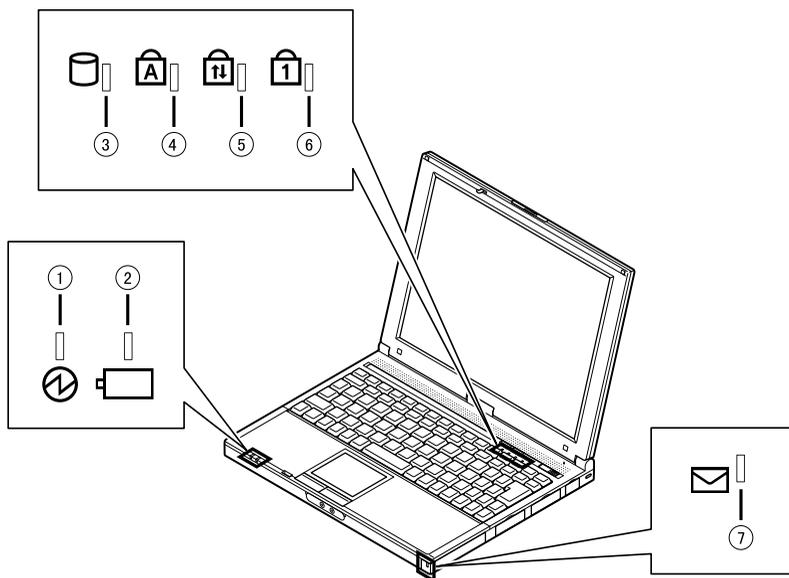


本体底面



表示ランプ

表示ランプの名称と役割



電源ランプ (🔌)

| ランプ | 状態 |
|------|--------------------------|
| 緑 | 点灯 電源が入っている |
| | 点滅 スタンバイ状態 |
| 黄色 | 点灯 バッテリー容量が少ない |
| | 点滅 スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない |
| オレンジ | 点灯 バッテリー容量が残りわずか |
| | 点滅 スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか |
| 消灯 | 電源が切れている、または休止状態 |

バッテリー充電ランプ()

| ランプ | 状態 | |
|------|-------------------------|---------------|
| オレンジ | 点灯 | バッテリー充電中 |
| | 点滅 | バッテリーのエラー |
| 緑 | 点灯 | セカンドバッテリー充電中 |
| | 点滅 | セカンドバッテリーのエラー |
| 消灯 | ACアダプタが接続されていない、または充電完了 | |

別売のセカンドバッテリー(PC-VP-BP11)接続時のみ

アクセスランプ()

| ランプ | 状態 |
|-----|-------------------|
| 緑点灯 | ハードディスクにアクセス中 |
| 消灯 | ハードディスクにアクセスしていない |

キャップスロックキーランプ()

| ランプ | 状態 |
|-----|--|
| 緑点灯 | 【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。 |
| 消灯 | 【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。 |

スクロールロックキーランプ()

| ランプ | 状態 |
|-----|----------------------|
| 緑点灯 | 【Scr Lock】がロックされている |
| 消灯 | 【Scr Lock】がロックされていない |

ニューメリックロックキーランプ()

| ランプ | 状態 |
|-----|---|
| 緑点灯 | 【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます。 |
| 消灯 | 【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます。 |

メール着信ランプ()

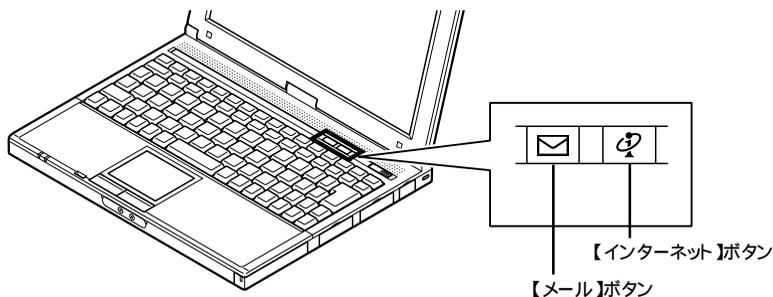
| ランプ | 状態 |
|-----|--------------------|
| 緑点灯 | メール着信あり、またはPIAFS圏内 |
| 消灯 | メール着信なし、またはPIAFS圏外 |

ワイヤレスインターネットモデルの場合、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」の「PIAFS使用時のランプ切り替え」を「圏内」に設定すると、ランプをワイヤレスモデムステーションの圏内にいるかどうかを確認する機能に切り替えることができます(p.199)。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使う

このパソコンには次のワンタッチスタートボタンがあります。



❗ チェック

MS-DOSモードで起動した場合やWindows 98のSafeモードなど、Windows 98のキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

【インターネット】ボタン

電源がONの状態の場合

パソコンの電源がONの状態では【インターネット】ボタンを押すと、インターネットへの接続がはじまります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。

📖 参照

【インターネット】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする」(p.8)

電源がOFFの状態 / スタンバイ状態(サスペンド)の場合

パソコンの電源がOFFの状態、またはスタンバイ状態(サスペンド)で【インターネット】ボタンを押すと、電源がONになり、インターネットの接続がはじまります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると、「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。



参照

【インターネット】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン /【メール】ボタンの設定をする」(p.8)

【メール】ボタン

電源がONの状態の場合

パソコンの電源がONの状態では【メール】ボタンを押すと、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン /【メール】ボタンの設定をする」(p.8)

電源がOFFの状態 / スタンバイ状態(サスペンド)の場合

パソコンの電源がOFFの状態、またはスタンバイ状態(サスペンド)で【メール】ボタンを押すと、電源がONになり、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定 「【インターネット】ボタン /【メール】ボタンの設定をする」(p.8)

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って行います。

「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」の画面が表示されます。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照

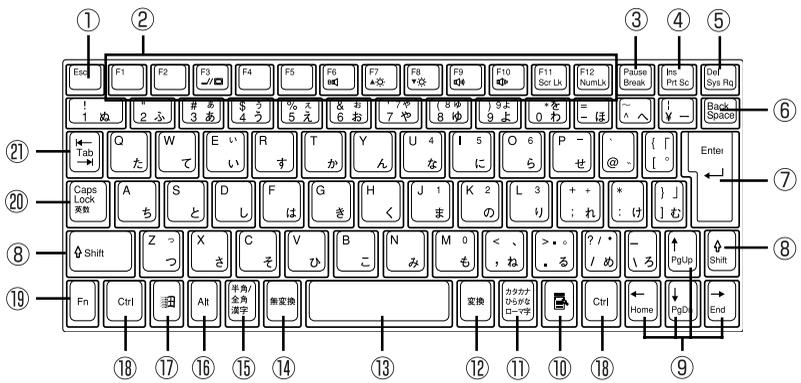
ワンタッチスタートボタンの設定 「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」、または「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

メモ

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート」ボタン 「プログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

キーボード

キーの名前



- ① 【Esc】: エスケープキー
- ② 【F1】~【F12】: ファンクションキー
- ③ 【Pause】: ポーズキー
- ④ 【Ins】: インサートキー
- ⑤ 【Del】: デリートキー
- ⑥ 【Back Space】: バックスペースキー
- ⑦ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑧ 【Shift】: シフトキー
- ⑨ 【 Ⅹ Ⅹ Ⅹ 】: カーソル移動キー
- ⑩ 【 田 】: アプリケーションキー
- ⑪ 【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑫ 【変換】: 変換キー
- ⑬ スペースキー
- ⑭ 【無変換】: 無変換キー
- ⑮ 【半角/全角】: 半角/全角キー
- ⑯ 【Alt】: オルトキー
- ⑰ 【 田 】: Windowsキー
- ⑱ 【Ctrl】: コントロールキー
- ⑲ 【Fn】: エフエヌキー
- ⑳ 【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉑ 【Tab】: タブキー

キーの使いかた

特殊なキーを使う

| キー操作 | 説明 |
|--|---|
| 【Shift】+【Caps Lock】 | 一度押すとキャップスロックキーランプ()が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。 |
| 【Alt】+【半角 / 全角】 または【半角 / 全角】 | 押すごとに日本語入力システムのオン / オフが切り替わります。 |
| 【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】 | 日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。 |
| 【Caps Lock】 | 日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。 |
| 【カタカナ ひらがな】 | 日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。 |
| 【Fn】 | 他のキーと組み合わせて機能を実行します(p.11) |
| 【  】 | 右クリックするのと同じ機能があります。 |
| 【  】 | 「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。 |
| 【  】+【R】 | 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 |
| 【  】+【M】 | 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。 |
| 【Shift】+【  】+【M】 | 【  】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。 |
| 【  】+【F1】 | Windowsのヘルプを表示します。 |
| 【  】+【F】 | ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。 |
| 【Ctrl】+【  】+【F】 | コンピュータを検索するウィンドウを表示します。 |
| 【  】+【Tab】 | タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。 |

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは、【Fn】と同じ色(青)でキー上面に印刷されているものもあります。

| キー操作 | 機能 | 説明 |
|--|--|--|
| 【Fn】+【F3】 | ディスプレイの切り替え () | 別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります(p.152) |
| 【Fn】+【F6】 | システムスピーカ() | ビープ音の音量を調節します(なし、小、中、大) (p.88) |
| 【Fn】+【F7】 | 輝度を上げる() | キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階) |
| 【Fn】+【F8】 | 輝度を下げる() | キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階) |
| 【Fn】+【F9】 | 音量を上げる() | キーを押すごとに、スピーカの音量が上がります。 |
| 【Fn】+【F10】 | 音量を下げる() | キーを押すごとに、スピーカの音量が下がります。 |
| 【Fn】+【F11】 | スクロールロック | 【Scr Lock】の役割 |
| 【Fn】+【F12】 | ニューメリックロック | 一度キーを押すとニューメリックロックキーランプ()が点灯し、キー上段に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、通常の文字が入力できるようになります。 |
| 【Fn】+【Ins】 | プリントスクリーン | 【Prt Scr】の役割 |
| 【Fn】+【Del】 | システムリクエスト | 【Sys Rq】の役割 |
| 【Fn】+【Pause】 | Break | 【Break】の役割 |
| 【Fn】+【  】 | 右Windows | 右【  】の役割 |
| 【Fn】+【Alt】 | 右Alt | 右【Alt】の役割 |
| 【Fn】+【  】 | Page Up | 【PgUp】の役割 |
| 【Fn】+【  】 | Page Dn | 【PgDn】の役割 |
| 【Fn】+【  】 | Home | 【Home】の役割 |
| 【Fn】+【  】 | End | 【End】の役割 |

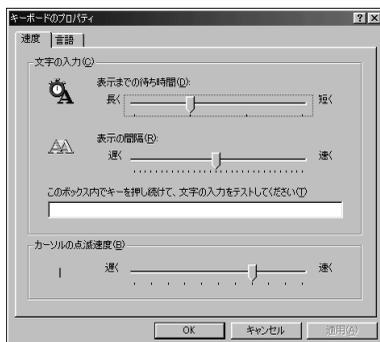


メモ

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F7】/【F8】を除く)。

キーボードの設定をする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする
「キーボードのプロパティ」が表示されます。



「キーボードのプロパティ」では、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・文字入力時のくりかえし入力のタイミング調節
- ・カーソルの点滅速度の調節
- ・日本語入力システムの選択
- ・レイアウトの設定

「速度」タブでの設定

表示までの待ち時間

一つのキーを押し続けたときに、入力のくりかえしがはじまるまでの時間を調節します。

表示の間隔

一つのキーを押し続けたときに、文字の入力がくりかえされる間隔を調節します。

カーソルの点滅速度

カーソルの点滅間隔を調節します。

「言語」タブでの設定

言語

よく使う日本語入力システムを一覧から選び、「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」欄に表示され、登録されます。

追加

「追加」ボタンをクリックして「言語の追加」ウィンドウを表示させ、追加したい言語を選びます。

プロパティ

日本語入力システムを一覧から選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定のウィンドウが表示されます。「ローマ字 / かな入力」、「入力モード / 方式」、「句読点の種類」などを設定できます。

削除

削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。

言語の切り替え

言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選ぶことができます。

タスクバー上に状態を表示

「タスクバー上に状態を表示」をクリックして にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをタスクバーに表示できます。

別売のキーボードを使うには

別売のPS/2タイプのテンキーボードやキーボードを接続して使用するには、別売のUSBポートパー（PK-UP012/PK-UP012N）が必要になります。

日本語入力を使う

このパソコンでは、日本語入力システムとしてMS-IME2000を使用することができます。

日本語入力システムのオン / オフを切り替える

日本語入力システムのオン / オフを切り替えるときは、【半角 / 全角】または【Alt】+【半角 / 全角】を押します。日本語入力システムがオンになると、日本語入力システムのツールバーが表示されます。オン / オフは、キーを押すごとに切り替えることができます。



メモ

インジケータ領域 (タスクトレイ) にある  をクリックして表示されるメニューでオン / オフを切り替えることもできます。日本語入力システムがオンのときは、 は  になっています。

日本語を入力する

日本語入力システムの詳しい使いかたは、MS-IME2000の「ヘルプ」を利用してください。



参照

日本語入力を練習する 「パソコンのいろは」-「ステップ4 日本語の入力」

MS-IME2000の「ヘルプ」を使う

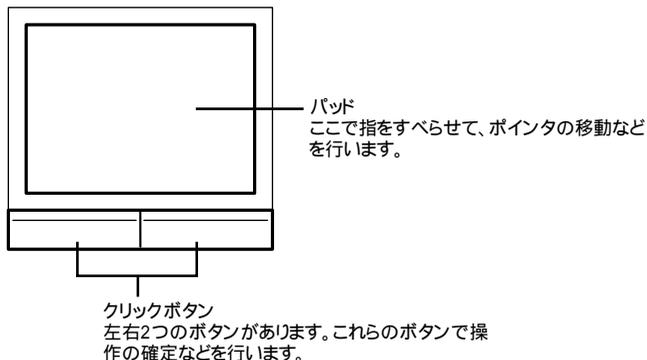
- 1 MS-IME2000のツールバーから  をクリックする
- 2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

NXパッド

NXパッドの使いかた

このパソコンにはポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。

名称と役割

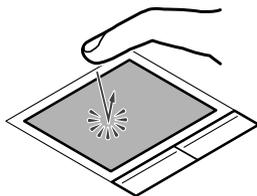


パッドのみを使って操作する

NXパッドではクリックボタンを使わずにパッドのみを使って操作することもできます。

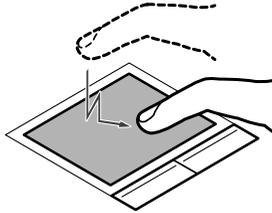
タップとダブルタップ

指先で軽くパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回続けてたたくことを「ダブルタップ」といい、それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。



ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにするドラッグができます。



参照

NXパッドの使いかたを練習する「パソコンのいろは」-ステップ1の「NXパッドに慣れる」

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。



「マウスのプロパティ」では、ウィンドウの左上の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・ ボタンの設定
- ・ ポインタデザインの選択
- ・ NXパッドの動作の調節
- ・ タッピングの調節
- ・ ジェスチャーの調節(NXパッド使用時のみ設定可能)
- ・ その他

「ボタン」タブの設定

ボタン設定

左右のクリックボタンの設定や、左右のクリックボタンを同時に押したときの設定ができます。

ダブルクリック速度

ダブルクリックのクリック間隔の調節を行います。

「ポインタ」タブの設定

デザイン

ポインタのデザインを変更することができます。

「動作」タブの設定

速度と加速度

ポインタの動作速度を調節します。

オートジャンプ

ウィンドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上に自動的に合わせるように設定できます。

軌跡

「表示する」を にすると、ポインタの軌跡が表示されます。

「タッピング」タブの設定

タッピング

にすると、タップが効かないように設定できます。

タッピング速度

タップする速度を調節します。タップの間隔(指をパッドに触れてから離すまで)を調節することで、間違っただけではタップにならないように設定できます。

ドラッグロックの設定

パッド上でドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中でパッドから指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。

タイピング

キー入力時に間違っただけでタップされたり、ポインタが移動するのを防ぐことができます。

「ジェスチャー」タブの設定

コーナータップ

パッドの左上角や右上角をタップする動作に、次の機能を割り当てることができます。

- ・ショートカットメニューの表示
- ・オートスクロール
- ・イージーキャプチャー
- ・全ウィンドウ最小化
- ・最近使ったファイルの表示
- ・お気に入りの表示



メモ

イージーキャプチャーは、「ペイント」などのアプリケーションを起動しなくても、NXパッドを操作して簡単な絵を作成し、起動中のアプリケーションに簡単に貼り付けることができる機能です。

ブラウザ補助機能

NXパッドの上端を左右どちらかになぞって、指を離すと、ブラウザの「進む」「戻る」の操作ができます。

スクロール機能

「スクロール機能を使う」を にして「設定」ボタンを選ぶと、次の各機能を使うように設定できます。

- ・スクロール速度
スクロールする速度を変更することができます。
- ・スクロール領域
パッド上でスクロール機能で使用する部分を「スクロール領域」といいます。スクロール領域の広さを変更することができます。

「その他」タブの設定

トレイアイコン

「タスクバーにアイコンを表示する」を にすると、インジケータ領域 (タスクトレイ) にNXパッドのアイコンが表示されなくなります。

IMEキャプチャー

IMEパッドの手書き入力エリアでタップすると、絶対座標モードで入力できるようになります。

イージーキャプチャーの設定

「イージーキャプチャーの設定」ボタンを選ぶと、次の各設定を変更できます。

イージーキャプチャーは、「ジェスチャー」タブの中の「左(または右)コーナータップ」で割り当てることができます。

- ・キャンパスサイズ

使用するキャンパスの幅、高さを変更できます。

- ・線の種類

使用する線の太さ、色を変更できます。

- ・オプション

「前回のイメージを保存する」を にすると、イージーキャプチャーで描いたイメージが保存され、次回イージーキャプチャーを開いたときに表示されます。

ハードディスク

ハードディスクを使用するときの注意

ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windows 98やアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。



チェック

データの読み書き中(アクセスランプ()の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやMOなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。



参照

バックアップの取りかた 『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルを予防するには」または「サポートセンター」「困ったときのQ&A」「トラブルの予防」「大事なデータはバックアップを取ろう」

ハードディスクの購入時の状態

このパソコンは購入時、ハードディスク全容量の75%がCドライブ、残りの25%がDドライブに割り当てられており、次のように領域が作成されています。

例：ハードディスクの全容量が「12Gバイト」の場合

Cドライブ：約9Gバイト(FAT32)

Dドライブ：約3Gバイト(FAT32)



参照

FAT32について 「FAT32ファイルシステムの利用」(p.24)

ハードディスクの領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、新たにハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ハードディスクの領域の確保とフォーマットは、「容量の確認」「領域の確保」「フォーマット」の順に行います。

ハードディスクの容量の確認

はじめに、領域を確保しようとしているハードディスク容量を確認します。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOSプロンプト」をクリックする
次のように表示されます。

```
C: ¥WINDOWS>
```

- 2 次のように入力する

```
FDISK ↵
```

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。



「FDISK」コマンドは「領域の確保」「領域の削除」「ハードディスクの状態の確認」を行うプログラムです。

- 3 「Y」を選んで【Enter】を押す
「FDISKオプション」の画面が表示されます。
- 4 【4】を入力し、【Enter】を押す
- 5 表示された画面でハードディスクの容量を確認する
- 6 【Esc】を押す
- 7 【Esc】を押す
次のように表示されます。

```
C: ¥WINDOWS>
```

ハードディスクの領域の確保

1 次のように入力する

・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

FDISK /x 

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

FDISK 

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。

2 「N」を入力し【Enter】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されます。



ここで「Y」を入力し【Enter】を押すと、FAT32で領域が作成されます。FAT32を利用する場合は「FAT32ファイルシステムの利用 (p.24)」をご覧ください。

3 「1」を入力し【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 「2」を入力し【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。



確保される領域は、入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとする、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

6 【Esc】を押す

7 サイズを入力して【Enter】を押す

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7をくりかえし、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

- 9 【Esc】を3回押す
次のように表示されます。



C: ¥WINDOWS>

- 10 次のように入力する



EXIT ←

Windows 98の画面に戻ります。

- 11 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

ハードディスクをフォーマットする

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
- 2 新たに領域を確保したドライブをクリックする
- 3 「ファイル」メニュー 「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」の画面が表示されます。
- 4 「通常のフォーマット」をクリックする
- 5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。
- 6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果が表示されます。
- 7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。
- 8 「OK」ボタンをクリックする
- 9 「フォーマット」ウィンドウをクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

- 11 ヘルプにしたがって、スキャンディスクを実行する
複数の領域を確保したいときは、手順2～11の操作をくりかえしてください。

FAT32ファイルシステムの利用

FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsで、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録 / 管理するシステムのことです。Windows 98では次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

FAT16

MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

FAT32

FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。



参照

FAT32に関する情報 「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- ・FAT32はこのパソコンにインストールされているWindows 98でのみ使うことができます。
- ・購入時の状態では、FAT32ファイルシステムでハードディスクの領域が確保されています。購入時の状態で使用する場合は、ここでFAT32の設定を行う必要はありません。
- ・別売のアプリケーションによっては正しく動作しないことがあります。
- ・スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。
- ・FAT16に変更するには、カスタム再セットアップする必要があります。



参照

カスタム再セットアップ 『困ったときのQ&A』の「PART3 再セットアップ」

FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。また、Windows 98で「ドライブコンバータ (FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。



参照

ドライブコンバータ (FAT32) Windowsのヘルプ

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」の画面が表示されます。

2 次のように入力する

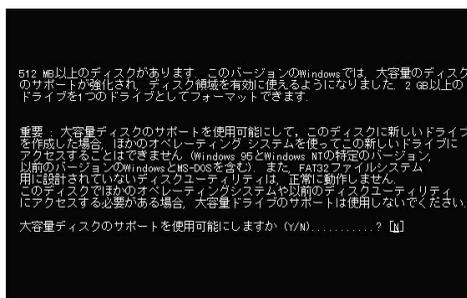
・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

```
FDISK /x <←
```

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

```
FDISK <←
```

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、次のような大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。



参照

ハードディスクの容量を確認する 「ハードディスクの容量の確認」(p.21)

3 【Y】を押して【Enter】を押す

4 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

5 領域の作成が終了したら、【Esc】を押す

6 次のように入力する

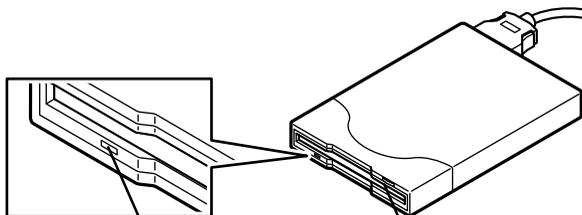


7 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で、「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする 再起動します。

8 作成したドライブをフォーマットする(p.23)

フロッピーディスクドライブ

名称と役割



フロッピーディスクアクセスランプ
フロッピーディスクの読み書き中は、
緑色に点灯します。

フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すための
ボタンです。

使用できるフロッピーディスクの種類

添付のフロッピーディスクドライブでは、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

| 作業内容 | データの読み書き | フォーマット | ディスクコピー |
|----------|----------|--------|---------|
| フォーマット | | | |
| 640Kバイト | - | - | - |
| 720Kバイト | | | |
| 1.44Mバイト | | | |
| 1.2Mバイト | | | |

○ : 使用可

△ : Windows 2000でのみ使用可

- : 使用不可

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

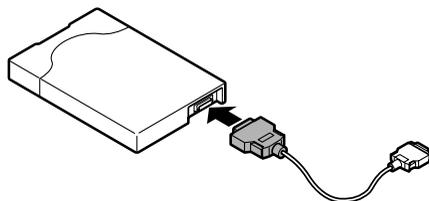
- ・このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・Windowsの「ディスクのコピー」またはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。

- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選ぶと、フロッピーディスクアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- ・2DDのフロッピーディスクを720Kバイトでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

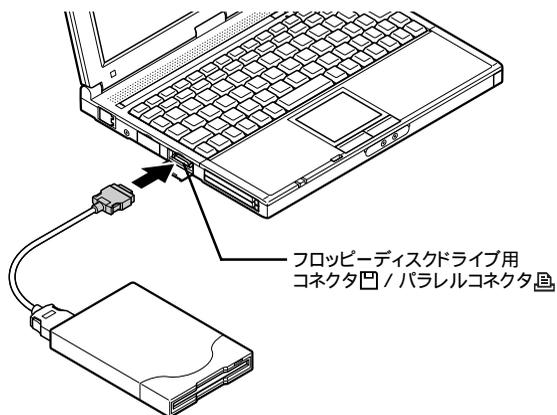
フロッピーディスクを使用する場合は、添付のフロッピーディスクドライブを専用FDDケーブルを使って取り付けます。

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で、「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 フロッピーディスクドライブのコネクタに専用FDDケーブルをカチッと音がするまで軽く押し込んで下さい。



- 4 パソコンのフロッピーディスクドライブ用コネクタカバー  を開く

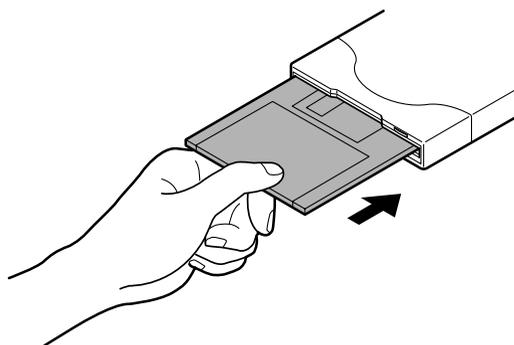
- 5 取り付けした専用FDDケーブルのコネクタのもう一方を 凹マークのある方を上にして、パソコン左側面のフロッピーディスクドライブ用コネクタにカチッと音がするまで軽く押し込んで下さい。



フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

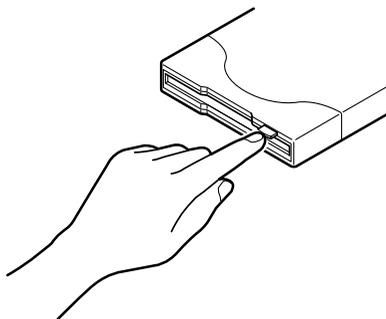
フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。



フロッピーディスクを取り出す

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す



チェック
フロッピーディスクを書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

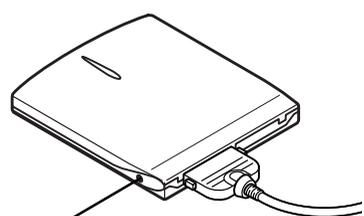
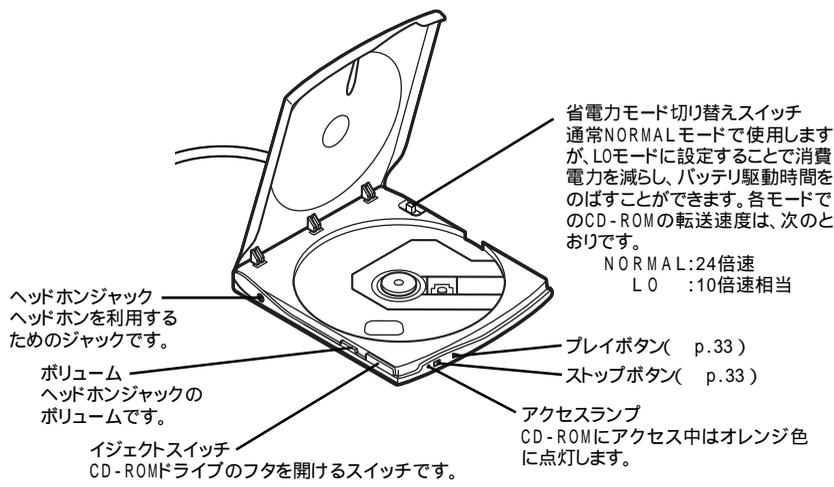
フロッピーディスクをフォーマットする

- 1 フロッピーディスクをセットする
- 2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」ウィンドウが開きます。
- 3 「3.5インチFD」アイコンをクリックする
- 4 「ファイル」メニュー 「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」ウィンドウが表示されます。
- 5 「フォーマットの種類」から実行するフォーマットの種類を選ぶ
はじめてフォーマットをするフロッピーディスクのときは「通常のフォーマット」を選んでください。
- 6 「開始」ボタンをクリックする
フォーマット作業が開始されます。

CD-ROMドライブ

添付の外付CD-ROMドライブについて説明します。
 外付CD-ROMドライブの取り付けについては、『はじめにお読みください』の「接続しよう」をご覧ください。

名称と役割



DCコネクタ
 別売のCD-ROMドライブ用ACアダプタを取り付けるためのコネクタです。



メモ

CD-ROMドライブのイジェクトスイッチやアクセスランプ、DCコネクタの位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

CD-ROMドライブを単体で使用する

添付の外付CD-ROMドライブに、別売のCD-ROMドライブ用ACアダプタ(PC-VP-BU03-1)と、ヘッドホンを取り付けると、本体と接続しなくても、音楽CDなどを聞くことができます。その際は、CD-ROMドライブにあるプレイボタンとストップボタンを使って操作します。

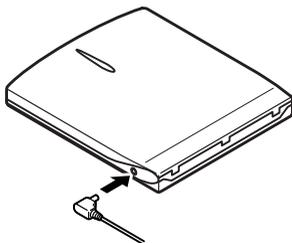


メモ

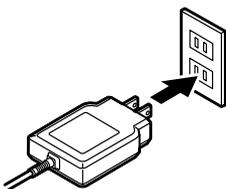
プレイボタン・ストップボタンは、本体に接続しているかどうかにかかわらず使用することができます。

別売のCD-ROMドライブ用ACアダプタの取り付け

- 1 CD-ROMドライブ用ACアダプタをDCコネクタに差し込む



- 2 CD-ROMドライブ用ACアダプタのプラグをコンセントに差し込む



プレイボタン

プレイボタンを押す時の状態によって、機能が異なります。

| プレイボタンを押すときの状態 | 機能 |
|--------------------------|--|
| 停止状態で押す | CDの最初のトラックから再生する |
| ポーズ(一時停止)状態で押す | 一時停止した位置からCDを再生する |
| 再生状態で押す | 現在再生中のトラックの次のトラックにジャンプし、CDを再生する |
| 再生状態でプレイボタンを約2.5秒以上押し続ける | <ul style="list-style-type: none"> ・現在再生中のトラックの再生がはじまってから10秒未満の場合 前のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する ・現在再生中のトラックの再生がはじまってから10秒以上の場合 現在再生中のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する |

ランダム再生中も含む

ストップボタン

ストップボタンを押す時の状態によって、機能が異なります。

| ストップボタンを押す時の状態 | 機能 |
|----------------|----------------|
| CDを再生中に押す | ポーズ(一時停止)状態になる |
| ポーズ(一時停止)状態で押す | 停止状態になる |

ポーズ(一時停止)状態が32秒以上続いた場合、自動的に停止状態になります。次に再生したときにはポーズ(一時停止)した位置ではなく、CDの最初から再生されます。

プレイボタン・ストップボタンの同時押し

CDを再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に約1秒以上押すと、再生中のCDが自動的にランダム再生になります。また、ランダム再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に押し続けると、ランダムに次のトラックにジャンプします。



メモ

ランダム再生機能を解除したい場合は、次の操作を行ってください。

- ・ 停止状態にする
- ・ CD-ROMドライブのフタを開ける
- ・ アプリケーションで再生 / 停止の操作をする



チェック

このパソコンにインストールされているアプリケーションを利用してCDを再生中にCD-ROMドライブのプレイボタン・ストップボタンを押しても、有効に動作しない場合があります。また、ランダム再生中にアプリケーションを起動すると、ランダム再生モードが解除されます。

CD-ROMドライブの場合

CD-ROMモデルにはCD-ROMドライブが添付されています。CD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rの読み込み、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどの再生ができます。

CD-R/RWドライブの場合

CD-R/RWモデルにはCD-R/RWドライブが添付されています。CD-R/RWドライブでは、CD-ROMなどの読み込みや、音楽CD、ビデオCD、フォトCDの再生のほかに、CD-Rへの書き込みやCD-RWの書き換えを行うことができます。使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。

CD-RやCD-RWへの書き込み

CD-R/RWモデルでCD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(p.38)または「DirectCDを使う」(p.40)をご覧ください。

CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
- ・Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能や一定時間が経過してスクリーンセーバーが働いたり、メールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は、他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
- ・バッテリーの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリーのみでパソコンを使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。
- ・本体やCD-R/RWドライブに振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。

 メモ

- ・ ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-R/RWドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはCD-R/RWドライブのバッファ(データの一時的な蓄積場所)に貯められてからディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作(たとえばスクリーンセーバーの起動など)があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。
- ・ DirectCDなど、Packet Write(パケット ライト)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー(バッファアンダーラン)は起こりません。

- ・ 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
- ・ DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。
- ・ フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合があります。
- ・ 市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外のものがあります。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。
- ・ データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。

 メモ

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低いいため、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことができません。

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用するときの注意

- ・ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。故障の原因となります。
- ・ ディスクの盤面にはラベルやテープを貼らないでください。故障の原因となることがあります。また、ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に振動を感じる場合があります。
- ・ CD-ROMドライブをお使いの場合でディスクのセット中、動作や振動が気になる場合は、フタを開けて省電力モード切り替えスイッチをL0モードにしてください。

- ・ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを本体に取り付ける場合や本体から取り外す場合には本体の電源を切ってから行ってください。本体およびCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの故障の原因となります。
- ・ 本体を移動するときは、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ接続用のケーブルを本体から取り外してください。取り外さずに本体を移動すると故障の原因となることがあります。
- ・ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ接続用のケーブルを、本体やドライブから外すときは、ケーブルの左右のロックを解除して取り外してください。左右のロックを解除しないでケーブルを引き抜くと、故障の原因となることがあります。
- ・ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを本体に接続しているときに、ヘッドホンジャックにヘッドホンを接続しても本体のスピーカまたは本体に接続したヘッドホンからはCD音声が出力されません。
- ・ 接続していないCD-ROMドライブが存在する場合がありますが、これはVirtual CD 2によって作成された仮想のCD-ROMドライブです。



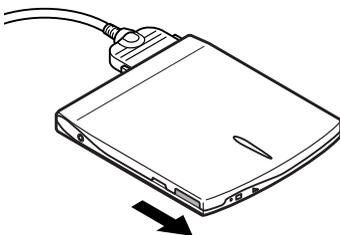
参照

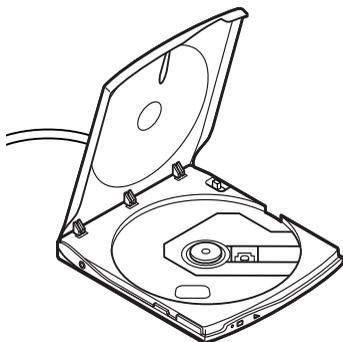
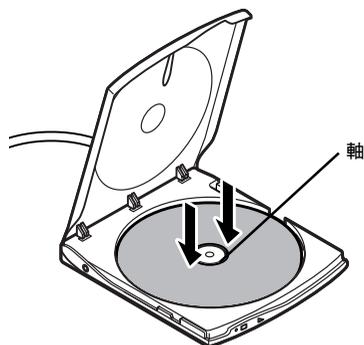
仮想CD-ROMドライブについて「添付ソフトの使い方」 「Virtual CD 2」

ディスクのセットのしかたと取り出しかた

ディスクをセットする

- 1 イジェクトスイッチをスライドする
フタが少し開きます。



2 手でフタを静かに開ける**3** ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む**4** フタをカチッと音がするまで閉じる

ディスクを取り出す

- 1** イジェクトスイッチをスライドする
フタが少し開きます。
- 2** 手でフタを静かに開けてから、ディスクを取り出す
- 3** フタをカチッと音がするまで閉じる

Easy CD Creatorを使う(CD-R/RWモデルのみ)

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能については詳しくは、ヘルプをご覧ください。



Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。

データを書き込む

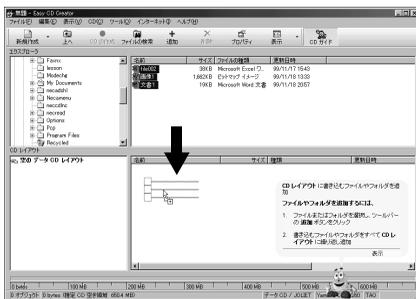
ここでは、CD-RWを使ったデータの書き込みについて説明します。はじめに、CD-RWを用意しておいてください。なお、CD-Rの場合でも同様の手順で利用できます。その際はCD-RWをCD-Rに読み替えてください。

- 1 CD-RWをCD-R/RWドライブにセットする
「作成したいCDの種類を選択してください。」というウィンドウが自動的に開いた場合は、ウィンドウ右下の「x」のイラストをクリックしてウィンドウを閉じてください。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Adaptec Easy CD Creator 4」 「Features」 「Easy CD Creator」をクリックする
- 3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる



Copyright © 1999 Adaptec, Inc. All rights reserved

- 4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする
書き込むデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。



画面は多少異なる場合があります。



メモ

- ・ファイル名を選んだ後、**+** **追加** (追加) ボタンを押しても同様の操作ができます。
- ・書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順3~4をくりかえしてください。
- ・下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで **×** **削除** (削除) ボタンをクリックしてください。

- 5 **CDの作成** (CDの作成) ボタンをクリックする

- 6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする
書き込みを開始します。

- 7 書き込み終了後、「OK」ボタンをクリックする

- 8 画面右上の **×** ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する
「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。
書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」をクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-RWに書き込む場合は、「はい」をクリックして保存してください。

DirectCDを使う(CD-R/RWモデルのみ)

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができますので、データのバックアップなどに適しています。ここでは、DirectCDを使ってCD-RWまたはCD-Rにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。そのほかの機能や使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。

準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RWまたはCD-Rを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」(p.41)の手順でデータの書き込みを行ってください。

1 CD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットする

「作成したいCDの種類を選択してください。」というウィンドウが自動的に開いた場合は、ウィンドウ右下の「x」のイラストをクリックして、ウィンドウを閉じてください。フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」(p.41)の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。

2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Adaptec DirectCD」 「DirectCD ウィザード」をクリックする

Adaptec DirectCD ウィザードの画面が表示されます。

3 「次へ」をクリックする

レコーダ情報の画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする

CDのフォーマットの画面が表示されます。

5 「次へ」をクリックする

CD名を付ける画面が表示されます。

6 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする

CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。

7 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする

フォーマットがはじまりますので、そのまましばらくお待ちください。フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

CD-R/RWDドライブのウィンドウが自動的に開いた場合は、 ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

DirectCDで書き込む

1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-R/RWDドライブにセットしていない場合はセットする

「CDの準備ができました」と表示されます。

2 「OK」ボタンをクリックする**3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む**

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出しかたが異なります。

CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-RをほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

1 CD-R/RWDドライブのイジェクトボタンを押す

「CDの取り出し」の画面が表示されます。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ

次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がになっていることを確認してください。

ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」のをにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」をにしてください。



メモ

「Windows 95/98、Windows NT 4.0 (SP3以上) およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」を選んで取り出した後、再度DirectCDで書き込みを行いたい場合は、を右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

3 「完了」ボタンをクリックする

「CDは取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。

4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする



チェック

書き込んだCD-Rを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-Rを読み出すことはできません。

5 CD-R/RWドライブからCD-Rを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

CD-RWを取り出す

1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

しばらくすると、「CDは取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする



チェック

書き込んだCD-RWを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-RWを読み出すことはできませんので注意してください。

3 CD-R/RWドライブからCD-RWを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

液晶ディスプレイ

画面表示を調整する

キーボードの【Fn】を使うと、次のような表示の調節ができます。

| 機能 | キー操作 | 説明 |
|---|-----------|---|
| ディスプレイ切り替え ( / ) | 【Fn】+【F3】 | 別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります(p.152) |
| 輝度を上げる() | 【Fn】+【F7】 | キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階) |
| 輝度を下げる() | 【Fn】+【F8】 | キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階) |

表示するディスプレイを変更する

このパソコンは、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタなどに画面を表示することもできます。



参照

別売のディスプレイやプロジェクタの接続 PART4の「外部ディスプレイを使う」(p.150)

表示できる解像度と表示色



メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

このパソコンの液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

| 解像度 (ドット) | 表示色 | 液晶 ディスプレイ のみに表示 | 別売の ディスプレイ のみに表示 | 液晶 ディスプレイ と別売の ディスプレイ の同時表示 ^{1 3} |
|---------------|----------------------|-----------------------|------------------------|--|
| 640 × 480 | 16色 | | | |
| | 26万色中256色 | | | |
| | 65,536色 | | | |
| | 1,677万色 ² | | | |
| 800 × 600 | 26万色中256色 | | | |
| | 65,536色 | | | |
| | 1,677万色 ² | | | |
| 1,024 × 768 | 26万色中256色 | | | |
| | 65,536色 | | | |
| | 1,677万色 ² | | | |
| 1,280 × 1,024 | 26万色中256色 | | | |
| | 65,536色 | | | |
| | 1,677万色 ² | | | |

: フルスクリーン表示可能

: バーチャルスクリーン(p.46)でのみ表示可能

1: 別売CRT未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

2: このパソコンの液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現

3: 別売のCRTへは解像度、表示色によらず水平走査周波数48.8KHz、垂直走査周波数60Hz (1,024 × 768、60Hz相当)で出力されます。ご使用になる別売のディスプレイのマニュアルで対応している走査周波数や解像度を確認してください。

解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。



- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「画面の領域」または「色」を変更する

画面の領域を変更する場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色を変更する場合

「色」で  をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。



メモ

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、1,280×1,024ドットの高精細度をディスプレイの画面上に表示するための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。



メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 検索方法で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選び、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「標準モニターの種類」から「Super VGA 1280×1024」をクリックする
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これで設定が完了しました。

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。設定したあとは、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640 × 480ドット / 800 × 600ドット / 1,024 × 768ドット / 1,280 × 1,024ドット



チェック

画面回転機能使用時は、バーチャルスクリーンモードは利用できません。

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチとは、640 × 480ドットまたは800 × 600ドットの低解像度で表示しているときに、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能の設定方法



チェック

ディスプレイストレッチ機能を使う設定にするには、あらかじめ、液晶ディスプレイの解像度を640 × 480ドットまたは800 × 600ドットにしておく必要があります。

- 1 画面右下のインジケータ領域(タスクトレイ)にあるSMIアイコンをダブルクリックする
または「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「Lynx3DM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「ストレッチ」で、「オン」をクリックしてにする
- 3 「OK」ボタンをクリックする
これで拡大表示が行われます。



チェック

・画面回転機能使用時は、ディスプレイストレッチ機能は利用できません。

画面回転機能

画面回転機能を使うと画面を90度、180度、270度に回転させることができます。例えば、液晶ディスプレイをいっぱいに開き、表示されている画面を180度回転させることにより、向かい側にいる人にプレゼンテーションを行うことができます。

画面回転機能の設定方法

チェック

- ・ バーチャルスクリーン機能使用時は、画面回転機能は利用できません。
- ・ ディスプレーストレッチ機能使用時は、画面回転機能は利用できません。
- ・ 液晶ディスプレイの解像度や表示色の設定によって、回転できる角度が異なります。

| 解像度(ドット) | 表示色 | 90度、270度回転 | 180度回転 |
|-------------|---------|------------|--------|
| 640 × 480 | 256色 | ○ | ○ |
| | 65,536色 | ○ | ○ |
| | 1677万色 | × | × |
| 800 × 600 | 256色 | ○ | ○ |
| | 65,536色 | ○ | ○ |
| | 1677万色 | × | × |
| 1,024 × 768 | 256色 | ○ | ○ |
| | 65,536色 | ○ | × |
| | 1677万色 | × | × |

○:回転可能

×:回転不可

- 1 画面右下のインジケータ領域(タスクトレイ)にあるSMIアイコンをダブルクリックする
または「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「Lynx3DM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「回転」で、「オン」をクリックしてにする
- 3 「OK」ボタンを押す
「回転の設定」ウィンドウが表示されます。
- 4 90度、180度、270度の中から希望の角度をクリックし、「OK」ボタンをクリックする
画面が希望の角度に回転します。



解像度や表示色の設定によっては、メッセージが表示され、画面を回転できない場合があります。回転可能な解像度と表示色に変更し、再度設定してください。

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ機能はWindows 98の機能です。
デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広がります。



メモ

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのは別の機能です。



チェック

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。



参照

別売のCRTディスプレイなどを接続するには PART4の「外部ディスプレイを使う」(p.150)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる
- 2 パソコンの電源を入れる
- 3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 4 「Lynx3DM」タブをクリックする
「ディスプレイの切り替え」欄に、「LCD」「CRT」「TV」の接続状態が表示されます。

5 「CRT」の「オン」をクリックして、 にする
CRTへの表示がオンになります。

6 「OK」ボタンをクリックする



チェック

接続した別売のディスプレイの電源が入っていないと、エラーメッセージが表示されてデュアルディスプレイ機能を利用することができません。

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 画面2の絵をクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。
- 4 「はい」ボタンをクリックする
- 5 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができますようになります。

デュアルディスプレイ機能を解除する

- 1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1、2を行う
- 2 画面2の絵を右クリックする
- 3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

バッテリー

バッテリーのみで使う

このパソコンは、ACアダプタを使用せずにバッテリーだけで駆動することができます。バッテリーだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。



参照

省電力機能について このPARTの「省電力機能」(p.64)

バッテリーの上手な使いかた

残量精度を良くするには

定期的にバッテリーリフレッシュを実行してください。

バッテリーの寿命を長くするには

本機を長期間使わないときは、バッテリー残量を50%程度にして、バッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管してください。



メモ

バッテリーは自然放電していますので、使用していない場合でも2~3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリーを充電する



チェック

- ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

バッテリーの充電のしかた

バッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電がはじまります。

パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリーは充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。



参照

バッテリーの充電時間について PART7の「機能一覧」(p.224)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます (p.5)

| 充電状態 | バッテリー充電ランプ() |
|--------------|---|
| バッテリー充電中 | オレンジ点灯 |
| セカンドバッテリー充電中 | 緑点灯 |
| 充電完了(フル充電) | 消灯 |

別売のセカンドバッテリー(PC-VP-BP11)接続時のみ

バッテリーの残量を確認する

バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

インジケータ領域(タスクトレイ)にある  の上にポインタを合わせる



アイコンはバッテリーの残量により異なります。

インジケータ領域(タスクトレイ)の  をダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る



「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る



メモ

ACコンセントから電源を供給しているときは、 は  に変わります。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ  が黄色に点灯します。この場合は、次の操作を行ってください。次の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(p.69)になります。

ACコンセントから電源を供給する

いったんパソコンの電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ()が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。

ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。



チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーのみで使用中にバッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーのみで使用している場合、バッテリー残量が少なくなったとき、どのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少ないときと、バッテリー残量がわずかなときに、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「アラームの動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
バッテリー低下アラームとバッテリー切れアラームの設定値は、8%、3%未満に設定しても、それぞれ8%、3%で動作します。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーは使用しているうちに、徐々に画面表示されている残量と実際の残量にずれが生じることがあります。

次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

購入直後や、長期間の放置で、バッテリーの性能が一時的に低下した

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 バッテリーパックをすでに取り付けている場合は、一度バッテリーパックを本体から取り外して、再度取り付ける
バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける(p.62)
- 4 電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 5 【 】または【 】で「バッテリーリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す
- 6 「バッテリーリフレッシュを行いますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
次ような画面が表示されます。



- 7 【 】または【 】で「Continue Battery Refresh」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュがはじまります。
バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れますので、電源が切れるまでお待ちください。



🔍 チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ビピピと警告音が鳴ります。

📌 メモ

バッテリーリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリー使用時フル充電状態で約60分、バッテリー残量10%(Windowsでバッテリー残量少の警告が表示される程度)の状態です。

- 8 バッテリーリフレッシュが終了してパソコンの電源が切れたら、ACアダプタを接続する
バッテリーの充電がはじまるので、完全に充電されてバッテリー充電ランプ()が消えるまでお待ちください。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

- 1 【Esc】を押す
次のようなメッセージが表示されます。



- 2 【】または【】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
再起動します。

📌 メモ

バッテリーリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーリフレッシュを続ける場合はACアダプタを取り外し「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリーリフレッシュを中断して再起動します。

バッテリーパックを交換する

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプ()が消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーリフレッシュ(p.54)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

交換用のバッテリーパック

このパソコンのバッテリースロットに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- ・ PC-VP-BP09(バッテリーパック(M))
- ・ PC-VP-BP10(バッテリーパック(L))

また、バッテリースロットに取り付けたバッテリーと併用できるセカンドバッテリーに次のものがあります。

- ・ PC-VP-BP11(セカンドバッテリー(LL))



チェック

バッテリーは消耗品です。放充電をくりかえすと、充電能力が低下します。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意

使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂することがあります。

⚠注意



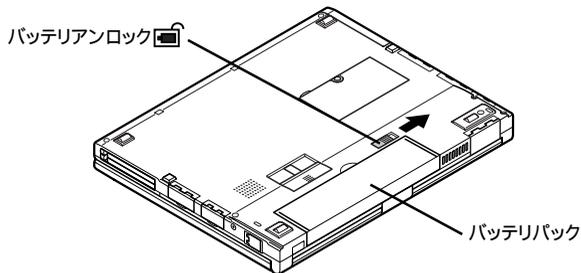
感電注意

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

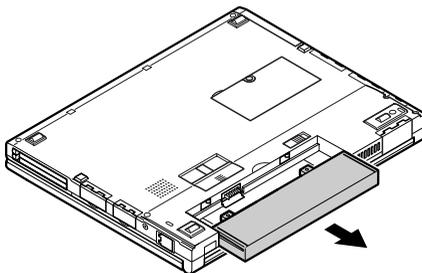
⚠️ チェック

- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(🔌)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。

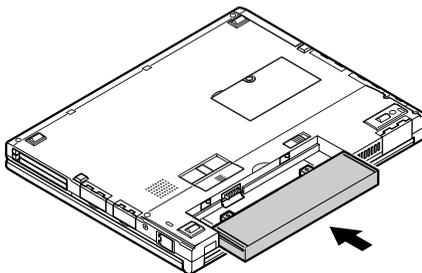
- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン「Windowsの終了」で、「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック(🔒)を矢印の方向にスライドさせる
スライドさせたままの状態、そのまま次の手順へ進んでください。



- 5** バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせる
バッテリーパックが外れます。



- 6** 新しいバッテリーパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる

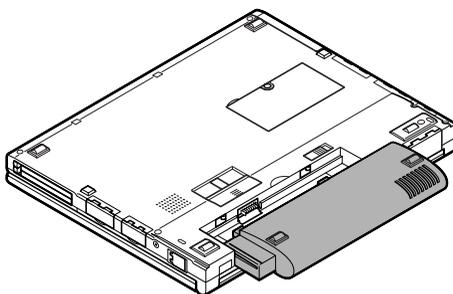


バッテリー容量を増やす

このパソコンには、添付のバッテリーパックよりも大容量のバッテリーパックをバッテリースロットに接続することができます。さらに、バッテリースロットに取り付けたバッテリーと併用できる、セカンドバッテリーを接続することもできます。

バッテリーパック(L) (PC-VP-BP10)

購入時に添付されているバッテリーパック(M) (PC-VP-BP09)よりも大容量のバッテリーパックです。取り付け / 取り外しの方法は、バッテリーパック(M)の場合と同じです。



参照

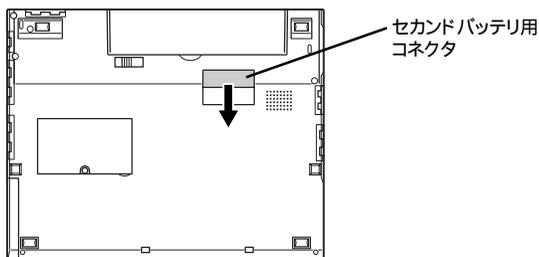
バッテリーパック(L)の取り付け / 取り外し 「バッテリーパックを交換する」(p.57)

セカンドバッテリー(LL)(PC-VP-BP11)

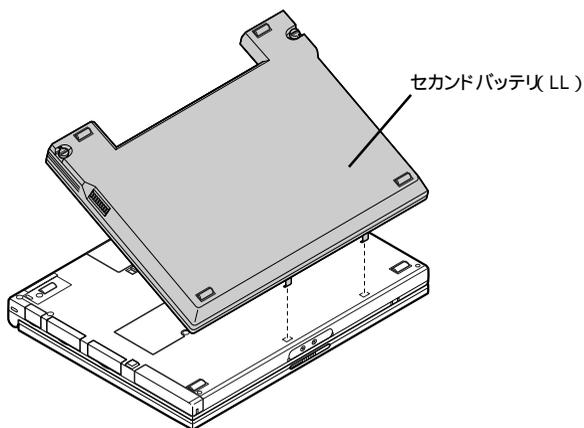
本体底面に取り付けるバッテリーパックです。バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックと併用することができます。

セカンドバッテリー(LL)の取り付け

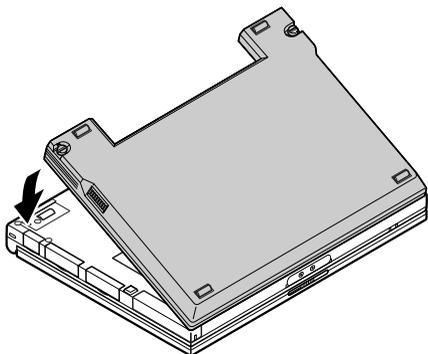
- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で、「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体底面にあるセカンドバッテリー用コネクタのフタを開ける



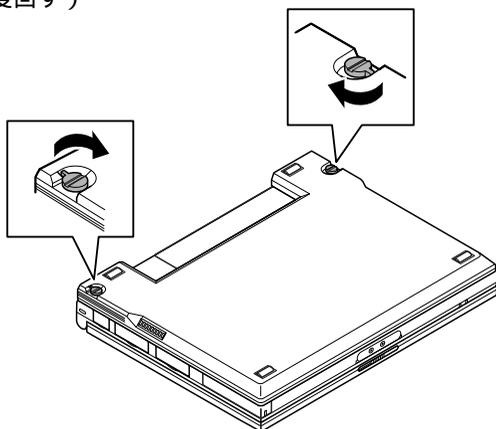
- 4 本体を裏返し、セカンドバッテリーについているツメを本体にある穴にひっかける



- 5 セカンドバッテリーのツメが本体の穴から外れないように、静かにセカンドバッテリーを下ろす



- 6 セカンドバッテリー底面にある2つのバッテリーロック / バッテリーアンロックのくぼみに硬貨を入れ、バッテリーロック  のほうに回してロックする (矢印の方向に約90度回す)

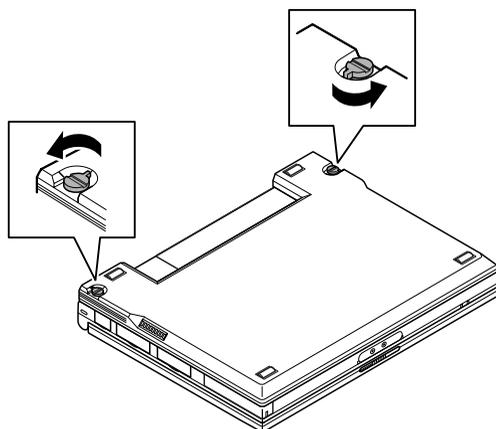


 チェック

- ・ 本体とセカンドバッテリーが離れているとバッテリーロックできない場合があります。本体とセカンドバッテリーを軽く手で押さえながら、回してください。
- ・ バッテリーロック / バッテリーアンロックの際、つめをたてないでください。つめを傷つけてしまう場合があります。

セカンドバッテリー(LL)の取り外し

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 2つのバッテリーロック / バッテリアンロックのくぼみに硬貨を入れてバッテリーアンロック  のほうに回してロックを解除する(矢印の方向に約90度回す)



- 5 セカンドバッテリーを持ち上げて、本体と離す
- 6 本体のセカンドバッテリー用コネクタのフタを閉じて、本体を元に戻す



参照

別売のバッテリーパック 「バッテリーパックを交換する (p.57)

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能

このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。



参照

スタンバイ状態にする 「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.66)

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るとは異なり、次に電源を入れるときに、Windows 98を起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。



参照

休止状態にする 「休止状態(ハイバネーション)」(p.69)



チェック

BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、一部を除き、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

省電力機能を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・赤外線通信をしているとき(赤外線アプリケーションを実行中)
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動 / 終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカードを使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- ・バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー駆動時にバッテリー残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかななどの設定もできます(p.54)。
- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- ・タイマ、FAXモデムの自動受信操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、パソコンはスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
- ・SCSI PCカードをご使用の場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。



参照

パスワード設定時の復帰 このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.78)

スタンバイ状態(サスペンド)

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックして表示される画面で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかにも、設定を行うことにより液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチをスライドしてスタンバイ状態にすることもできます。

液晶ディスプレイを閉じる



メモ

液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細」タブで、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定する必要があります。



参照

電源スイッチでスタンバイ状態にする 「電源スイッチをスライドしてスタンバイ状態にする」(p.69)



メモ

- ・ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- ・「スタート」ボタン 「設定」 「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークをはずしてください。

「電源設定」の設定をする

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。

また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「常にオン」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム/オフィス デスク」「ポータブル/ラップトップ」の3つのモードがあります。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または下段の「システム スタンバイ」や「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」でそれぞれの時間を設定する



- ・システム スタンバイ
指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
- ・モニタの電源を切る
入力が何も行われなまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
- ・ハードディスクの電源を切る
指定した時間ハードディスクへのアクセスがないとハードディスクの電源を切ります。



- ・画面の下端の「××の電源の設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。
- ・「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「システム スタンバイ」「モニタの電源を切る」「ハードディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する
- 4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。
- 6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

電源スイッチをスライドしてスタンバイ状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「詳細」タブをクリックする
- 3 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」を選ぶ
- 4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

電源スイッチをスライドする

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。



メモ

タスクスケジューラを使って時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

休止状態(ハイバネーション)

休止状態にする

電源スイッチをスライドする

液晶ディスプレイを閉じる

「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

上記の方法で休止状態にするためには、次の「休止状態を利用できるようにする」の手順を行ってください。

休止状態を利用できるようにする

電源スイッチをスライドして休止状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「休止状態」タブをクリックする
- 3 「休止状態をサポートする」の を にする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
- 5 「電源の管理のプロパティ」画面で「詳細」タブをクリックする
- 6 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンをスライドしたとき」で「休止状態」を選ぶ
- 7 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

- 1 「電源スイッチをスライドして休止状態にする」の手順1～5を行う
- 2 「電源ボタン」の欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ
- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする



メモ

- ・ ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。
- ・ 「スタート」ボタン 「設定」 「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」にチェックマークが入っていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークをはずしてください。

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

電源スイッチをスライドする

「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

休止状態の設定の解除と再設定

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルのことを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼び、購入時には、あらかじめ用意されています。その休止状態ためのファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け/取り外しを行ったり、CDドライブの圧縮/圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」で休止状態のためのファイルを作成する必要があります。

休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。



チェック

「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する

HIBEROFF

- 4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(🔌)をスライドしてパソコンの電源を切る

ハイバネーション用ファイルを削除しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。

5 5秒以上待ってから、もう一度パソコンの電源を入れる

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。



すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません。」と表示されます。

休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。



「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する

HIBERON 

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。

ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保したあと、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、パソコンに搭載されているメモリ容量 + 8Mバイトです。

- 4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(🔌)をスライドしてパソコンの電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。

- 5 5秒以上待ってから、もう一度パソコンの電源を入れる



すでに休止状態の機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイバネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

セキュリティ機能を利用すると、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するためのパスワードを設定したり、起動に必要なファイルを保護したりすることができます。



チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・パソコンの起動
- ・BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- ・スリープ状態(スタンバイ状態または休止状態)からの復帰
- ・キーボードやポインティングデバイスからの入力



チェック

- ・設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。



参照

パスワードを忘れてしまった 『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、パスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないと、パソコンを使用できなくなります。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

パスワードを設定する

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動することができなくなります。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.188)
- 2 「セキュリティセットアップ」を選ぶ
- 3 【 】または【 】で、「スーパーバイザパスワードの設定」または「ユーザパスワードの設定」を選ぶ



チェック

スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

- 4** 【Enter】を押す
パスワード設定の画面が表示されます。

- 5** パスワードを入力する



パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z（大文字 / 小文字の区別はありません）と半角数字の0～9だけです。

- 6** 【Enter】を押す

- 7** 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

- 8** 【Enter】を押す



設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(p.188)
- 2** 「セキュリティセットアップ」の「起動時のパスワード」を選ぶ
- 3** 「はい」を選ぶ
- 4** BIOSセットアップメニューを終了する

スリープ状態からの復帰時



チェック

「起動時のパスワードを「はい」に設定していないと、「レジューム時のパスワード」の設定は変更できません。

スリープ状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.188)
- 2 「セキュリティセットアップ」の「レジューム時のパスワード」を選ぶ
- 3 「はい」を選ぶ
- 4 BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」の「起動時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 パソコンの電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

Enter CURRENT Password : _

- 2 設定されているパスワードを入力する
- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。



チェック

- ・ 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ() をスライドさせて電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」の「レジューム時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる

キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が交互に点灯します。このとき、画面には何も表示されません。



メモ

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。



チェック

- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック

キーボードロックを設定すると、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

キーボードロックを設定する

- 1 パスワードが設定されているときに【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】を押す
キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が交互に点灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力をしようとする、再度ランプが点灯します。

キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

- 1 キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が交互に点灯していることを確認する
ランプが点灯していないと、パスワードを入力しても解除できません。いずれかのキーを押してランプを点灯させてください。
- 2 設定されているパスワードをキーボードから入力する
- 3 **【Enter】**を押す
正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力が可能になります。



チェック

- ・ スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと解除できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると解除できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの**【 Back Space 】**などを押しても、文字を修正することはできません。

その他のセキュリティ機能を使う

起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、パソコンを正常に起動することができなくなります。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

「起動セクタへのウイルス感染防止」の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。



参照

ハードディスク起動セクタを保護する PART6の「標準セットアップ」(p. 190)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。



参照

盗難防止用ロック このPARTの「本体の各部の名称」(p.2)



メモ

このパソコンの盗難防止用ロックは、マイクロサーバー等のセキュリティワイヤーに対応しています。この製品についてのお問い合わせは、以下のとおりです(2000年5月現在)。

日本ポラデジタル株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号 はごろもビル

Tel:03-3537-1070 Fax:03-3537-1071

ファイル転送機能

ファイル転送機能について

ファイル転送機能とは、赤外線やケーブルを使って2台のパソコン間でデータの交換を行う機能です。

IrDA SIR Data Link Std. に準拠した赤外線通信を使用する方法と、シリアルポートまたはパラレルポートをケーブルで接続してファイル転送を行う方法があります。

赤外線通信機能を利用する

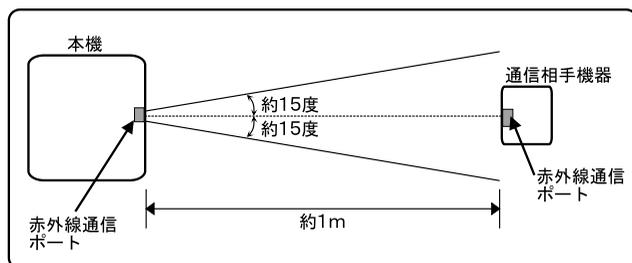
赤外線通信機能を使う準備をする

このパソコンは購入時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていません。赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。次の手順にしたがって設定を行ってください。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.188)
- 2 「周辺機器セットアップ」の「赤外線ポート」を選び、「自動」に設定するか、COM番号を直接指定する
通常は「自動」に設定することをおすすめします。
- 3 BIOSセットアップメニューを終了する
「NEC 4Mbps 内蔵赤外線ポート」が検出され、赤外線ドライバが自動的にインストールされます。
「システム設定の変更」の画面が表示されます。
- 4 「はい」ボタンをクリックする
再起動します。

赤外線通信を行うときの機器の配置

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。



- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

チェック

通信相手の赤外線がパソコンの赤外線ポートまで届かないときや、通信相手機器の通信可能距離がこのパソコンよりも短い（本機の場合は約1m以内）ときは、通信相手の機器がこのパソコンの通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面に向き合わせて、近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

こんなときは通信距離が短くなってしまうことがあります

- ・ 直射日光や蛍光灯の直下
- ・ 機器どうしが正しく向き合っていない
- ・ 他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
- ・ 赤外線通信ポートの指向性（約15度程度）の範囲を越えている

赤外線モニタについて

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行う「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使いかたについては、「コントロールパネル」を開き、「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックしてヘルプをご覧ください。

ケーブルによるファイル転送を利用する

ケーブルによるファイル転送の準備をする

ケーブルによるファイル転送を行う場合、2台のパソコンをケーブルで接続する必要があります。ケーブルは次の規則にしたがって接続してください。

- ・シリアルポートとシリアルポート、パラレルポートとパラレルポートのように、2台のパソコンの同じポートを接続する
- ・使用するポート用のクロスケーブルを使用する



チェック

このパソコンでシリアルポートを利用する場合は、別売のUSBポートバー（PK-UP012/PK-UP012N）が必要です。パラレルポートを利用する場合は、別売のフロッピーディスクドライブ / パラレル変換ケーブルが必要です。

ファイル転送を行う

ファイル転送機能には、次の3つの方法があります。

- ・「Intellisync」を使う
- ・Windows 98の「ケーブル接続」を使う
- ・Windows 98の「赤外線転送」を使う



チェック

- ・「赤外線転送」は赤外線で接続時のみ使用可能です。
- ・Windows 98の「赤外線転送」、「ケーブル接続」、「Intellisync」を同時に使うことはできません。

Intellisyncを使う

Intellisyncは、赤外線やケーブルを使ってファイルの転送を行うアプリケーションです。



参照

「Intellisync」の使いかた 「添付ソフトの使い方」 「Intellisync」

Windows 98の「ケーブル接続」を使う

「ケーブル接続」は、赤外線やケーブルを使って他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。



チェック

「ケーブル接続」で赤外線を使用してファイル転送をする場合は、「ケーブル接続」で使用するポートを選ぶとき、「仮想赤外線COMポート」を指定してください。詳しくはWindows 98のヘルプの「目次」タブ「アクセサリを使う」「通信」「ケーブル接続」をご覧ください。



参照

Windows 98のヘルプ 『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルを解決するには」

Windows 98の「赤外線転送」を使う

「赤外線転送」は2台のパソコンの間で赤外線を使ってファイルの転送を行うWindows 98の機能です。「赤外線転送」には次の3通りの方法があります。

エクスプローラを使う

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「エクスプローラ」をクリックする
- 2 送信するファイルを表示させる
- 3 送信するファイルを選び、右クリックする
- 4 「送る」「赤外線を受信側」をクリックする

ドラッグ&ドロップを使う

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」の画面が表示されます。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」「エクスプローラ」をクリックする
- 3 送信するファイルを表示させる
- 4 送信するファイルを「マイコンピュータ」の「赤外線を受信側」へドラッグ&ドロップする

マイコンピュータを使う

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」の画面が表示されます。
- 2 「範囲内にある利用可能デバイス」から送信相手のパソコンを選ぶ
- 3 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選ぶ

サウンド機能

音量を調節するには

このパソコンにはスピーカが内蔵されています。スピーカからの再生音量は、ホットキー機能や「ボリュームコントロール」を使って調節できます。「ボリュームコントロール」では、再生音量だけでなく、録音時の入力レベルなども調節できます。

ホットキー機能を使う

ホットキー機能(p.11)を使って、スピーカからの音量を簡単に調節することができます。

音量を上げる 【Fn】+【F9】

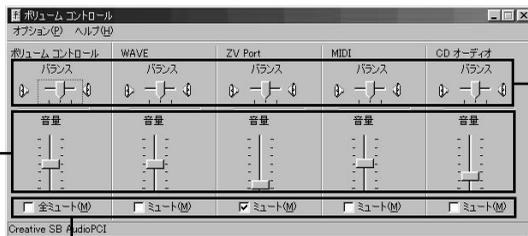
音量を下げる 【Fn】+【F10】

ボリュームコントロールを使う

ボリュームコントロールでは、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」「ボリュームコントロール」をクリックする
「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。



各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

表示される画面は、機種によって異なる場合があります。

をチェックすると消音状態になる

つまみを上下すると、音量調節ができる

2 ▾や□をドラッグして調節する



チェック

ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する（ p.45 ）か、または『プロパティ』ウィンドウの『表示するコントロール』欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの『オプション』『プロパティ』をクリックする
『プロパティ』が表示されます。



- 2 『再生』『録音』のいずれかを にする
表示項目が切り替わります。
表示される内容は、機種によって異なる場合があります。

設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は、次のようになります。

| 項目名 | 音量調整の種類 | | 機能 |
|------------------|---------|----|--|
| | 再生 | 録音 | |
| ボリュームコントロール | | | 再生するすべての音量を調整します。 |
| WAVE | | | WAVEデータなどのPCM音源の音量を調整します。 |
| ZV Port(IIS) | | | ZVポートなどからの音量を調整します。 |
| MIDI(SW Synth) | | | MIDIの音量を調整します。 |
| Phone(電話線) | | | PHSから入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。 |
| マイク音量(マイク) | | | マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。 |
| CDオーディオ | | | CDオーディオを再生、または録音するときの音量を調整します。 |
| ステレオミックス(ミキサー) | | | 録音するすべての音量を調整します。 |

その他、表示される項目については、本機では使用できません。

ビープ音量を調節する

キーボードを使ってビープ音量の調節ができます。

1 【Fn】+【F6】を押す

キーを押すごとに、ビープ音量を「なし」「小」「中」「大」に切り替えることができます。システムブザー、PCカードブザー、モデム音の調節ができます。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

このパソコンには、ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音を聞いたり、オーディオ機器にデジタル録音できます。



メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル出力されます。

- ・ WAVE出力
- ・ MIDI出力
- ・ 音楽CDの再生音
- ・ ZVポート出力

:「コントロールパネル」 「マルチメディア」の「音楽CD」タブをクリックし、「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を にすると、音楽CDの再生音を光デジタルで出力できます。

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からの出力は、次のように変更することができます。

内蔵サウンドの種類を確認する

まずは以下の手順で内蔵サウンドの種類を確かめてください。

- 1 「スタート」ボタン 「サポートセンタ」 「サポートセンタ」をクリックする
- 2 画面左下の「パソコンの情報」ボタンをクリックする
- 3 画面右下の「詳細」ボタンをクリックする
「デバイス情報」の「サウンド」にあるデバイス名を確認します。

Creative SB Audio PC(WDM)の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」をダブルクリックし、
「Creative SB AudioPC(WDM)」をダブルクリックする
- 4 「設定」タブをクリックする
- 5 「設定」項目の「アウトプットモード」でいずれかを選択し、「OK」ボタンをクリックする
各設定項目の説明は、次のようになります。

| 設定項目 | 説明 |
|------|---|
| アナログ | アナログ出力のみ行います。S/PDIF出力はされません。 |
| デジタル | S/PDIF出力のみ行います。内蔵スピーカ、ヘッドホン、およびオーディオ機器（S/PDIF入力端子なし）への音声出力はされません。 |

ESS Allegro PCI Audio(WDM)の場合

- 1 「インジケータ領域(タスクトレイ)のスピーカーアイコンをダブルクリックする
- 2 「オプション」メニューから、トーン調整を選択する
- 3 「ボリュームコントロール」画面の「トーン」ボタンをクリックする
- 4 「Enable S/PDIF(1)」をにし、「OK」ボタンをクリックする



参照

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 PART4の「その他の機器を使う」の「ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(p.170)

P A R T

2

通信機能

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話、PHS
などに接続して使う方法を説明します。

モデム

内蔵のモデムを利用する

内蔵モデムと電話回線を接続すると、「インターネットに接続する」「メールの送受信をする」「FAXの送受信をする」などができるようになります。

電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。

| 電話回線の種類 | 対処方法 |
|--------------|---|
| モジュラージャック方式 | このパソコンに付属しているモジュラーケーブルを使って接続してください。 |
| 3ピンプラグ式コンセント | そのままでは接続できません。市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。 |
| 直結配線方式 | そのままでは接続できません。モジュラージャックに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。 |

電話回線に接続する

このパソコンと電話回線とを接続するときは、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体のモジュラーコネクタと電話回線を接続してください。接続について詳しくは、『はじめにお読みください』をご覧ください。



参照

電話回線に接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続する」



メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りないときには、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。



チェック

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュージャックをパソコン以外の機器(たとえば電話機など)と共用する場合は、機器を使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方とも電話回線に接続したままにしたいときは、次の1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続するをご覧ください。

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを使用することができます。

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

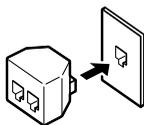
⚠注意



感電注意

モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

1 分岐アダプタをモジュージャックに接続する



2 モジュラーケーブルを、分岐アダプタの一方と内蔵モデムのモジュージャックに接続する

3 電話機と分岐アダプタのもう一方のモジュージャックを接続する



チェック

- ・分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- ・パソコンで通信中は、電話機の手話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。



分岐アダプタの2つのモジュージャックは同じものです。電話機とパソコンのどちらも接続可能です。

内蔵モデム使用上の注意

- ・このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については「サポートセンタ」をご覧ください。
- ・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・このパソコンに内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



ATコマンドについて「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。

チェック

- ・インターネット設定切替ツールは、ご購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『サポートセンタ』をご覧ください。
- ・インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報がが必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
- ・LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。

インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、起動時にアイコン化してインジケータ領域(タスクトレイ)に常駐します。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックする
次の画面が表示されます。



この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。

使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、またはをクリックして表示させてください。

メモ

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

インターネット設定切替ツールを終了するときには

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)のを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



- 2 「ボタン設定」タブをクリックする

- 3 「ダイヤルアップ」を  にする

- 4 「追加」ボタンをクリックする

- 5 新しく登録する接続名を入力して、「OK」ボタンをクリックする
ここでは例として「出張先」という名前で登録します。

- 6 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「OK」ボタンをクリックする

「新しいダイヤルアップ ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。

- 7 接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする



- 8 「OK」ボタンをクリックする
新しいダイヤルアップ情報「出張先」が登録されます。



ダイヤルアップ接続の情報を修正する
登録した情報を修正したいときは次の手順で行います。

- 1 登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする
- 2 「修正」ボタンをクリックする
- 3 表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する

LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいください。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする



- 3 「LANを使用する」をにし、「OK」ボタンをクリックする
これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができるようになります。

接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。

接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。



メモ

インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

- 1 「インターネット設定切替ツール」の「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトを にする
- 4 「OK」ボタンをクリックする
これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」(p.101)をご覧ください。

接続環境を切り替える

- 1 「インターネット設定切替ツール」を起動する



- 2 切り替える接続環境名をクリックする
または、インジケータ領域(タスクトレイ)の  を右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックする

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。



ダイヤルアップ / LAN接続

設定を行いたい接続の種類をクリックして☉にします。

接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左を☑にすると、メイン画面やインジケータ領域(タスクトレイ)からのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

ワイヤレス通信機能

ここでは、ワイヤレスインターネットモデルのみの説明をしています。

ワイヤレス通信機能を使う

ワイヤレスインターネットモデルでは、添付のワイヤレスモデムステーションと電話回線を接続しておく、ワイヤレスモデムステーションからの電波が届く範囲内であれば、どこでもインターネットやメールを利用できます。また、このパソコンと電話回線をモジュラーケーブルで接続しなくても良いので、ケーブルの長さや設置場所を気にする必要もありません。

⚠ 警告



航空機内や病院内などのPHS端末の使用を禁止された区域では、本機とワイヤレスモデムステーションの電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因となるおそれがあります。

植込み型心臓ペースメーカを装着されている方は、本機とワイヤレスモデムステーションをペースメーカ装着部から22cm以上離して使用してください。電波により影響を受けるおそれがあります。

電話回線に接続する

添付のワイヤレスモデムステーションと電話回線を接続するときは、ワイヤレスモデムステーションに添付のモジュラーケーブルを使って接続してください。



参照

電話回線に接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続する」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、ワイヤレスモデムステーションを使用した接続設定にすることは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC PIAF64K Wireless(DCXB)」を選んでください。

ダイヤル方法の設定をする

ワイヤレスモデムステーション背面の回線スイッチは、ご利用の電話回線のダイヤル方法に合わせて変更する必要があります。



参照

回線スイッチの変更について『はじめにお読みください』の「インターネットに接続する」またはワイヤレスモデムステーションのマニュアル

パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるか確認する

パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるか確認するには、次の2つの方法があります。

- ・メール着信ランプ(☑)で確認する
- ・「アンテナくん」を使って確認する

メール着信ランプ(☑)で確認する

BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」「PIAFS使用時のランプ切り替え」を「圏内」に設定すると、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかをメール着信ランプ(☑)で確認することができます。

| ランプ | 状態 |
|-----|------|
| 緑点灯 | 通信圏内 |
| 消灯 | 通信圏外 |

「アンテナくん」を使って確認する

このパソコンにインストールされている「アンテナくん」を使って、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかを、画面に表示されるアイコンの状態を確認することができます。

「アンテナくん」の基本的な使いかた

「アンテナくん」を起動して画面にアイコンを表示しておく、パソコンがワイヤレスモデムステーションから受信する電波の状態によって、アイコンの状態が変化します。アイコンの状態によって、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかを確認することができます。通信可能な圏内にある場合は、アイコンの状態によって、受信している電波の状態(強弱)を確認することができます。

表示するアイコンの種類と大きさ、アイコンを表示する場所は、設定によって変更することができます。アイコンの状態は、受信している電波の状態によって異なります。

ここでは、購入時に設定されている状態で「アンテナくん」を使う方法について説明しています。「アンテナくん」で設定できる項目については、「アンテナくん」の設定をする（ p.105 ）をご覧ください。設定を変更した後の詳しい使いかたについては、「アンテナくん」のオンラインヘルプをご覧ください。



参照

「アンテナくん」のオンラインヘルプを見る 「アンテナくん」のヘルプを見る（ p.106 ）

購入後、はじめて「アンテナくん」を使うときは、セットアップが必要です。セットアップを行うときは、次の「アンテナくん」をセットアップするをご覧ください。

「アンテナくん」をセットアップする

次の手順は、購入後はじめて「アンテナくん」を使うときのみ必要です。

- 1 デスクトップにある  をダブルクリックする
- 2 「アンテナくん セットアップへようこそ」と表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
- 3 「インストール先の選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンを押す
- 4 「プログラム フォルダの選択」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
セットアップが始まります。
- 5 「セットアップの完了」画面が表示されたら「完了」ボタンをクリックする
「セットアップの完了」画面が消えたら、セットアップは完了です。

「アンテナくん」を起動する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」「アプリケーション」「アンテナくん」をクリックする
デスクトップに  が、インジケータ領域（タスクトレイ）に  が表示されます。
ここで表示される  は、電波の状態がきわめて良好な状態を示しています。

「アンテナくん」を終了する

- 1 デスクトップにある  を右クリックする
- 2 表示されたメニューから「終了」をクリックする
「アンテナくん」が終了して、デスクトップから  が、インジケータ領域 タスク
トレイから  が消えます。

電波の状態を確認する

画面に表示される「アンテナくん」のアイコンは、パソコンがワイヤレスモデムから受信する電波の状態によって、次のように変化します。

| アイコンの状態 | 電波の状態 |
|--|--|
|  (測定不能) | 測定不能な状態を表しています。 |
|  (通信中) | 通信アプリケーションがワイヤレス通信機能を使用している状態を表しています。 |
|  (圏外) | パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内がない状態を表しています。 |
|  (電波弱) | 悪い状態を表しています。 |
|  (電波中) | やや悪い状態を表しています。 |
|  (電波強) | 良好な状態を表しています。 |
|  (電波極強) | きわめて良好な状態を表しています。 |

他の通信アプリケーション(「ワイヤレスフォン」など)を起動している場合にも「通信中」が表示されます。この場合には通信アプリケーションを終了してください。

「アンテナくん」の設定をする

表示するアイコンの種類や、アイコンを表示する位置など、「アンテナくん」をより使いやすく設定することができます。

- 1 「アンテナくん」を起動する (p.104)
- 2 デスクトップにある  を右クリックする
- 3 表示されたメニューから、次の項目を選んで設定を行う。
 - ・「最小化」
 - ・「常に手前に表示」
 - ・「位置を固定する」
 - ・「最小化時の機能設定」
 - ・「機能の設定」
 - ・「画像の設定」
 - ・「サイズの設定」

設定する項目について詳しくは、「アンテナくん」のオンラインヘルプをご覧ください。



参照

「アンテナくん」のオンラインヘルプを見る 次の「アンテナくん」のヘルプを見る」

「アンテナくん」のヘルプを見る

- 1 「アンテナくん」を起動する(p.104)
- 2 デスクトップにある  を右クリックする
- 3 表示されたメニューから、「ヘルプ」「目次」をクリックする
「アンテナくん」のオンラインヘルプが起動し、起動画面が表示されます。

ワイヤレス通信機能を使用するときの注意

- ・このパソコンとワイヤレスモデムステーションは、電波を用いて通信を行います。周囲の電波状況により、ワイヤレスモデムステーションの電波を受信できなかったり、正常に通信ができない場合がありますので、次の点に注意してください。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションの通信距離は、見通し距離で約100m以内ですが、周囲の環境や建物の構造によっては通信距離が短くなります。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションは、他の機器（電気機器、AV機器、OA機器、デジタルコードレス電話機、無線を使用するターミナルアダプタなど）を使用している環境では影響を受けやすいため、まれにワイヤレスモデムステーションの電波を受信できなかったり、通信ができない場合があります（メール着信ランプ（）が消灯状態になります）。その場合は、数分待ってから通信を行ってください。それでも通信ができない場合は、他の機器から距離を離してください。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションの近くでは、無線を使用する機器（デジタルコードレス電話機、FAX、ターミナルアダプタ、ホームアンテナなど）を同時に4台以上使用しないでください。
- ・ワイヤレスモデムステーションとパソコンの距離が近すぎると、通話にノイズが入ったり、データ通信でエラーが発生する場合があります。
- ・アナログ回線の状態が悪い場合は、通信の途中で切断される可能性があります。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合は、ATコマンドが必要です。



参照

- ・ATコマンドについて「サポートセンター」「パソコンを使いこなそう」「ハードウェア情報」「ATコマンド一覧」

お使いの構内交換機によっては、外線発信番号のダイヤル間隔に対応できない場合があります。その場合は、外線発信番号の必要がない回線を使用してください。

ワイヤレス通信機能を活用する

ワイヤレスモデムステーションとこのパソコンとは、親機（ワイヤレスモデムステーション）と子機（パソコン）の関係になっています。親機として別売のワイヤレスモデムステーションを追加したり、子機としてワイヤレス通信機能のあるパソコンを追加することで、さらにワイヤレス通信機能を活用することができます。

親機に子機を追加登録する

添付のワイヤレスモデムステーションには、このパソコンが子機としてあらかじめ登録されています。ワイヤレスモデムステーションに、別売のワイヤレス通信機能のあるパソコンなどを追加登録すると、ワイヤレスモデムステーションを介して、このパソコンと追加登録したパソコンとの間でワイヤレスにデータの転送が可能になります。



メモ

ワイヤレスモデムステーションに子機を追加登録するには、「無線の増設登録（有料）」が必要です。ご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などに相談してください。



参照

ワイヤレスモデムステーションに子機を追加登録する 添付のワイヤレスモデムステーションのマニュアル

ワイヤレスでデータを転送する

このパソコンと追加登録した別売のパソコンとの間でワイヤレスにデータの転送を行うには、次の手順が必要です。

2台あるパソコンは、1つをサーバ側、もう1つをクライアント側として設定します。データ通信するための接続が完了すると、相互にデータの転送が可能になります。

サーバ側のパソコンの設定をする

サーバ側のパソコンの設定は、次の手順で行います。

- 1 .サーバ側のパソコンをサーバとして使用可能な状態にする
- 2 .ファイルを共有できるようにする
- 3 .サーバのコンピュータ名を設定する
- 4 .フォルダを共有できるようにする
- 5 .サーバを待機状態にする

1 .サーバ側のパソコンをサーバとして使用可能な状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
「アプリケーションの追加と削除」の画面が表示されます。
- 2 「Windows ファイル」タブをクリックする
- 3 「ファイルの種類」欄の「通信」をクリックして、「詳細」ボタンをクリックする
- 4 表示された「ファイルの種類」から「ダイヤルアップ サーバー」を☑にする
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 「適用」ボタンをクリックする
ファイルのコピーがはじまります。

2 .ファイルを共有できるようにする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ネットワーク」の画面が表示されます。



CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンス
トモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行って
ください。

- 2 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックする
「ファイルとプリンタの共有」の画面が表示されます。
- 3 「ファイルを共有できるようにする」をにする
- 4 「OK」ボタンをクリックする

3 .サーバのコンピュータ名を設定する

- 1 「ネットワーク」の画面で「識別情報」タブをクリックする
- 2 「コンピュータ名」にサーバのコンピュータ名を入力する
サーバの名前は、あとで設定するクライアントの名前とは異なるものに設定して
ください。
- 3 「OK」ボタンをクリックする

4 .フォルダを共有できるようにする

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「エクスプローラ」をクリックする
「エクスプローラ」の画面が表示されます。
- 2 共有したいフォルダをクリックする
- 3 「ファイル」メニュー 「共有」をクリックする
- 4 「共有する」をにして、「OK」ボタンをクリックする
必要に応じて、アクセス権を設定してください。

5 .サーバを待機状態にする

- 1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「接続」メニュー 「ダイヤルアップサーバー」をクリックする
「ダイヤルアップサーバー」の画面が表示されます。
- 3 モデムが複数インストールされている場合は、それぞれのモデムのタブが表示されるので、「NEC PIAF64K Wireless(DCXB)」を選ぶ
- 4 「着信する」を にする
- 5 「サーバーの種類」ボタンをクリックする
「サーバーの種類」画面が表示されます。
- 6 「ダイヤルアップサーバーの種類」で「PPP: インターネット、Windows NT Server、Windows 98」を選ぶ
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

クライアント側のパソコンの設定をする

クライアント側のパソコンの設定は、次の手順で行います。

- 1 .ファイルを共有できるようにする
 - 2 .クライアントのコンピュータ名を設定する
 - 3 .新しい接続先を作成する
 - 4 .サーバ側のパソコンと接続する
 - 5 .サーバ側のパソコンを検索する
-
- 1 .ファイルを共有できるようにする
 - 1 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ネットワーク」の画面が表示されます。
 - 2 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックする
「ファイルとプリンタの共有」の画面が表示されます。
 - 3 「ファイルを共有できるようにする」を にする

4 「OK」ボタンをクリックする

2. クライアントのコンピュータ名を設定する

1 「ネットワーク」の画面で「識別情報」タブをクリックする

2 「コンピュータ名」にクライアントのコンピュータ名を入力する クライアントの名前は、先に設定したサーバの名前とは異なるものに設定してください。

3 「OK」ボタンをクリックする

3. 新しい接続先を作成する

1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする 「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。

2 「新しい接続」アイコンをダブルクリックする 「新しい接続」の画面が表示されます。

3 「接続名」と「モデムの選択」で「NEC PIAF64K Wireless(DCXB)」を選ぶ

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「電話番号」の欄に、サーバの内線番号を入力する 購入時には、このパソコンの内線番号は「91」に設定されています。このパソコンをサーバ用のパソコンとして設定している場合は、「電話番号」の欄に「#*91PF」を入力します。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「完了」ボタンをクリックする

4. サーバ側のパソコンと接続する

1 作成した接続先のアイコンを右クリックして、プロパティを選ぶ

2 「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」を にし、「OK」ボタンをクリックする

- 3 作成した接続先のアイコンをダブルクリックする
作成した接続先の画面が表示されます。
- 4 「電話番号」の欄が設定した電話番号(「#*」+内線番号+「PF」)になっていることを確認する
- 5 「接続」をクリックしてサーバ側のパソコンにダイヤルアップする

5.サーバ側のパソコンの共有フォルダを検索する

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリックする
「エクスプローラ」の画面が表示されます。
- 2 「ツール」メニュー 「検索」 「ほかのコンピュータ」をクリックする
「検索:コンピュータ」の画面が表示されます。
- 3 「名前」欄にサーバのコンピュータ名を入力して「検索開始」ボタンをクリックする
- 4 サーバ側のパソコンを見つけたら、アイコンをダブルクリックする
共有フォルダが表示されます。

これで、サーバ側とクライアント側のパソコンとで相互間のデータ転送が可能になります。

親機(ワイヤレス通信機器)を増やす

複数の電話回線を利用できる環境にあるときは、親機を増やすことができます。
このパソコンを子機として複数の親機に登録することができます。

利用できる環境には、次の機器があります。

- ・ Aterm WM56
- ・ Aterm IW50/D



メモ

このパソコンを別売の親機に追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。ご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などに相談してください。

通信速度を変更する

購入時には、ワイヤレスモデムステーションの通信速度は64kbpsに設定されています。通信速度を32kbpsに変更したいときは、「ダイヤルアップの接続」画面の電話番号の最後に「PF」を追加してください。

ワイヤレスフォンを使う

ワイヤレスフォンでは、このパソコンと添付のワイヤレスモデムステーションを使って電話をかけたり受けたりし、パソコンを電話機のように使うことができます。ワイヤレスフォンでの相手との通話には、別売のヘッドセットを使用してください。また、添付のワイヤレスモデムステーションに子機としてパソコンを追加登録してある場合は、登録してあるパソコン間で内線電話として使うこともできます。機能や使いかたについて詳しくは、ワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。



メモ

ワイヤレスフォンのヘルプは、ワイヤレスフォンの画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。



チェック

このパソコンでワイヤレスフォンを使って電話をかけたり受けたりするためには、別売のヘッドセット(ヘッドホン付きマイクロホン) PK-SU004またはPK-SU005)が必要です。なお、ヘッドセット使用中は、内蔵マイクロホンや内蔵スピーカの機能は使用できなくなります。

ワイヤレスフォンを使用するときの注意

- ・ワイヤレスフォンで回線接続した後に、FAXやインターネット、メールなどのデータ通信に移行することはできません。他のアプリケーションでデータ通信してください。
- ・このパソコンに接続した電話機で電話をかけて通話しているときに、その通話をワイヤレスフォンに切り替えることはできません。
- ・ワイヤレスフォンを使って通話中は、このパソコンをスタンバイ状態にすることはできません。
- ・ワイヤレスフォンには留守録、保留、いたずら電話などの撃退、リモートでの操作の機能はありません。また、ナンバーディスプレイには対応していません。
- ・ワイヤレスフォンで通話中に、ワイヤレス通信機能を使用する他の通信ソフトは使用できません。他の通信ソフトを使用するときは、ワイヤレスフォンでの通話を終了してください。
- ・内線からの0発信はできません。
- ・ワイヤレスフォンではFAXの送受信はできません。FAXを送受信するときは、内蔵FAXモデムを使用する添付のFAX-NXを利用してください。

ワイヤレスフォンの起動と終了

起動する

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「ワイヤレスフォン」をクリックする
次のような画面が表示されます。



| 名称 | 機能 |
|------------|---------------|
| RING点滅部 | RING検出時に緑色に点滅 |
| 情報表示パネル | 日付や通話時間などを表示 |
| 「設定」ボタン | 設定画面を表示 |
| 「アドレス」ボタン | アドレス帳を起動 |
| 「切断」ボタン | 通話の切断 |
| 「クリア」ボタン | ダイヤル入力 of の消去 |
| 「数字」ボタン | 電話番号の入力 |
| 「リダイヤル」ボタン | リダイヤル |
| 「ダイヤル」ボタン | 電話をかける / 受ける |
| 「ヘルプ」ボタン | ヘルプを表示 |

終了する

- 1 「ワイヤレスフォン」の画面右上の をクリックする

ワイヤレスフォンの設定をする

ワイヤレスフォンを使う前の基本設定をする

- 1 「ワイヤレスフォン」で「設定」ボタンをクリックする
「電話のプロパティ」画面が表示されます。

2 各種の設定を行う



「既定値に戻す」ボタン

クリックすると、設定を購入時の初期状態に戻します。

回線デバイス

ワイヤレスフォンを使用している場合は、内蔵のワイヤレス通信機能のドライバ名が表示されます。

RING検出時に画面を元に戻して表示

ワイヤレスフォンをアイコン表示にしているときに電話がかかってきた場合、ワイヤレスフォン画面を通常のサイズに戻して表示します。

「ツータッチダイヤルの設定」ボタン

クリックすると、ツータッチダイヤルの登録を行うことができます。

設定方法について詳しくはワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。ワイヤレスフォンのヘルプは、ワイヤレスフォンの画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。

ワイヤレスフォンで電話をかける

電話をかける

ワイヤレスフォンで電話をかける場合には、次のような方法があります。

ワイヤレスフォン画面の数字ボタンでダイヤルする

- 1 「数字」ボタンを使って、相手先の電話番号を入力する
情報表示パネルに入力した電話番号が表示されます。
電話番号はキーボードから入力することもできます。
- 2  「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

アドレス帳からダイヤルする

あらかじめアドレス帳に相手先の電話番号などを入力しておく、電話をかけるときにアドレスから電話番号を選んで電話をかけることができます。

- 1  「アドレス」ボタン をクリックする
アドレス帳が表示されます。
- 2 表示されたアドレス帳で相手先の電話番号をクリックする
ワイヤレスフォン画面の情報表示パネルに相手先の電話番号が表示されます。
- 3  アドレス帳の「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

ツータッチダイヤルからダイヤルする

ツータッチダイヤルに相手先の電話番号を登録しておく、登録したID番号をクリックした後に、 「ダイヤル」ボタン をクリックするだけで、電話をかけることができます。

- 1 「数字」ボタンを使って、登録してあるID番号を入力する
- 2  「ダイヤル」ボタン をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。



メモ
ツータッチダイヤルの登録は、ワイヤレスフォン画面の「設定」ボタンをクリックすると表示される「電話のプロパティ」画面の「ツータッチダイヤルの設定」ボタンをクリックして行います。登録のしかたについて詳しくは、ワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。

通話が終わったら

- 1  「切断」ボタン をクリックする



相手が電話を切っても自分側は通話状態のままなので、通話が終わったら  「切断」ボタン をクリックして電話を切ってください。

リダイヤルする

- 1 「リダイヤル」ボタン をクリックする

前回ダイヤルした電話番号が情報表示パネルに表示されます。

- 2  「ダイヤル」ボタン をクリックする

相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。



リダイヤルの履歴情報は、過去1件のみです。また、履歴情報は保存されるので、ワイヤレスフォンを終了しても消去されません。

ワイヤレスフォンで電話を受ける

電話を受ける

電話がかかってくると、画面左上にある  (RING点滅部) が緑色に点滅します。

- 1  (RING点滅部) が緑色に点滅したら、  「ダイヤル」ボタン をクリックする

通話ができるようになります。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

通話が終わったら

- 1  「切断」ボタン をクリックする



相手が電話を切っても自分側は通話状態のままなので、通話が終わったら  「切断」ボタン をクリックして電話を切ってください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、このパソコンの内蔵モデムやワイヤレスモデムステーションの通信設定を簡単に切り替えることができます。



参照

インターネット設定切替ツールの使いかた 「インターネットへの通信環境を切り替える」(p.97)

PHS インターフェイス

ここでは、ワイヤレスインターネットモデルのみの説明をしています。

PHSと接続する

このパソコンには、PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブルが添付されています。添付のケーブルを使ってNTTドコモまたはアステルのPHSと接続し、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。接続できるPHSの機種については、NECのホームページ(98Information)をご覧ください。

<http://www.nec.co.jp/98/>



メモ

- ・PIAFSとは、PHS Internet Access Forum Standardの略称で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。
- ・このパソコンのPHSインターフェイスにPHSを接続してインターネットや電子メールをご利用になるには、お使いになっているPHSと、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントがPIAFSに対応している必要があります。PIAFSに対応していれば、PHSのデジタル通信回線(32kbps、64kbps)を利用して、高速な通信を行うことができます。ご利用のプロバイダやパソコン通信会社にご確認ください。

このパソコンにPHSを接続する方法は次のとおりです。

1 本体や周辺機器の電源を切る

パソコンの電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。プリンタなどの周辺機器をつないでいる場合、すべての周辺機器の電源コードのプラグとACアダプタをコンセントから抜いてください。

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

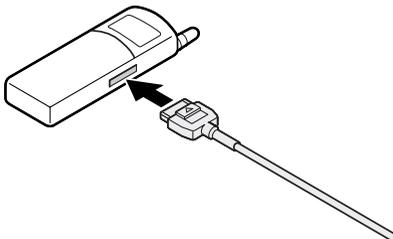
⚠ 注意



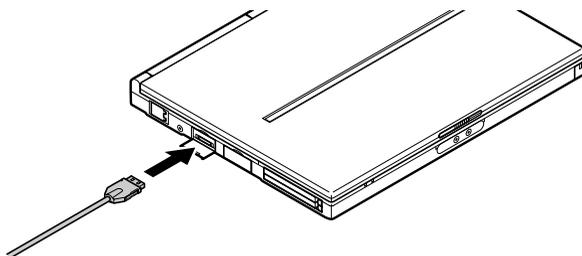
感電注意

モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 2** PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブルの小さいほうのコネクタを、PHS本体に接続する
コネクタの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。



- 3** パソコンの左側面のPHSインターフェイス()に、もう一方のコネクタを  マークがある方を上にして接続する
コネクタの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



PHSインターフェイス使用上の注意

・ PHS接続時は、ワイヤレス通信機能を使ってダイヤル発信をすることができません。ワイヤレス通信機能を使ってダイヤル発信する場合は、次の設定が必要です。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
「モデムのプロパティ」が表示されます。
- 2** 「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)」を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 3** 「接続」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

4 「接続の詳細設定」の「追加設定」の欄に「S143=1」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

5 「OK」ボタンをクリックする

6 「閉じる」ボタンをクリックする

- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

- ・PHSを取り外す場合は、パソコンの電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、すべての周辺機器の電源コードのプラグとACアダプタをコンセントから抜いてください。

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、PHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)」を選んでください。



チェック

お使いのPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、PHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

PHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールをご利用になる場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。



メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

このパソコンに添付されている、「インターネット設定切替ツール」を使って、モバイルする場所にあわせて最適な設定へ簡単に切り替えることができます。ご購入時の状態では、「インターネット設定切替ツール」はインストールされていません。「インターネット設定切替ツール」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。



参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール方法 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。外出先でも快適にモバイルするために、以下の説明を読んで必要な設定を行ってください。

外出先に最も近いアクセスポイントをあらかじめ調べておく

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントを登録する
外出先に最も近いアクセスポイントを設定します。BIGLOBE会員の方は、「BIGLOBEかんたん設定ナビ」で最も近いアクセスポイントを設定することができます。

「インターネット設定切替ツール」で接続先を切り替える

これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。



メモ

- ・アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることとなります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・「BIGLOBEかんたん設定ナビ」でアクセスポイントを変更する 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「BIGLOBEかんたん設定ナビ」



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた 「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

設定を元に戻す

外出先でインターネットやメールを楽しんだあとは、変更した設定を元に戻す必要があります。

外出時にインターネット接続に関する設定を変更しなかった場合は、そのままインターネットやメールを楽しめます。

インターネット接続の設定を元に戻す
「インターネット設定切替ツール」でインターネット
接続の設定を自宅の設定に戻します。

自宅のインターネット接続の設定を「インターネット設定切替ツール」に登録していない場合は、p. 122のフローチャートを参考にして、「インターネット設定切替ツール」に自宅でのインターネット接続の設定を登録してください。



参照

インターネット設定切替ツール 「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

携帯 / PHS インターフェイス

ここでは、携帯 / PHSモデルのみの説明をしています。

携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンには、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルが添付されています。添付のケーブルを使ってNTTドコモ、DDIセルラーグループ、IDQ、ツーカーグループ、J-PHONEの携帯電話と接続し、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

接続できる携帯電話またはPHSについてはNECのホームページ(98Information)をご覧ください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

別売のPHS接続用ケーブルや携帯電話接続用ケーブルを使うと、PHSや上記以外の携帯電話と接続することもできます。

使用できる携帯電話 / PHS接続用ケーブル(別売)

このパソコンに接続できる別売のPHS接続用ケーブルや携帯電話接続用ケーブルは次のとおりです。

- ・ cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK02)
- ・ PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK03)
- ・ PHS(DDI ポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK04)

接続の方法

このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は次のとおりです。

1 本体や周辺機器の電源を切る

パソコンの電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。プリンタなどの周辺機器をつないでいる場合、すべての周辺機器の電源コードのプラグとACアダプタをコンセントから抜いてください。

⚠警告



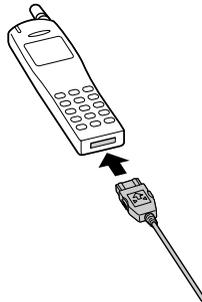
雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

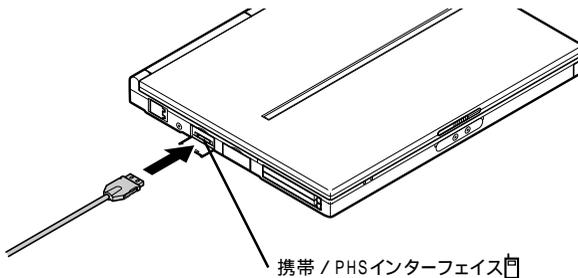


モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 2 携帯電話接続用ケーブルまたはPHS接続用ケーブルの小さいほうのコネクタを、携帯電話またはPHS本体に接続するコネクタの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。



- 3 パソコンの左側面の携帯 / PHSインターフェイス()に、もう一方のコネクタを  マークがある方を上にして接続するコネクタの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



携帯電話 / PHSインターフェイス使用上の注意

- ・このパソコンの携帯 / PHSインターフェイスで使用できるアプリケーションは、購入時にインストールまたは添付されているもののみです。携帯電話またはPHS用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC MultiMobile」を選んでください。



チェック

お使いの携帯電話やPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは携帯電話、PHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールをご利用になる場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。



メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

このパソコンに添付されている「インターネット設定切替ツール」を使って、モバイルする場所にあわせて最適な設定へ簡単に切り替えることができます。ご購入時の状態では、「インターネット設定切替ツール」はインストールされていません。「インターネット設定切替ツール」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。



参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール方法「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。

外出先でも快適にモバイルするために、以下の説明を読んで必要な設定を行ってください。

外出先に最も近いアクセスポイントをあらかじめ調べておく

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントを登録する
外出先に最も近いアクセスポイントを設定します。
BIGLOBE会員の方は、「BIGLOBEかんたん設定ナビ」で最も近いアクセスポイントを設定することができます。

「インターネット設定切替ツール」で接続先を切り替える

これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。

メモ

- ・アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることとなります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・「BIGLOBEかんたん設定ナビ」でアクセスポイントを変更する 「サポートセンター」「パソコンを使いこなそう」「添付ソフトの使い方」-「BIGLOBEかんたん設定ナビ」

参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた 「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

設定を元に戻す

外出先でインターネットやメールを楽しんだあとは、変更した設定を元に戻す必要があります。

外出時にインターネット接続に関する設定を変更しなかった場合は、そのままインターネットやメールを楽しめます。

インターネット接続の設定を元に戻す
「インターネット設定切替ツール」でインターネット
接続の設定を自宅の設定に戻します。

自宅のインターネット接続の設定を「インターネット設定切替ツール」に登録していない場合は、p. 127のフローチャートを参考にして、「インターネット設定切替ツール」に自宅でのインターネット接続の設定を登録してください。



参照

インターネット設定切替ツール 「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯 / PHSインターフェイスでは、通常データ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

cdmaOneでデータ通信を行う

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Async」に設定して、携帯 / PHSインターフェイスに接続するとcdmaOneでデータ通信が利用できます。



チェック

cdmaOneを使用する場合には、別売のcdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK02)が必要です。

NTTドコモのDoPaサービスでデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのDoPaサービス(パケット通信サービス)を利用できます。

- 1 NTTドコモのDoPaサービスが利用可能な携帯電話を、接続ケーブルを使って携帯 / PHSインターフェイスに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する

！チェック

- ・ DoPaによる通信をする場合には、DoPa対応のアクセスポイントに接続する必要があります。
- ・ DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合には、「##02」を追加する必要はありません。

NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kの通信が利用できます。

- 1 ドッチーモを、接続ケーブルを使って携帯 / PHSインターフェイスに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##13」を追加する

！チェック

ドッチーモでPIAFS32K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。

NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kの通信が利用できます。

！チェック

- ・ NTTドコモのPHSを使用する場合には、別売のPHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK03)が必要です。
- ・ NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSを携帯 / PHSインターフェイスに接続している場合は、「##13」を追加する必要はありません。

- 1 NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモを、接続ケーブルを使って携帯 / PHSインターフェイスに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##16」を追加する

 チェック

- ・ドッチーモでPIAFS64K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- ・PIAFS64K通信モードで、PIAFS32K専用のアクセスポイントへあやまって接続した場合、いったん接続した後で切断されることがあります。PIAFS64Kで通信を行う場合は、必ずPIAFS64K対応のアクセスポイントに接続してください。

携帯電話連携機能

このパソコンにインストールされている「携帯連携 / i」を使うと、パソコンで作成した予定表や連絡先などのデータを、i モード機能が付いている携帯電話から閲覧することができます。

また、携帯 / PHSモデルの場合、このパソコンにインストールされている「携帯電話2001」を使って、携帯電話に登録している電話番号や連絡先などの情報を、パソコン上で編集することができます。

携帯連携 / i

パソコン上のOutlook 2000で作成した、予定表や連絡先などのデータを、i モード機能が付いている携帯電話から閲覧するためのアプリケーションです。Outlook 2000を使って予定表や連絡先などを作り、インターネットのホームページに登録しておく、外出先でi モード機能が付いている携帯電話から閲覧することができます。

携帯連携 / iを使うためには、次の装置、アプリケーション、環境が必要です。

- ・ 必要な装置
 - i モード機能が付いている市販の携帯電話
- ・ 必要なアプリケーション
 - Outlook 2000
- ・ 必要な環境
 - このパソコンからインターネットに接続できる環境
 - FTPプロトコルに対応した、インターネット公開可能なホームページスペース



メモ

携帯連携 / iを使うためには、iモードメールサービスの契約をNTTドコモと行う必要があります。



参照

携帯連携 / iの詳しい使いかた 携帯連携 / iのオンラインヘルプ

携快電話2001

携快電話2001は、携帯 / PHSモデルのみにインストールされています。

携帯電話に登録している電話番号や連絡先などの情報を、パソコン上で編集するためのアプリケーションです。文字の入力やデータの整理などをパソコン上でを行い、携帯電話で利用することができます。



メモ

お使いの携帯電話によっては、携快電話2001を使用できない場合があります。携快電話2001が使える携帯電話の機種、注意事項などの情報については、次の専用ホームページをご覧ください。

<http://www.sourcenext.co.jp/k1/target/>

携快電話2001を使うためには、次の装置が必要です。

- ・市販の携帯電話
- ・添付の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル



参照

携快電話2001の詳しい使いかた 携快電話2001のオンラインヘルプ

P A R T

3

マルチメディア機能

このパソコンで音楽や映像の再生や編集を行う方法を説明します。

音楽の再生 / 編集機能

音楽を再生するには

このパソコンで音楽CDや音楽データを再生するには次のような方法があります。

- ・プレーヤ-NXを使う
- ・Virtual CD 2を使う
- ・Jet-Audio Playerを使う

音楽を編集するには

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から市販のMDデッキを接続すると、Jet-Audio Playerで編集した音楽データをMDに書き込んで、オリジナルMDを作ることができます。



参照

オリジナルMDを作るには「編集してオリジナルMDを作る」

CD-R/RWモデルの場合、パソコンにインストールされているEasy CD Creatorを使うと、Jet-Audio Playerで編集した音楽データをCD-RまたはCD-R/RWに書き込んで、オリジナル音楽CDを作ることができます。



参照

オリジナル音楽CDを作る「編集してオリジナル音楽CDを作る」

編集してオリジナルMDを作る

このパソコンのヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子と、光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販のMDデッキを接続すると、音楽CDやMP3データをパソコンで再生しながら、MDに録音することができます。録音するには、次のような方法があります。



チェック

- ・パソコンとMDデッキを接続するには、市販の光デジタル接続ケーブルをお買い求めください。
- ・MDデッキの機能や録音のしかたなどについては、MDデッキのマニュアルをご覧ください。
- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

プレーヤ-NXで再生しながら録音する
CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブに音楽CDをセットすると、「プレーヤ-NX」が自動的に起動して再生をはじめます。



・プレーヤ-NXの使いかた 「添付ソフトの使い方」 「プレーヤ-NX」

Jet-Audio Playerで再生しながら録音する
MP3データを再生することができます。いくつかのMP3データを好きな順番に並びかえて、再生することもできます。



Jet-Audio Playerの使いかた Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル

編集してオリジナル音楽CDを作る

ここでは、CD-R/RWモデルのみの説明をしています。

このパソコンにインストールされているEasy CD Creatorを使うと、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。Easy CD Creatorを使って作成したオリジナル音楽CDは、家庭用のCDプレーヤー、カーステレオ用のCDプレーヤー、パソコンについているCD-ROMドライブなどで再生することができます。Easy CD Creatorについて詳しくは、Easy CD Creatorのオンラインヘルプをご覧ください。



Easy CD Creatorのオンラインヘルプを読むには Easy CD Creatorを起動して、画面のメニューバーの「ヘルプ」をクリックする



お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

音楽CDや音楽データを再生する

プレーヤ-NXを使う

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブに音楽CDをセットすると自動的にプレーヤ-NXが起動します。音楽CDを再生するには、プレーヤ-NXの画面上のをクリックします。



参照

プレーヤ-NXの使いかた 「添付ソフトの使い方」-「プレーヤ-NX」

Virtual CD 2を使う

Virtual CD 2を使うと、音楽CDを仮想CDとしてハードディスクに取り込むことができます。取り込まれた音楽CDは音楽データ(ファイル)としてハードディスクに保存されるので、次回からは音楽CDをセットしなくてもこのパソコンで保存した音楽データを再生することができます。



参照

Virtual CD 2の使いかた 「添付ソフトの使い方」-「Virtual CD2を使う」

Jet-Audio Playerを使う

Jet-Audio Playerは、音楽CDの再生やMP3規格の音楽データを再生できるアプリケーションです。MP3規格の音楽データは、インターネットなどからダウンロードすることができます。



メモ

MP3とは、MPEG1 Audio Layer-3の略で、音楽データを高音質のまま高い圧縮率で保存できる規格のことです。



参照

Jet-Audio Playerの使いかた Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル



メモ

Jet-Audio Playerのオンラインマニュアルは、「スタート」「プログラム」「Jet-Audio Player」「Jet-Audio Manual」をクリックすると表示できます。

P A R T

4

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

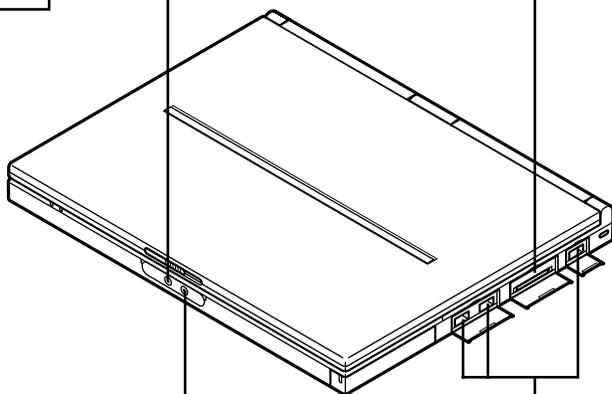
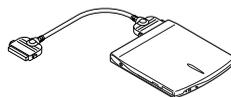
本体前面 / 右側面

ヘッドホン /
オーディオ / 光デジタル
オーディオ (S/PDIF)
出力端子

ヘッドホン



外付CD-ROMドライブ
(CD-ROMモデルのみ)



外部マイクロホン端子

マイクロホン

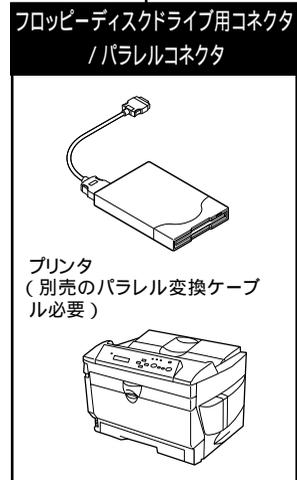


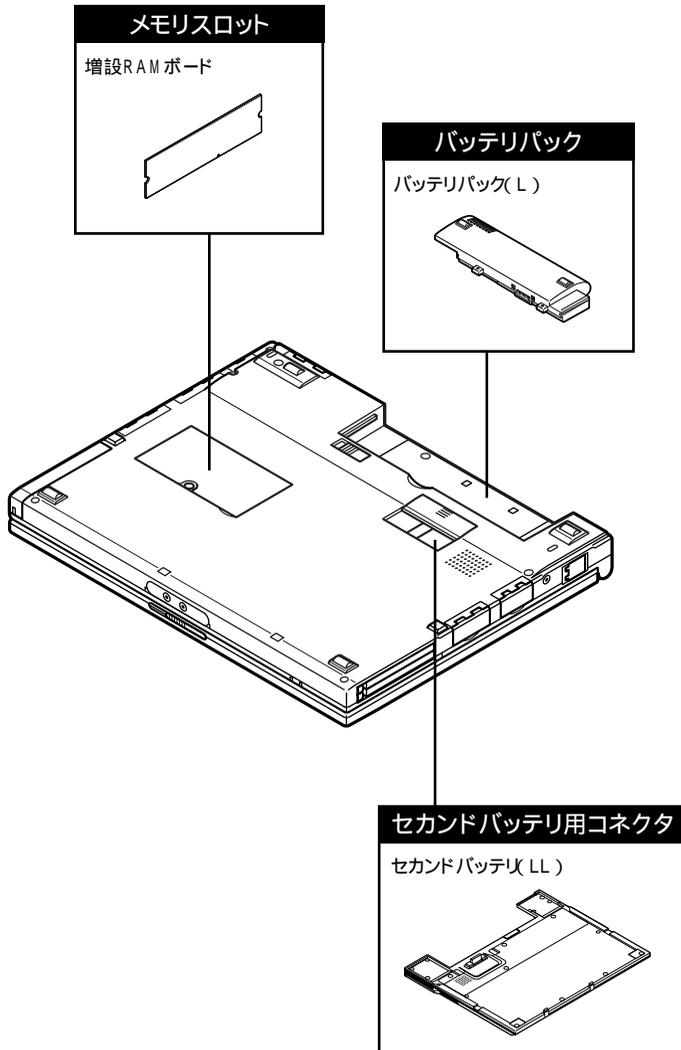
USBコネクタ

USB機器
マウス、キーボードなど



本体背面





周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています(p. 138、139、140)。また、別売のUSBポートバーやパラレル変換ケーブルを利用して周辺機器を接続することもできます。



メモ

Windows 98のCOM1ポートはシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器を利用するときの注意

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意

周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
スタンバイ状態または休止状態のときは、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。



参照

リソースについて PART7の「割り込みレベルとDMAチャンネル (p. 231)」

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスドモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順2を行ってください。

- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4 **!** や **X** が表示されていて動作しない周辺機器を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする

- 5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定を使う」を□にする
 - 6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。
 - 7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。
-  チェック
- 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。
-  メモ
- 選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。
- 8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
 - 9 「変更不可の環境設定の作成」の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
元の画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。
 - 10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる
 - 11 「スタート」ボタン「Windowsの終了」をクリックする
「Windowsの終了」画面が表示されます。
 - 12 「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。



チェック

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。



メモ

このパソコンにインストールされているWindows 98には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。



メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

このパソコンに周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器 パソコン

電源を切るとき

パソコン 周辺機器

プリンタ

プリンタを接続する

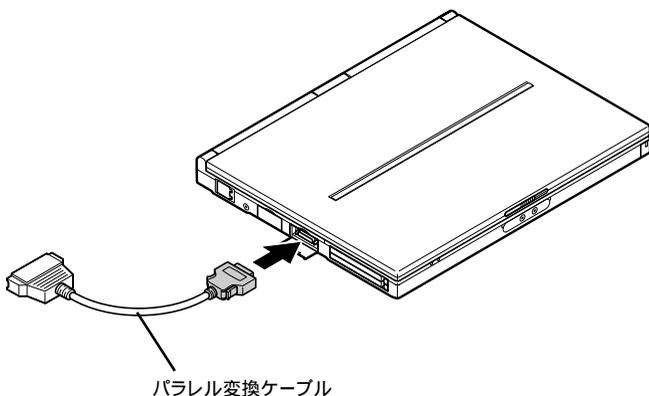
このパソコンに接続できるプリンタには、パラレルコネクタに接続するプリンタとUSBコネクタに接続するプリンタの2種類があります。パラレルコネクタにプリンタを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルと別売のパラレル変換ケーブル(PC-VP-BK02)または、USBポートバー(PK-UP012 / PK-UP012N)が必要です。



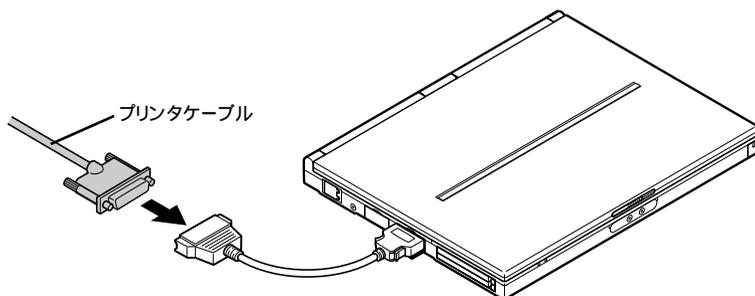
参照

USBプリンタを使う このPARTの「USB対応機器」(p. 166)

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 本体左側面のフロッピーディスクドライブ用コネクタのフタを開く
- 4 パラレル変換ケーブル(別売)の  マークのある面を上にしてフロッピーディスクドライブ用コネクタ  にカチッと音がするまで軽く押し込んで下さい。
変換ケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。



- 5 パラレル変換ケーブルの先にプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む



- 6 プリンタケーブルの大きいほうのコネクタをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。
- 7 パソコンにACアダプタを接続する
- 8 プリンタの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する

プリンタを設定する

パラレルコネクタに接続したプリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」の画面で行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

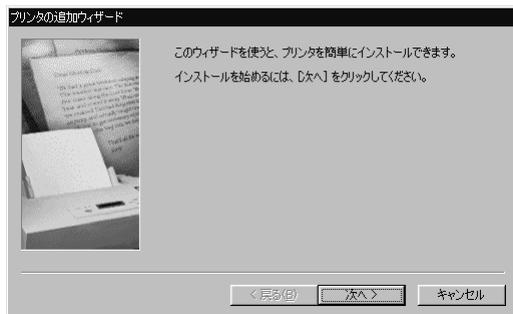
プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能 (p.144)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタをパソコンに接続したあと、プリンタ パソコンの順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

- 1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する
- 2 「スタート」ボタン 「設定」 「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」の画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

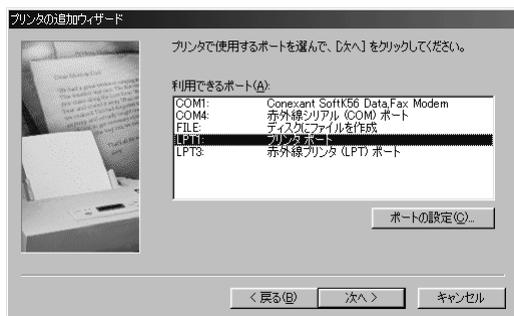


- 4 「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウの「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする
「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。
- 6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ機種(または互換性のある機種)を選ぶ



プリンタにインストールディスク/ドライバディスクが添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧になり、インストールディスクの指定を行ってください。

- 7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ

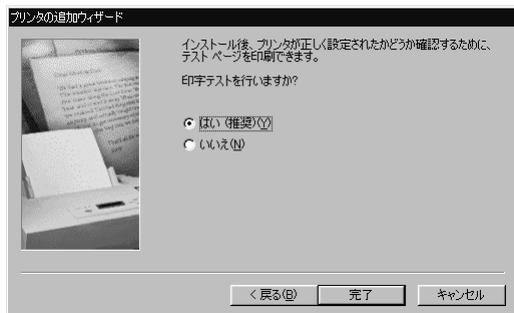


- 8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選んだプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。このプリンタを通常使用するプリンタとして登録する場合は、下欄の「はい」ボタンをクリックしてください。

- 9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選ぶ画面が表示されます。「はい(推奨)」を選ぶと、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルにしたがって用紙などをセットしておいてください。



- 10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする
もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C: ¥WINDOWS ¥OPTIONS ¥CABS」を指定してください。



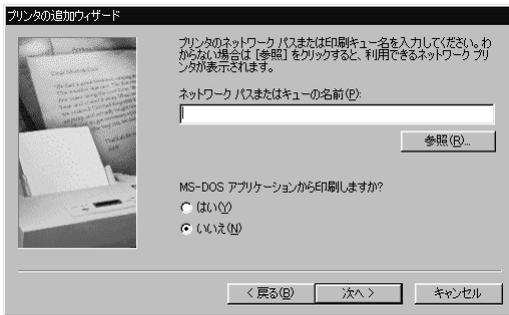
チェック

NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、Multi ImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していないため、「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」タブで「システムスタンバイ」を「なし」に設定して、スタンバイ機能が動作しないように設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

- 1 「プリンタを設定する(p. 146)」の手順1～4を行う
- 2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



- 3 ネットワークパス名を入力する
「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示にしたがってプリンタの設定を行う

外部ディスプレイを使う

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

| 表示解像度 (ドット) | 水平走査 周波数 (KHz) | 垂直走査 周波数 (Hz) | 表示色 | | | |
|----------------|-------------------|------------------|-----|------|---------|---------|
| | | | 16色 | 256色 | 65,536色 | 1,677万色 |
| 640 × 480 | 31.5 | 60 | | | | |
| | 37.5 | 75 | × | | | |
| | 43.3 | 85 | × | | | |
| 800 × 600 | 37.9 | 60 | × | | | |
| | 46.9 | 75 | × | | | |
| | 53.7 | 85 | × | | | |
| 1,024 × 768 | 48.4 | 60 | × | | | |
| | 60.0 | 75 | × | | | |
| 1,280 × 1,024 | 64.0 | 60 | × | | | |
| | 80.0 | 75 | × | | | |

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを同時に表示する場合、外部ディスプレイへの出力は、表示解像度によらず、水平走査周波数48.8KHz、垂直走査周波数60Hz(解像度1024 × 768、60Hz相当)になります。

○ : 表示可能

× : 表示不可能

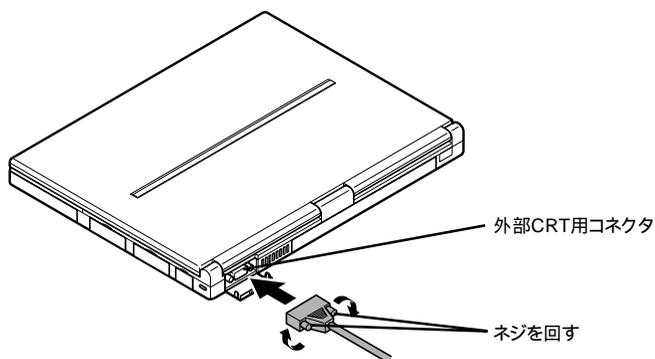


チェック

使用するCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用するときは、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する



- 4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 CRTディスプレイの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

프로젝터를使う

このパソコンには、別売の 프로젝터를接続することができます。 프로젝터は、プレゼンテーションなどに利用することができます。

液晶 프로젝터と解像度について

別売の液晶 프로젝터를使用する場合は、 프로젝터のマニュアルを参考に
して表示解像度などを確認してください。



参照

프로젝터との接続のしかた 프로젝터のマニュアル

接続した外部ディスプレイを設定する

表示するディスプレイを切り替える

キーボードの【Fn】を押したまま【F3】を押すと、キー操作で簡単に画面の出力先の切り替えを行うことができます。



参照

ホットキー機能について PART1の「ホットキー機能を使う」(p.11)



チェック

外部ディスプレイ接続時は、液晶ディスプレイを閉じてスリープできません。

ディスプレイに合わせてパソコンを設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「検索方法」で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選んで、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選ぶ
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選び、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

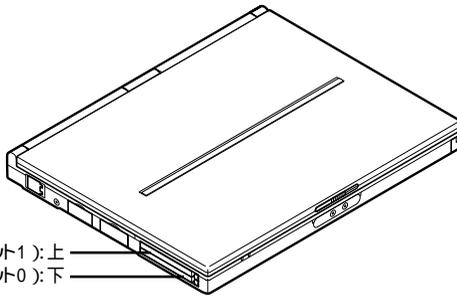
PCカードとPCカードスロットを使う

PCカードについて

PCカードには、メモリカードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどいくつかの種類があり、用途も幅広く使われています。PCカードを使うことで、パソコンの機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。

PCカードスロットについて

- ・TYPE 1かTYPE 2のPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE 2のPCカードを使用できます。
- ・ZVポート対応のPCカードはソケット1(スロット0)でのみ使用できます。
- ・CardBus対応のPCカードは、ソケット1(スロット0)またはソケット2(スロット1)の両方で同時に使うことができます。
- ・MS-DOSモードでは使用できません。



ソケット2(スロット1):上
ソケット1(スロット0):下

PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカードを使用するときの注意

- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ・ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- ・マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、下側のスロットにマルチファンクションカードを、上側のスロットにATAカードをセットしてください。
- ・CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、パソコンを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。
- ・ZVポートを利用する場合は、使用するPCカードがこのパソコンに対応しているか、あらかじめ販売元に確認してください。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

△注意



高温注意

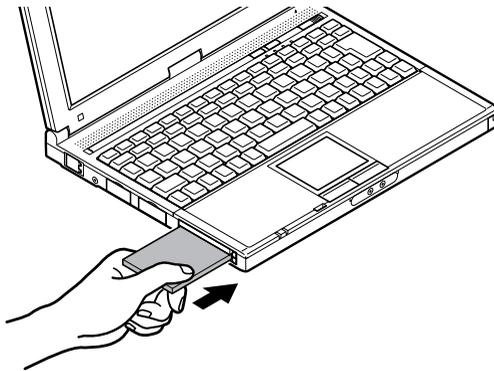
本機の使用時や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・ アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードをセットする

- 1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

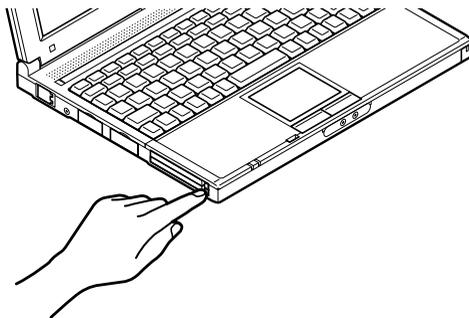


PCカードを取り出す

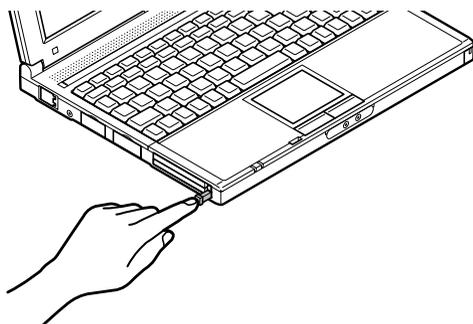
PCカードを取り出すときは、必ず次の手順で取り出してください。

- 1 インジケータ領域 (タスクトレイ) にあるPCカードのアイコン()をダブルクリックする
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」が表示されます。
- 2 取り外したいPCカードをクリックする
- 3 「停止」ボタンをクリックする
しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

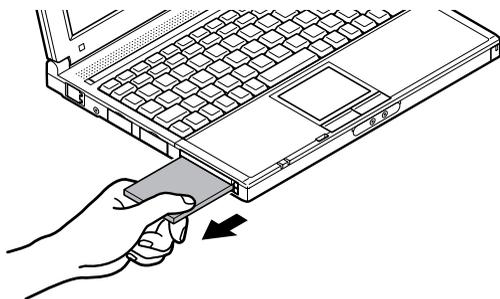
- 5** 本体のPCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前にとび出します。



- 6** もう一度イジェクトボタンを押す
PCカードが少しとび出します。



- 7** PCカードを水平に静かに引き抜く



上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取りはずし」ウィンドウが表示される場合があります。「OK」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じてください。

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART7の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.231)やPCカードのマニュアルをご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。



参照

割り込みレベルの設定を変更する 「リソースの競合について」(p.142)

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンには、標準で64Mバイトのメモリが搭載されており、増設用のメモリスロットが1つ用意されています。メモリスロットに別売の128Mバイトの増設RAMボードを取り付ければ、最大192Mバイトまで増設することができます。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

| 型名 | メモリ容量 |
|------------|---------|
| PK-UG-M024 | 64Mバイト |
| PK-UG-M025 | 128Mバイト |

増設RAMボードを取り扱うときの注意

△注意



感電注意

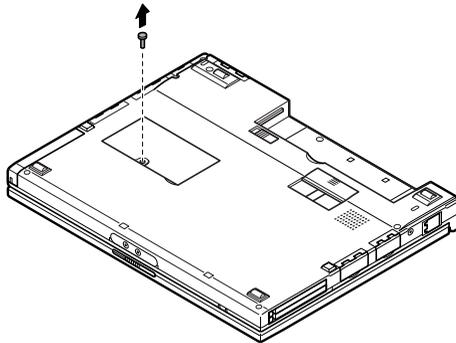
増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

- ・増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- ・増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

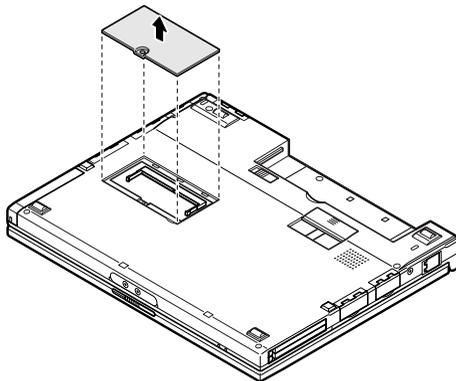
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

増設RAMボードを取り付ける

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン 「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリパックを取り外す(p.58)
- 5 図のネジをプラスドライバで取り外す



- 6 メモリスロットのカバーを取り外す

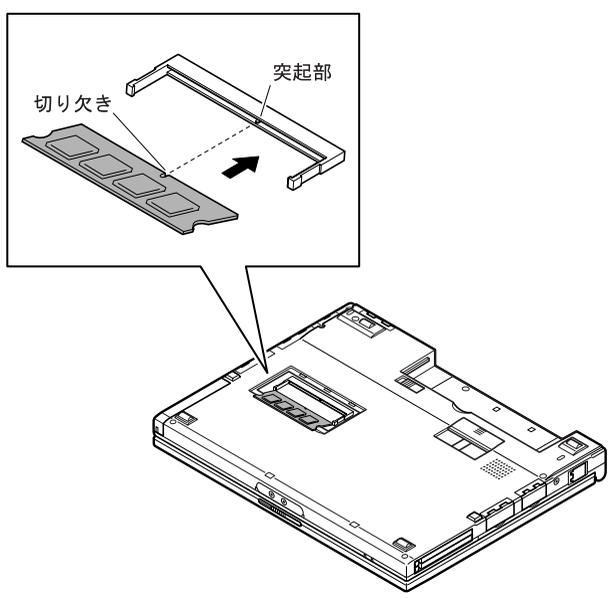


7 増設RAMボードの切り欠き部分を本体コネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

増設RAMボードが奥まで挿入できているときは、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

 チェック

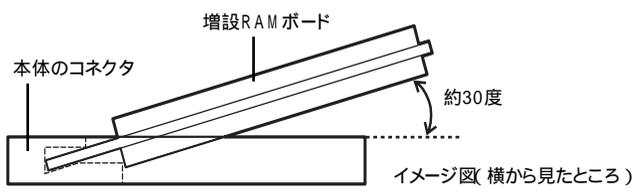
増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



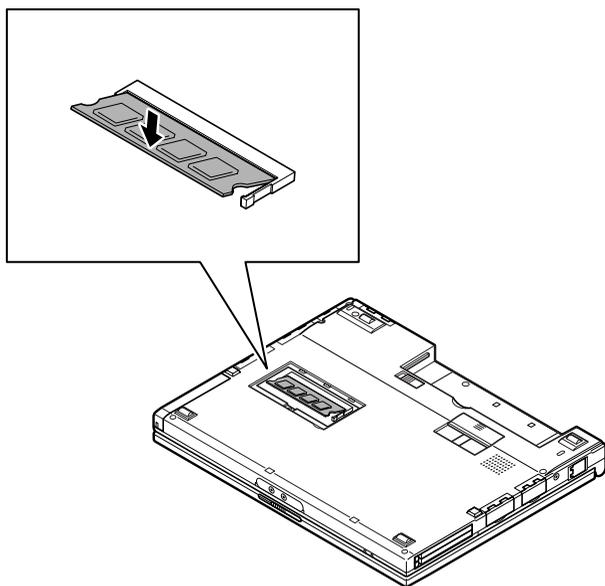
実物はイラストと多少異なる場合があります

 チェック

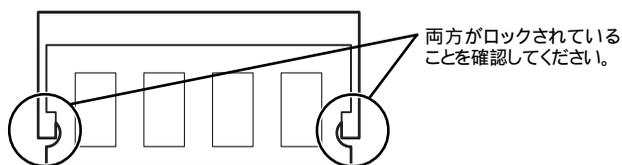
挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。



8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く押し込む



9 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する 正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金属部分(金色)が少し(1mm程度)見える状態です。



チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。

- 10 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 11 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける
休止状態の機能(p.69)を使用する方は、続けて次の手順12～13の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。
- 12 パソコンの電源を入れる
起動直後にメッセージが表示されますが、使用する上で支障はありません。
- 13 「休止状態の設定を解除する(p.71)」の手順にしたがって設定を解除したあと、「休止状態を再設定する(p.72)」の手順にしたがって再設定を行う



メモ

休止状態(ハイバネーション)を利用するときは、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼びます。購入時には、休止状態(ハイバネーション)を利用できるように、「休止状態のためのファイル」があらかじめハードディスクに用意されています。

「休止状態のためのファイル」をいったん削除することを、「休止状態の設定の解除」と呼びます。メモリの取り付け/取り外しを行ったときには、「休止状態の設定の解除」を実行する必要があります。

「休止状態の設定の解除」を実行したあとで、再び休止状態(ハイバネーション)を利用するには、「休止状態の再設定」で「休止状態のためのファイル」を作成する必要があります。

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスドモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

- 2 「全般」タブで右下に表示されている、「***MBのRAM」の数値を確認する
***MBがこのパソコンの総メモリ容量です。

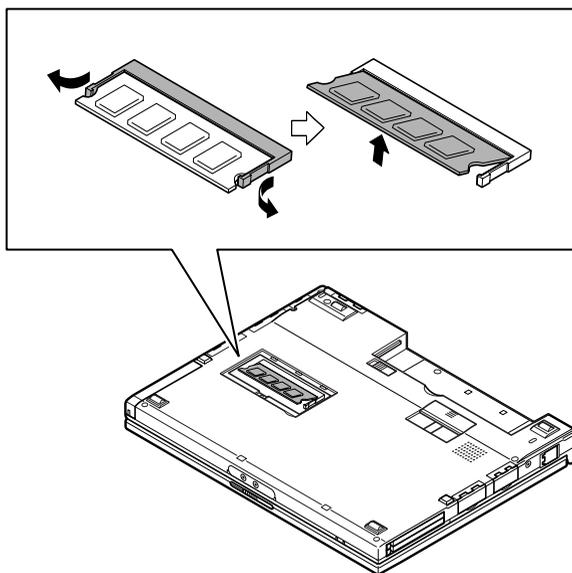


メモ
システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

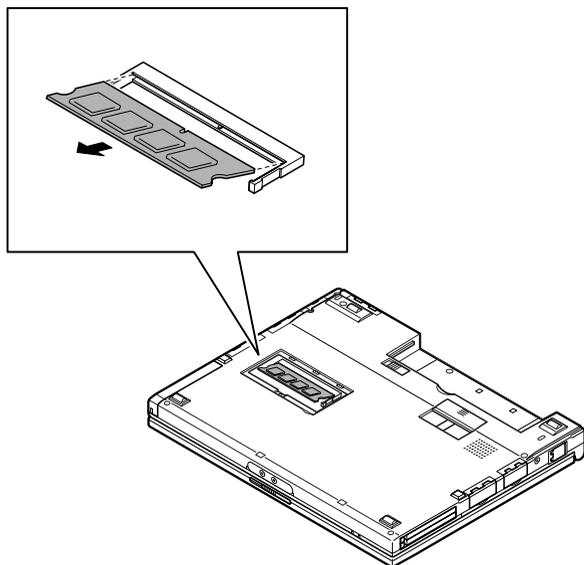
- メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。
- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
 - ・ このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける」の手順1～6にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く



4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

5 バッテリーパックを取り付ける

休止状態の機能（ p.69 ）を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

6 パソコンの電源を入れる

起動直後にメッセージが表示されますが、使用する上で支障はありません。

7 「休止状態の設定を解除する」（ p.71 ）の手順にしたがって設定を解除したあと、「休止状態を再設定する」（ p.72 ）の手順にしたがって再設定を行う



メモ

休止状態（ハイバネーション）を利用するときは、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼びます。購入時には、休止状態（ハイバネーション）を利用できるように、「休止状態のためのファイル」があらかじめハードディスクに用意されています。

「休止状態のためのファイル」をいったん削除することを、「休止状態の設定の解除」と呼びます。メモリの取り付け／取り外しを行ったときには、「休止状態の設定の解除」を実行する必要があります。

「休止状態の設定の解除」を実行したあとで、再び休止状態（ハイバネーション）を利用するには、「休止状態の再設定」で「休止状態のためのファイル」を作成する必要があります。

USB 対応機器

USBとは

このパソコンにはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが3つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。

現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・ マウス
- ・ プリンタ
- ・ イメージスキャナ
- ・ デジタルカメラ
- ・ USBポートバー
- ・ ISDNターミナルアダプタ など

USBコネクタに接続する

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備をしてください。

接続するUSB対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。

機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合があるので、そのときはマニュアルにしたがって設定します。またドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。



メモ

- ・ USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できるので、接続前に電源を切る必要はありません。
- ・ 別売のUSBマウスなどで接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

BIOSセットアップメニューの設定を変更する

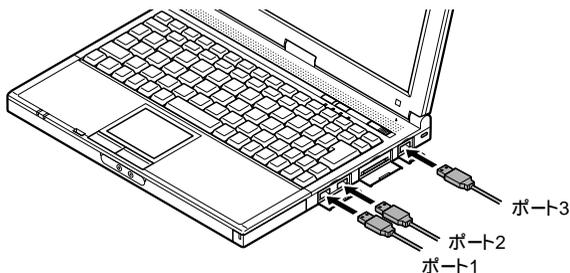
「click!-USB」ドライブキット(PK-CL101)などUSBで接続する外付用記憶装置を使う場合は、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」で、「USBコントローラ」を「使用する」に設定してください。

USBコネクタにプラグを差し込む

4 チェック

スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。

1 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む



どのUSBコネクタに接続してもかまいません

メモ

このパソコンではUSBハブを内蔵しており、ポート1 / ポート2はハブを経由します。ハブの接続数に制限のあるオプションのUSB機器をポート1 / ポート2に接続して正常に動作しない場合は、ポート3に接続してください。

4 チェック

はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込んでいない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。

なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけですぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。

- 2 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する
確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

NXパッドとUSBマウスを同時に使用する

NXパッドと別売のUSBマウスを同時に使用する場合は、次の手順にしたがって設定を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「マウス」の左の田をクリックし、表示された中から「NX PAD」をクリックし「プロパティ」ボタンをクリックする
- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 5 「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」を☑にして「製造元」から「標準マウス」を、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- 8 「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 10 パソコンを再起動する

再起動後にUSBマウスを接続してください。

以上で設定は終了です。



メモ

別売のUSBマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。USBマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「拡張セットアップ」で「NXパッド」を「使用しない」に設定（ p.193 ）してください。

その他の機器を使う

その他の周辺機器について

このパソコンでは、次のような別売の機器を使用することができます。

| 種類 | 機器 |
|---------|---|
| オーディオ機器 | ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ機器など |
| 入力装置 | マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど |
| 通信機器 | 携帯電話、PHS、ターミナルアダプタなど |

それぞれの周辺機器をパソコンのどのコネクタに接続するかは、周辺機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、周辺機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各周辺機器のマニュアルをご覧ください。



チェック

スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

PHSインターフェイス

ワイヤレスインターネットモデルでは、PHSインターフェイスにNTTDコモやアステルのPHSを接続できます。



参照

PHSを接続する PART2の「PHSインターフェイス」(p.119)

携帯 / PHSインターフェイス

携帯 / PHSモデルでは、携帯 / PHSインターフェイスに携帯電話またはPHSを接続できます。

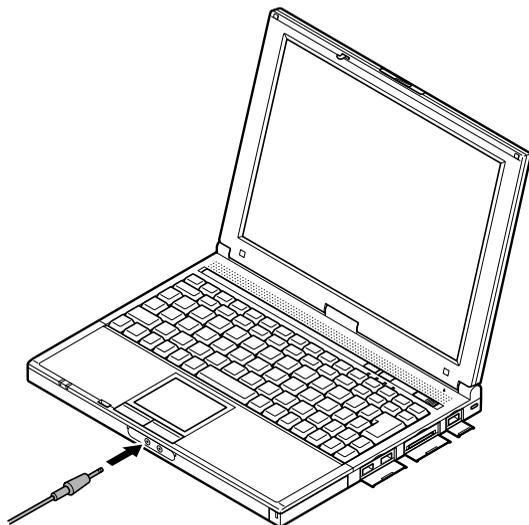


参照

携帯電話またはPHSを接続する PART2の「携帯 / PHSインターフェイス」(p.124)

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続することができます。



デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。

⚠ チェック

- ・ 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
- ・ このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48kHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

📌 メモ

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、通常のヘッドホンやオーディオ機器も接続することができます。

シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。シリアルコネクタには、外付けモデムやターミナルアダプタなどを接続することができます。また、他のパソコンとケーブルで接続してデータ転送することもできます。



チェック

このパソコンには、シリアルコネクタを搭載していません。シリアル対応機器を接続するためには、別売のUSBポートバー（PK-UP012 / PK-UP012N）が必要です。



参照

他のパソコンとケーブル接続でファイル転送する PART1の「ファイル転送機能」の「ケーブルによるファイル転送を利用する」(p.83)

パラレルコネクタ

別売のプリンタなどのパラレル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをパラレルポートと呼び、WindowsではプリンタポートまたはLPT1の名称で呼んでいます。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。また、シリアルコネクタと同じように、他のパソコンとケーブルで接続してデータ転送することができます。



チェック

このパソコンでパラレル対応機器を接続するためには、別売のパラレル変換ケーブル（PC-VP-BK02）または、USBポートバー（PK-UP012 / PK-UP012N）が必要です。

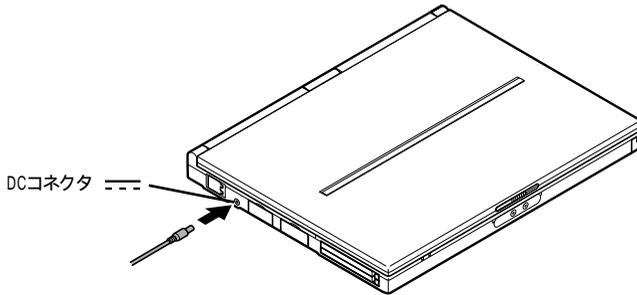


参照

ほかのパソコンとケーブル接続でファイル転送する PART1の「ファイル転送機能」(p.81)

DCコネクタ

添付のACアダプタを取り付けるコネクタです。



ACアダプタ以外にも、別売のカーアダプタ(PC-VP-WP05-06)を接続することができます。カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。

カーアダプタを使用する場合には、カーアダプタ本体(PC-VP-WP05)とカーアダプタケーブル(PC-VP-WP05-06)の両方を用意する必要があります。

⚠ チェック

- ・カーアダプタを接続する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから接続してください。
- ・車が走行しているときにはパソコンの電源を入れないでください。振動 / 衝撃などによってパソコンが故障するおそれがあります。

5

アプリケーションの追加と削除

アプリケーションの追加(インストール)や削除について説明しています。

このパソコンに添付されているアプリケーションを追加したり削除したりするときは、必ずここをお読みください。

インストールされていないアプリケーションの追加

インストールが必要なアプリケーション

このパソコンには、あらかじめ、さまざまなアプリケーションがインストールされていますが、それ以外にもインストールされていないものがいくつかあります。次のアプリケーションは、購入時にはインストールされていません。使いたい場合は、別途セットアップする必要があります。

Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basicのインストール

CD-ROMに入った辞書です。国語辞典、英和辞典、和英辞典の3種類の辞書を1枚のCD-ROMに収めており、言葉に関するさまざまな情報を得ることができます。

「Office 2000 Personal」添付の「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」CD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにセットして、インストールを行います。

インストール方法については、CD-ROMに添付のマニュアルをご覧ください。

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除する前に

削除が必要なとき

ここで説明するのは、このパソコンに標準でインストールまたは添付されているアプリケーションの削除方法です。購入後に、ご自分でインストールしたアプリケーションの削除方法については説明していませんので、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

次のような場合にアプリケーションを削除してください。

- ・ハードディスクの空き容量を増やしたい場合
- ・通常使わないアプリケーションがある場合

削除方法

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。次の3つの方法があるので、削除しようとしているアプリケーションの削除方法を確認してください。

- ・インストーラ-NXを使って削除するアプリケーション(p.176)
- ・コントロールパネルを使って削除するアプリケーション(p.179)
- ・アンインストール機能を使って削除するアプリケーション(p.180)

削除するときの注意

アプリケーションを削除する前に、次の点に注意してください。

- ・「Acrobat Reader」は、「Intellisync」 「 駆すばあと 」などのPDF 形式のオンラインドキュメントを読むために必要ですので、削除しないようにしてください。
- ・削除の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は、他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションによっては、削除中に「共有ファイルを削除しますか?」 「共有コンポーネント」などのウィンドウが表示される場合があります。このようなウィンドウは、インストールされているアプリケーションが共通で使用していると思われるファイルを削除しようとしたときに表示されます。このようなウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」や「すべて残す」などを選んで、ファイルを削除しないようにしてください。
- ・アプリケーションによっては、削除したときに、一部のフォルダおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットのアイコンが残ることがあります。この状態でもパソコンを操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法にしたがって操作してください。

- ・ワンタッチスタートボタンに割り当ててあるアプリケーションを削除した場合には、ワンタッチスタートボタンの設定をやり直してください。
- ・削除を途中で中断した場合に、そのままではアプリケーションを使用できない場合があります。その際にはパソコンを再起動してください。
- ・万一の場合に備えて、アプリケーションで作成したデータなどをバックアップしておくことをおすすめします。



参照

バックアップ-NXを使う 「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「大事なデータはバックアップを取ろう」

インストーラ-NXを使って削除する

インストーラ-NXを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションは、「インストーラ-NX」を使って削除します。

- ・10円メールマスター
- ・Acrobat Reader
- ・AOL
- ・BIGLOBE インターネット接続ツール
- ・BIGLOBE インターネット無料体験
- ・BIGLOBE 電話で入会ナビ
- ・BIGLOBE ページャ
- ・CyberCoach- NX
- ・CyberTrio- NX
- ・CyberWarner- NX
- ・DION かんたんインターネット2.1
- ・FAX- NX
- ・Intellisync
- ・Jet-Audio Player
- ・KaraOK!
- ・MAGIC FLIGHT
- ・NEWEBサインアップ
- ・ODN(Open Data Network)
- ・PCポータル
- ・PostPet
- ・Real Player™ G2
- ・So-netサインアップ
- ・ThumbsStudio
- ・Virtual CD 2

- ・VirusScan
- ・@niftyでインターネット
- ・アクティブメニュー-NX
- ・いま、いくら? その2
- ・インターネット設定切替ツール
- ・駅すばあと
- ・携帯連携 / i
- ・コペルニックライト
- ・サポートセンタ
- ・てきばき家計簿マム 2 Plus
- ・筆王

(筆王を削除する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」の手順にしたがって作業を行ってください。)

- ・パソコンのいろは
- ・プレーヤ- NX
- ・ホームページスクラップブックEX
- ・翻訳アダプタ CROSSROAD
- ・マスターネットサインアップツール
- ・用語集

:購入時にはインストールされていません。

インストーラ-NXを使う

インストーラ-NXを使ってアプリケーションを削除する場合は、次の手順で行います。



チェック

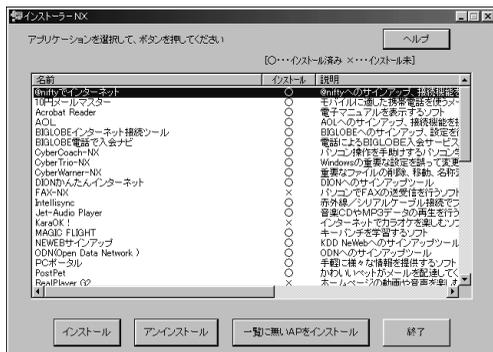
インストーラ-NXを起動する前に、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にしておいてください(購入時の設定は「ベーシックモード」です)。



参照

CyberTrio-NXのモード変更 『困ったときのQ&A』PART1の「CyberTrio-NXのモードを変更する」

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」をクリックする
次の画面が表示されます。



① チェック

アプリケーションによっては、追加したアプリケーションのコンポーネントがインストーラ-NXの起動画面のアプリケーション一覧に、「一般AP」として表示されています。

- 2 削除(アンインストール)するアプリケーションをクリックする

- 3 「アンインストール」ボタンをクリックする

「アンインストール手順について」のメッセージが表示されます。表示されたメッセージにしたがって削除を行ってください。

各アプリケーションの削除方法については、「サポートセンタ」をご覧ください。

📖 参照

アプリケーションの削除 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

コントロールパネルを使って削除する

コントロールパネルを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションは、「コントロールパネル」を使って削除します。

- ・ Office 2000 Personal
- ・ パソコン大学一年生 for Word2000/Excel2000

コントロールパネルを使う

コントロールパネルを使ってアプリケーションを削除する場合は、次の手順で行います。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。
- 2 「インストールと削除」タブをクリックする

各アプリケーションの削除方法については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの削除 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」



チェック

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」でアプリケーションを選んで「追加と削除」ボタンをクリックして削除を開始すると、中断しても、そのままではアプリケーションを使用できないことがあります。その場合は、パソコンを再起動して、アプリケーションを再度インストールしてください。

アンインストール機能を使って削除する

次のアプリケーションのアンインストール機能を使って削除します。

- ・DirectCD(CD-R/RWモデルのみ)
- ・Easy CD Creator(CD-R/RWモデルのみ)

各アプリケーションの削除方法については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの削除 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

削除したアプリケーションの再追加

アプリケーションを再追加する前に

追加方法

削除したアプリケーションは、添付のCD-ROMを使って再追加することができます。追加の方法は、アプリケーションによって異なります。次のような方法があるので、追加しようとするアプリケーションの追加方法を確認してください。

- ・インストーラ-NXで自動インストールする(p.181)
- ・インストーラ-NXで手動インストールする(p.184)
- ・アプリケーション独自の方法でインストールする(p.185)

追加するときの注意

- ・アプリケーションCD-ROMには、「Vol.1」「Vol.2」の2枚があります。インストーラ-NXを使ってアプリケーションをインストールするときに、メッセージが表示されますので、指定されたアプリケーションCD-ROMを利用してください。
- ・追加の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションのインストール先を変更する場合は、「C:¥Program Files」「C:¥Windows」などの、システムで使用する重要なフォルダや他のアプリケーションがインストールされているフォルダを指定しないでください。これらのフォルダにインストールする場合は、「C:¥Program Files¥Application」のようなサブフォルダを作成し、サブフォルダにインストールしてください。

インストーラ-NXを使って自動でインストールできるアプリケーション

次のアプリケーションは、このパソコンに添付されているアプリケーションCD-ROMを使って追加します。インストール時に設定をしなくても、購入時に近い状態で自動インストールできます。

- ・10円メールマスター
- ・BIGLOBEインターネット接続ツール
- ・BIGLOBEインターネット無料体験
- ・BIGLOBE電話で入会ナビ
- ・BIGLOBE ページャ
- ・CyberCoach-NX
- ・CyberTrio-NX

- ・ CyberWarner-NX
- ・ DIONかんたんインターネット2.1
- ・ FAX-NX
- ・ Intellisync
- ・ MAGIC FLIGHT
- ・ NEWEBサインアップ
- ・ ODN(Open Data Network)
- ・ PCポータル
- ・ RealPlayer G2
- ・ ThumbsStudio
- ・ Virtual CD 2
- ・ VirusScan
- ・ @niftyでインターネット
- ・ アクティブメニュー-NX
- ・ いま、いくら? その2
- ・ インターネット設定切替ツール
- ・ 携帯連携 / i
- ・ 駅すばあと
- ・ コペルニックライト
- ・ サポートセンタ
- ・ 筆王
(筆王を追加する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」の手順にしたがって作業を行ってください。)
- ・ パソコンのいろは
- ・ プレーヤ-NX
- ・ ホームページスクラップブックEX
- ・ 翻訳アダプタ CROSSROAD
- ・ マスターネットサインアップツール
- ・ 用語集

追加方法

次の手順で追加(インストール)します。



チェック

インストーラ-NXを起動する前に、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にしておいてください(購入時の設定は「ベーシックモード」です)。



参照

CyberTrio-NXのモード変更 『困ったときのQ&A』PART1の「CyberTrio-NXのモードを変更する」

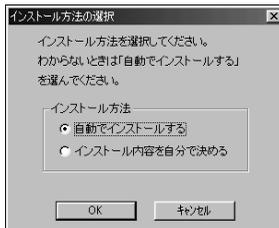
- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「アプリケーション」「インストーラ-NX」をクリックする
次の画面が表示されます。



① チェック

アプリケーションによっては、追加したアプリケーションのコンポーネントがインストーラ-NXの起動画面のアプリケーション一覧に、「一般AP」として表示されます。

- 2 追加(インストール)するアプリケーションをクリックする
- 3 「インストール」ボタンをクリックする
「媒体のセット」の画面が表示されます。
- 4 指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにセットする
CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯します。
- 5 しばらく待ってから「OK」ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



6 「自動でインストールする」が選ばれていることを確認して、「OK」ボタンをクリックする
インストールが完了すると、メッセージが表示されます。

- ・インストールが完了したことを表すメッセージが表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。インストールは完了です。
- ・再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックして再起動してください。再起動後、インストールは完了です。

追加が終了したら、CD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブから取り出してください。

チェック

- ・インストーラ-NXの一覧にないアプリケーションのインストールが完了した直後は、アプリケーション名が一覧に表示されないことがあります。この場合、インストーラ-NXをいったん終了して、起動し直すと正しく表示されます。
- ・インストーラ-NXでアプリケーションのインストールが完了した直後に、「インストール」ボタン、「アンインストール」ボタン、「一覧に無いIAPをインストール」ボタンが使用できなくなることがあります。この場合、インストーラ-NXをいったん終了して、起動しなおすと正しく表示されます。
- ・「アプリケーションCD-ROM」から、削除したアプリケーションを再追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、購入時と同じ状態に設定されないことがあります。
- ・「BIGLOBE電話で入会ナビ」を追加している途中で「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。

参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

インストーラ-NXを使って内容を確認しながらインストールするアプリケーション

次のアプリケーションは、このパソコンに添付されているアプリケーションCD-ROMを使って追加します。表示されるメッセージにしたがい、内容を確認しながらインストールしてください。

- ・ Acrobat Reader
- ・ AOL
- ・ Jet-Audio Player

- ・ KaraOK!
- ・ PostPet
- ・ So-net サインアップ
- ・ てきぱき家計簿マム2 Plus

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

パソコン大学一年生CD-ROMを使って追加する

「パソコン大学一年生CD-ROM」を使って、次のアプリケーションを追加することができます。

- ・ パソコン大学一年生 for Word2000
- ・ パソコン大学一年生 for Excel2000

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

Office 2000 Personal CD-ROMを使って追加する

Office 2000 Personalは、このパソコンに添付の「Office 2000 Personal」CD-ROMを使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROMを使って追加する

Easy CD CreatorおよびDirectCDは、このパソコンに添付の「Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROM」CD-ROMを使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加 「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」

6

BIOSセットアップメニュー

セキュリティや省電力など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作なくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・起動デバイスの起動順位の設定
- ・セキュリティの設定
- ・省電力の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS HIFLEX 日本語
SETUP-VERSION x.xx」と表示されます。

| |
|---|
| AMIBIOS HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx (C) 2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved |
| BIOS Revision xxxxxxxx 標準セットアップ 拡張セットアップ セキュリティセットアップ 省電力セットアップ 起動デバイスセットアップ 周辺機器セットアップ 表示言語 (Language) セットアップ バッテリーリフレッシュ デフォルト値をロード 変更を保存して終了 変更を保存せずに終了 |
| システム日付、システム時刻、IDE デバイスのタイプなどを変更します ESC : 終了 : 選択 F3/F4 : カラー F10 : 保存と終了 |

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 **X** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【Fn】+【 **X** 】または【Fn】+【 **X** 】で変更します。
- ・各設定項目の画面からメイン画面に戻るときは【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

- 1 メイン画面で【F10】を押す
確認の画面が表示されます。
- 2 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。



メモ

メイン画面で「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに(起動前の設定のまま)終了する

- 1 メイン画面で【Esc】を押す
- 2 【 **X** 】で「はい」を選び、【Enter】を押す
起動する前の設定のままBIOSセットアップメニューが終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。



メモ

メイン画面で「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

工場出荷時の値に戻す

- 1 メイン画面で【 **X** 】を使って「 デフォルト値をロード 」にカーソルを合わせる
- 2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。
- 3 【 **X** 】で「 はい 」を選び、【Enter】を押す

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。
表中の反転部分は、購入時の設定です。

標準セットアップ

システム日付(年/月/日)

日付を「年/月/日(西暦)」で設定します。

メモリ容量

パソコンのメモリ容量が自動計算されます。

システム時刻(時:分:秒)

現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で設定します。

フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-------------|-----------------------------|---|
| フロッピーディスクA: | 使用しない 1.44MB 3.5" | 「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブが接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているフロッピーディスクドライブが使用できます。 |

内蔵IDE

現在接続されているIDEデバイスの設定をします。



チェック

この設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------|--|---|
| Type | ユーザ設定 <input checked="" type="checkbox"/> 自動 CD-ROM/CD-RW 使用しない | 「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。 |
| CylIn | 0-65535 | シリンダ数を設定します。 ¹ |
| Head | 0-255 | ヘッド数を設定します。 ¹ |
| WPcom | 0-65535 | ヘッド待避シリンダ番号を設定します。 ¹ |
| Sec | 0-255 | セクタ数を設定します。 ¹ |
| LBA Mode | <input checked="" type="checkbox"/> オン オフ | LBAモードを使用するかどうかを指定できます。 ² |
| Blk Mode | <input checked="" type="checkbox"/> オン オフ | マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。 ² |
| PIO Mode | <input checked="" type="checkbox"/> 自動 0-4 | CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。 ² |
| 32Bit Mode | <input checked="" type="checkbox"/> オン オフ | 32ビットIDEデータ転送を使用するかどうか設定できます。 |

¹ 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

² 「Type」を「ユーザ設定」「CD-ROM/CD-RW」に設定したときのみ指定可

拡張IDE

拡張して接続するIDEディスクの設定をします。



チェック

本設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------|---|---|
| Type | ユーザ設定 自動 CD-ROM/CD-RW 使用しない | 接続されるデバイスのタイプを変更します。「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。 |
| Cylinder | 0-65535 | シリンダ数を設定します。 ¹ |
| Head | 0-255 | ヘッド数を設定します。 ¹ |
| WP com | 0-65535 | ヘッド待避シリンダ番号を設定します。 ¹ |
| Sector | 0-255 | セクタ数を設定します。 ¹ |
| LBA Mode | オン オフ | LBAモードを使用するかどうかを指定できます。 ² |
| Block Mode | オン オフ | マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。 ² |
| PIO Mode | 自動 0-4 | CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。 ² |
| 32Bit Mode | オン オフ | 32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。 |

¹ 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

² 「Type」を「ユーザ設定」「CD-ROM/CD-RW」「スーパーディスク」に設定したときのみ指定可

起動セクタへのウイルス感染防止

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------------|----------------------|---|
| 起動セクタへのウイルス感染防止 | 使用する 使用しない | ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。 |

拡張セットアップ(システムの設定)

LCD パネル拡大表示

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-------------|----------|---------------------------|
| LCD パネル拡大表示 | オン オフ | LCD パネルの拡大表示を行うかどうか設定します。 |

モデルにより購入時の設定が異なります。

12.1型(XGA)モデル : オン

12.1型(SVGA)モデル : オフ

NX パッド

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------|---------------|--|
| NX パッド | 使用する 使用しない | 「使用する」に設定すると、NX パッドを使用することができます。USB マウスを使用するときにNX パッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。 |

セキュリティセットアップ

スーパーバイザパスワードの設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「パスワードを設定する」(p.75)

ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードを設定していないと設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「パスワードを設定する」(p.75)

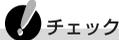
起動時のパスワード

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------|-----------|---------------------------------|
| 起動時のパスワード | はい いいえ | システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。 |

レジューム時のパスワード

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------------|------------------|--------------------------------|
| レジューム時のパスワード | はい いいえ | レジューム時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。 |

省電力セットアップ



チェック

このパソコンでは、「省電力セットアップ」の設定はすべて無効になります。省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行ってください（ p.67 ）

システムスイッチ切り替え

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------------|--------------------------|---|
| システムスイッチ切り替え | パワーボタン スリープボタン | 電源スイッチの機能を設定します（「スリープボタン」に設定すると、電源スイッチでスリープモードに移行できます）。 |

AC電源駆動時の省電力

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-------------|-----------------|---------------------------------|
| AC電源駆動時の省電力 | オン オフ | AC電源駆動時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。 |

省電力レベルの設定

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------|-------------------------------------|--|
| 省電力レベルの設定 | オフ ユーザ設定 性能優先 最大省電力 | 「オフ」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「性能優先」ではこのパソコンの性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、動作時間を優先した設定になります。 |

「ユーザ設定」を設定すると、CPUスピード、ハードディスクタイムアウト値などを任意に変更できます。

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-------------------|---|---|
| CPUスピード | 100% / 50% / 25% / 12.5% | CPUスピードを4つのレベルから選ぶことができます。 |
| ハードディスク タイムアウト | オフ / 5秒 / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分 | 設定した時間を経過してもハードディスクに対するアクセスがなかった場合、ハードディスクのモーターを停止します。 |
| ビデオタイムアウト | オフ / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分 | 設定した時間を経過しても本体のキーボードやポインティングデバイスの操作が行われなかった場合、液晶ディスプレイの表示を停止します。 |
| 周辺機器 タイムアウト | オン オフ | 「オン」に設定すると、シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクに対するアクセスが2秒間以上なかった場合、それぞれのデバイスを停止します。 |
| オーディオタイムアウト | オン オフ | 「オン」に設定すると、サウンド機能が30秒以上使用されなかった場合、オーディオデバイスを停止します。 |
| 自動スタンバイ タイムアウト | オフ / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分 | 設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。 |
| 自動スリープ タイムアウト | オフ / 5分 / 10分 / 15分 / 20分 / 25分 / 30分 | 設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータを「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。 |

別売のUSBキーボード、ポインティングデバイスでの操作を除く。

LCDパネル連動スリープ

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------------|----------------------|---|
| LCDパネル連動 スリープ | 使用する 使用しない | 「使用する」に設定すると、LCDパネルを閉じたときに「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。 |

スリープ種別

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------|--------------------------|-------------------|
| スリープ種別 | サスペンド ハイバネーション | スリープモードの種別を変更します。 |

自動ハイバネーション

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------|----------------------|---|
| 自動ハイバネーション | 使用する 使用しない | 「使用する」に設定すると、サスペンド状態に移行してから30分経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。 |

LCDパネル輝度設定

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------|--|-------------------|
| LCDパネル輝度設定 | 自動 ¹ ユーザ設定 ² | LCDパネルの明るさを調節します。 |

- 1: 自動設定にすると、起動時には電源を切る前に設定した輝度になり、キーボードやポインティングデバイスからの操作が15秒間ないと自動的に最低輝度になります(ただし、USBキーボード、USBポインティングデバイスからの操作では、最低輝度からの復帰はありません)。
- 2: ホットキーで設定した輝度が次回起動時にも有効になります。

スリープ時警告音

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|----------|----------------------|------------------------------------|
| スリープ時警告音 | 使用する 使用しない | 「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。 |

リモート電源制御

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|----------|-----------------------------|------------------------|
| リモート電源制御 | 使用する 使用しない | リモート電源制御を行うかどうかを設定します。 |

Windows 98でこの機能は使用できません。

時刻指定によるレジューム

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------------|-----------------------------|--|
| 時刻指定によるレジューム | 使用する 使用しない | 「使用する」に設定すると、「レジューム時刻」で指定した時刻になるとスリープモードから復帰します。 |
| レジューム時刻 | オフ | このパソコンでは使用できません。 |

Windows 98では、この機能は使用できません。

起動デバイスセットアップ

クイックブート

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|---------|----------------------|---|
| クイックブート | 使用する 使用しない | 「使用する」に設定すると、BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。 |

ロゴ表示

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------|------------------------------|-----------------|
| ロゴ表示 | 使用する スキップ 使用しない | 起動時の表示画面を設定します。 |

BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後に【F2】を押してください。

起動時表示デバイス

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------|------------------------|-----------------------|
| 起動時表示デバイス | 同時表示 LCD表示 CRT表示 | 起動時に表示するディスプレイを設定します。 |

起動時Numロック

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------|----------|--------------------------------|
| 起動時Numロック | オフ オン | 起動時に【Num Lock】キーをオンにするかを設定します。 |

第一起動デバイス

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|----------|---|----------------------|
| 第一起動デバイス | 使用しない IDE HDD フロッピー CD-ROM/CD-RW ネットワーク | 一番最初に起動するドライブを設定します。 |

第二起動デバイス

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|----------|---|---------------------|
| 第二起動デバイス | 使用しない IDE HDD フロッピー CD-ROM/CD-RW | 二番目に起動するドライブを設定します。 |

第三起動デバイス

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|----------|---|---------------------|
| 第三起動デバイス | 使用しない IDE HDD フロッピー CD-ROM/CD-RW | 三番目に起動するドライブを設定します。 |

その他のデバイスから起動

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------------|-----------|---|
| その他のデバイスから起動 | はい いいえ | 設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。 |

周辺機器セットアップ

周辺機器に関する設定をします。

USBコントローラ

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------|---------------|----------------------------------|
| USBコントローラ | 使用する 使用しない | 「使用しない」に設定すると、USBコントローラを初期化しません。 |

内蔵ハードディスク

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|-----------|---------------|------------------------|
| 内蔵ハードディスク | 使用する 使用しない | 内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。 |

シリアルポート

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|---------|---|---|
| シリアルポート | 使用しない COM1 IRQ4 COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動 | ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。 |

ワイヤレスインターネットモデルのみ本設定が表示されます。

パラレルポート

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|---------|-----------------------------|---|
| パラレルポート | 使用しない LPT1 LPT2 自動 | ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。 |
| パラレルモード | EPP ECP 出力のみ 双方向 | パラレルポートのモードを設定します。特定の周辺機器は、特殊パラレルモードでしか動作しません。それぞれの周辺機器のマニュアルを参照してください。 |

赤外線ポート

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|--------|---|---|
| 赤外線ポート | 使用しない COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動 | ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」に設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。 |

PIAFS使用時のランプ切り替え

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------------|-----------------|---|
| PIAFS使用時のランプ切り替え | 着信 圏内 | ワイヤレスインターネットモデルで「圏内」に設定すると、メール着信ランプ(☒)を圏内 / 圏外表示ランプとして使用することができます。メール着信ランプとして使用するときには、「着信」に設定します。 |

ワイヤレスインターネットモデルのみ本設定が表示されます。

表示言語(Language)セットアップ

セットアップの表示言語を設定します。

表示言語(Language)セットアップ

| 設定項目 | 設定内容 | 説明 |
|------------------------------|--|-------------------|
| 表示言語 (Language) セットアップ | 英語(English) 日本語(Japanese) フランス語(French) | 標準では日本語に設定されています。 |

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュを行います。



参照

バッテリーリフレッシュ PART1の「バッテリーリフレッシュ」(p.54)

P A R T

7

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

パソコンのお手入れ

用意するもの

汚れが軽いとき

やわらかい素材の乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ強くしぼったきれいな布



メモ

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先 「NEC PCあんしんサポートガイド」または「サポートセンター」-「サービス&サポート」-「NECのサービス&サポート窓口」

パソコンのお手入れをはじめる前に

△注意



感電注意

お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

本体

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。キーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。ゴミがとれないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

NXパッド

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取るようにしてください。



参照

NECのお問い合わせ先「NEC PCあんしんサポートガイド」または「サポートセンター」-「サービス&サポート」-「NECのサービス&サポート窓口」

Windows 98でMS-DOSモードを利用する

MS-DOSモードを利用する

MS-DOSプロンプトで動作しないMS-DOSアプリケーションを利用するために、MS-DOSモードで起動することができます。



チェック

プログラムによっては、このパソコンのMS-DOSモードおよびMS-DOSプロンプトでは利用できないものがあります。特にPC-9800シリーズ対応のアプリケーションの多くは動作しません。アプリケーションが利用できるかについてはアプリケーションの製造元にお問い合わせください。

MS-DOSモードで再起動する

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

MS-DOSモードを終了する

- 1 コマンドプロンプトの画面から、次のように入力する

EXIT

Windows 98が再起動します。

MS-DOSモードとMS-DOSプロンプトの違い

MS-DOSアプリケーションやMS-DOSコマンドを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。「MS-DOSモード」は、MS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 98上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

MS-DOSプロンプトを起動する

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。



メモ

「MS-DOSモード」または「MS-DOSプロンプト」からは使用できないコマンドやアプリケーションもあります。

MS-DOSモードでCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを利用する

購入時の設定では、MS-DOSモードでCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用することはできません。MS-DOSモードで添付のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用する場合は、次の手順が必要です。

以降の説明では、CD-ROMドライブを例に説明しています。CD-R/RWモデルを使用している場合は、「CD-ROMドライブ」を「CD-R/RWドライブ」に読み替えてください。



チェック

CD-R/RWドライブは、MS-DOSモードでは、CD-ROMドライブとしてのみ使うことができます。

現在のMS-DOSモードで添付のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使う場合

現在のMS-DOS設定を使って、MS-DOSモード上でCD-ROMまたはCD-R/RWを使うときには、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

SETCD /A

CD-ROMドライブがCONFIG.SYS、DOSSTART.BATに追加され、SETCD実行前のCONFIG.SYS、DOSSTART.BATは拡張子SCDとして保存されます。

4 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する



Windows 98が再起動します。

5 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする

6 「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする 再起動します。

7 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックする

8 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする MS-DOSモードが起動し、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブがQドライブに割り当てられます。

新しいMS-DOS設定を指定する場合

新しいMS-DOS設定を指定して、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用するには、次の操作を行ってください。

1 「スタート」ボタン 「プログラム」「エクスプローラ」でエクスプローラを 起動する 「エクスプローラ」が表示されます。

2 C:¥COMMAND.COMをクリックする プログラム名が反転表示されます。



COMMAND.COMは、COMMANDと表示されることもあります。表示の設定を変更するには、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「ファイル/フォルダ」の中の「ファイル名の拡張子が表示されない」をご覧ください。

3 「エクスプローラ」の「ファイル」メニュー 「プロパティ」をクリックするか、 またはCOMMAND.COMを右クリックして「プロパティ」をクリックする 「Commandプロパティ」が表示されます。

4 「プログラム」タブをクリックして、「詳細設定」ボタンをクリックする 「プログラムの詳細設定」が表示されます。

- 5 「MS-DOSモード」をクリックして、「新しいMS-DOS設定を指定する」を☑にする
CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの内容が編集できるようになります。
- 6 「OK」ボタンをクリックする
「プログラムの詳細設定」が閉じます。
- 7 「OK」ボタンをクリックする
「プロパティ」が閉じます。
- 8 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定したCOMMAND.COMをダブルクリックする
MS-DOSモードが起動します。

- 9 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

```
SETCD /A
```

CD-ROMドライブがCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATに追加され、SETCD実行前のCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは拡張子SCDとして保存されます。

- 10 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

```
EXIT
```

Windows 98が再起動します。

- 11 エクスプローラを起動していない場合は、「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」でエクスプローラを起動する
「エクスプローラ」が表示されます。
- 12 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定をしたCOMMAND.COMをダブルクリックする
MS-DOSモードが起動し、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブがQドライブに割り当てられます。



新しいMS-DOS設定をしたCOMMAND.COMを起動した場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。
「このプログラムはMS-DOSモードで実行するように設定されており、ほかのプログラムの動作中には実行できません。続行するとほかのプログラムをすべて終了します。続行しますか?」

Windows 2000 Professionalを使う

Windows 2000 Professionalをセットアップする前に

Windows 2000の2000年問題対応について

NECのホームページ「98Information」(<http://www.nec.co.jp/98/>)では、コンピュータの2000年問題対応について情報を提供しています。



参照

コンピュータの2000年問題 「サポートセンター」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「西暦2000年問題について知りたい」

セットアップに必要なもの

Windows 2000のセットアップには次のものがが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・本機に添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」
(以下「アプリケーションCD-ROM」)
- ・別売の「Windows 2000 Professional CD-ROM Disc1, Disc2」
(以下「Windows 2000 CD-ROM」)
- ・フロッピーディスクドライブ

セットアップでは、フロッピーディスクを使います。あらかじめ、フロッピーディスクドライブが使えるように準備しておいてください。

- ・CD-ROMドライブ・CD-R/RWDドライブ(またはCD-ROMを使用できるその他のドライブ)

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWDドライブが添付されていないモデルをご使用の方は、別売のCD-ROMを使用できるドライブ(CD-ROMドライブなど)を接続し、そのドライブに添付されているドライブのフロッピーディスクを用意してください。

このマニュアルでは、CD-ROMドライブを使用した場合の説明が記載されています。CD-ROMドライブ以外のドライブを使用する方は、「CD-ROMドライブ」をご使用のドライブ名に読み替えてください。

セットアップの説明について

ここでの説明はWindows 2000をインストールするときに、次のようなドライブ構成になっていることを想定しています。異なるドライブ構成で利用する場合は、必要に応じてドライブ名を読み替えてください。

- ・ フロッピーディスクドライブ Aドライブ
- ・ Windows 2000をインストールするドライブ Cドライブ
- ・ CD-ROMドライブ Eドライブ

Windows 2000をセットアップする手順

このパソコンで別売のWindows 2000を利用するためには、次の手順でWindows 2000をセットアップする必要があります。

1. パソコン本体の準備をする
2. Windows 2000をセットアップする
3. 周辺機器の設定を行う



チェック

「NEC PC セットアップガイド for Windows[®] 2000」は必要ありません。

Windows 2000 Professionalを使うときの注意

Windows 2000 Professionalでは、ワンタッチスタートボタンは使用できません。

1. パソコン本体の準備をする

次の準備を行ってください。

- ・ BIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻す
- ・ 電源を切る
- ・ CD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブ以外の周辺機器を取り外す
- ・ ACアダプタを接続する

BIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻す

次の手順でBIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻してください。



メモ

BIOSセットアップメニューの設定を初期値に戻しても、スーパーバイザパスワードやユーザパスワードは解除されません。

1 電源を入れる

- 2 「NEC」のロゴが表示されたらすぐにキーボードの【F2】を押す
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 3 「デフォルト値をロード」を選び、【Enter】を押す
セットアップの確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」を選び、【Enter】を押す
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 5 キーボードの【F10】を押す
セットアップの確認のダイアログボックスが表示されます。
- 6 「はい」を選び、【Enter】を押す
これでBIOSセットアップメニューの設定が初期値に戻りました。

電源を切る

スタンバイ状態(サスペンド)や休止状態(ハイバネーション)になっている場合には一度データを保存し、電源を切ってください。

CD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブ以外の周辺機器を取り外す

セットアップに必要なCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブ以外の周辺機器を取り外してください。

ACアダプタを接続する

バッテリー駆動では再セットアップすることはできません。必ずACアダプタを接続しておいてください。

2. Windows 2000 Professionalをセットアップする

- ・「アプリケーションCD-ROM」の「¥WIN2K」フォルダにWindows 2000の補足事項を記述したファイル「README.TXT」があります。セットアップを行う前にお読みください。
- ・このパソコンにWindows 2000をセットアップするときは、別売の「Microsoft Windows 2000 日本語版」のオンライン版[®]Microsoft Windows 2000ファーストステップガイド[®]をご覧ください。セットアップを行うようにしてください。



チェック

- ・「Windows 2000 の紹介」ウィンドウが一番前に表示されている場合は、タイトルバーの ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。
- ・CD-ROMドライブに「Windows 2000 CD-ROM」をセットした後、自動的に「Windows 2000 CD-ROM」の画面が表示されることがあります。画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして画面を終了し、セットアップを続けてください。

Windows 2000のセットアップ

このパソコンにWindows 2000を新規に組み込む場合について説明します。ここで詳しく解説されていない手順については、別売の「Microsoft Windows 2000日本語版」のオンライン版『Microsoft Windows 2000ファーストステップガイド』をご覧ください。のうえ、セットアップを行うようにしてください。

- 1 電源を入れ、CD-ROMドライブに「Windows 2000 CD-ROM Disc1」をセットする
- 2 「Press any key to boot from CD」と表示されたら【Enter】を押す
- 3 「セットアップ:」の画面が表示されたら、【Enter】を押す
- 4 「セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、【Enter】を押す
- 5 ライセンス契約画面が表示されたら、内容を確認し、同意する場合は【F8】を押す
「PageDown」を押すと画面がスクロールします。なお、表示される内容に同意しない場合は、セットアップできません。
- 6 キーボードの種類を選択する画面が表示されたら、「106 日本語キーボード」を選択する
- 7 「106 Japanese Keyboard(Including USB) よろしいですか?(Y/N)」の画面が表示されたら、【Y】を押す
- 8 Windows 2000をインストールするパーティション、ファイルシステム、ディレクトリの設定を行う
- 9 ファイルのコピー終了後、画面の指示に従いフロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出し、コンピュータを再起動する

- 10** 再起動後、「セットアップウィザードの開始」の画面で、「次へ」ボタンをクリックする
数秒後に自動的に次の画面に進みます。
- 11** 次の設定を行う
- ・地域
 - ・ソフトウェアの個人用設定
 - ・プロダクトキー
 - ・コンピュータ名とAdministratorのパスワード
 - ・日付と時刻の設定
- 12** 画面の指示に従ってネットワークの設定を行う
- 13** ファイルのコピーが終了すると「Windows 2000セットアップウィザードの完了」の画面が表示されるので、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出し、「完了」ボタンをクリックする
自動的に再起動します。
- 14** 再起動後、「ネットワーク識別ウィザードの開始」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 15** コンピュータにログオンするユーザーを指定し、「次へ」ボタンをクリックする
- 16** 「ネットワーク識別ウィザードの終了」の画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

以上でWindows 2000のセットアップは終了です。
次に「ドライブのコピー」へ進んでください。

ドライブのコピー

- 1** 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「コマンドプロンプト」をクリックする
- 2** 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力する
ここでは、CD-ROMドライブをEドライブとして説明しています。お使用の環境に合わせて、実際のドライブ名に読み替えてください。



```
E: (
CD ¥WIN2K (
DRVCOPY.BAT (
```

4 画面の指示にしたがってコピーする

5 コピーが終了したら、CD-ROMドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出す

以上で、ドライバのコピーは終了です。

3. 周辺機器の設定を行う

Windows 2000のセットアップ後、周辺機器の設定を行います。お使いのモデルにあわせて、必要な部分をご覧ください。

周辺機器の設定は、必ず記載されている順に行ってください。

1. Windows 2000環境設定プログラムの実行
2. NX PADドライバのセットアップ
3. 内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ
4. 3モードFDドライバのセットアップ
5. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ
6. 赤外線通信機能のセットアップ
7. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ
8. ワイヤレス通信機能のセットアップ

1. Windows 2000環境設定プログラムの実行

Windows 2000をご使用になる場合、まず最初に「Windows 2000環境設定プログラム」を適用してください。「Windows 2000環境設定プログラム」(SETENVX.EXE)では、Windows 2000上での環境設定を行います。

次の手順でインストールを行います。



チェック

SETENVX.EXEを実行する場合は、Administrator権限のあるユーザで実行してください。

- 1 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「コマンドプロンプト」をクリックする
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力する

```
E: <=>
CD ¥WIN2K¥SETENVX <=>
SETENVX.EXE <=>
```

- 4 プログラム開始のメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックする
- 5 プログラム終了後、終了のメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックする
- 6 パソコンを再起動する

以上で「Windows 2000環境設定プログラムの実行」は終了です。
次の「NXPADドライバのセットアップ」へ進んでください。

2. NX PADドライバのセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「Administrator」でログインする
- 2 使用中のアプリケーションをすべて終了する
- 3 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、一覧に表示されている「標準PS/2ポートマウス」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 9 「参照」ボタンをクリックする
- 10 「ファイルの場所」に以下のフォルダを指定する

C: ¥ WIN2K ¥ SLIDEPAD
- 11 「Apfiltr.inf」を選択してから「開く」ボタンをクリックする
- 12 「OK」ボタンをクリックする

13 「NX PAD」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする

14 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコンピュータにコピーされます。

15 「完了」ボタンをクリックする

16 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。

17 「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

以上で「NX PADドライバのセットアップ」は終了です。
次の「内蔵FAXボード対応ドライバのセットアップ」へ進んでください。

3. 内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ

この手順は、FAXモデム内蔵モデルにのみ必要な手順です。
内蔵FAXモデムボードを利用するには、次の手順でドライバをセットアップします。

1 「Administrator」でログインする

2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

4 「その他のデバイス」の「PCI Device」をダブルクリックする
「PCI Deviceのプロパティ」が起動します。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

6 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする

7 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

8 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

9 「製造元のファイルのコピー元」欄に次のように入力する

C: ¥WIN2K¥RWMODEM

- 10 「OK」ボタンをクリックする
- 11 ドライバファイルの検索画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 12 「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックする
- 13 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 14 「閉じる」ボタンをクリックする
- 15 パソコンを再起動する

以上で「内蔵FAXモデムボード対応ドライバのセットアップ」は終了です。
次の「3モードFDドライバのセットアップ」へ進んでください。

4. 3モードFDドライバのセットアップ

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3 「フロッピーディスクコントローラ」の「標準フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリックする
- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 5 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「場所を指定」のみを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

- 8** CD-ROMドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットし、次のように入力する

E: ¥WIN2K ¥3MODE

- 9** 「OK」ボタンをクリックする
- 10** 「次のデバイスのドライバが検索されました」と表示されたら、「別のドライバを1つインストールする」にチェックをつけて「次へ」ボタンをクリックする
- 11** リストの一覧から次のものを選択する

NEC PC98-NX 3-mode Floppy controller (Type J)

- 12** 「次へ」ボタンをクリックする
- 13** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 14** 「閉じる」ボタンをクリックする
- 15** パソコンを再起動する
- 16** 再起動後、「コントロールパネル」を開き「システム」アイコンをダブルクリックする
- 17** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 18** 「フロッピーディスクドライブ」の「フロッピーディスクドライブ」をダブルクリックする
- 19** 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 20** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする
- 21** 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 22** 「場所を指定」のみを選択し、「次へ」ボタンをクリックする

23 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力する

E: ¥ WIN2K ¥ 3MODE

24 「OK」ボタンをクリックする

25 「次のデバイスのドライバが検索されました」と表示されたら、「別のドライバを1つインストールする」をチェックして「次へ」ボタンをクリックする

26 「検出されたドライバファイル」のリストの中から次のものを選ぶ

NEC PC98-NX 3-mode floppy disk drive

27 「次へ」ボタンをクリックする

28 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

29 「閉じる」ボタンをクリックする

30 再起動を促すメッセージが表示されたら、CD-ROMドライブから「アプリケーションCD-ROM」を取り出し、「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

以上で「3モードFDドライバのセットアップ」は終了です。
次の「内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ」へ進んでください。

5. 内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3** 「その他のデバイス」の「ビデオコントローラ(VGA互換)」をダブルクリックする
- 4** 「ドライバの再インストール」ボタンをクリックする
- 5** 「次へ」ボタンをクリックする

- 6 「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリックする

C: ¥WIN2K ¥SM721
- 9 「次へ」ボタンをクリックする
ファイルのコピーがはじまります。
- 10 「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示されたら、「はい」ボタンをクリックする
- 11 「完了」ボタンをクリックする
- 12 「閉じる」ボタンをクリックする
- 13 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

以上で「内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ」は終了です。
次の「赤外線通信機能のセットアップ」へ進んでください。

6. 赤外線通信機能のセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3 「赤外線デバイス」の「内蔵赤外線デバイス」をダブルクリックする



チェック

デバイスマネージャで赤外線デバイスが表示されていない場合は、BIOS セットアップメニューで「赤外線ポート(IR Serial Port)」が「自動 Auto」に設定されているか確認してください。

- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
- 5 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力する

C: ¥WIN2K ¥IRSMCNX

- 9 「OK」ボタンをクリックする
- 10 「現在よりさらに、適切なドライバが検出されました」と表示されたら「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「完了」ボタンをクリックする
- 12 「閉じる」ボタンをクリックする
- 13 再起動を促すメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

以上で「赤外線通信機能のセットアップ」は終了です。
次の「内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ」へ進んでください。

7. 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「Administrator」でログオンする
- 2 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 3 「名前」欄に「C: ¥WIN2K ¥EV1938 ¥EV1938.BAT」と入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 4 「コントロールパネル」を開き「システム」アイコンをダブルクリックする
- 5 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする

- 6 「その他のデバイス」の「マルチメディアオーディオコントローラ」をダブルクリックする
「マルチメディアオーディオコントローラのプロパティ」の画面が表示されます。
- 7 「全般」タブをクリックし、「ドライバの再インストール」ボタンをダブルクリックする
- 8 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が起動するので「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「このデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択して、「次へ」ボタンをクリックする
- 10 「場所を指定」を選択し「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「製造元のファイルのコピー元」の欄に「C:¥WIN2K¥EV1938」と入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 12 「次へ」ボタンをクリックする
- 13 「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」をクリックする
- 14 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
- 15 「Creative SB AudioPC(WDM)のプロパティ」または、「ESS AllegroPCI AudioPC(WDM)のプロパティ」の画面で、「閉じる」ボタンをクリックする
- 16 再起動をうながされた場合は、「はい」ボタンをクリックする
うながされなかった場合は、「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリックし、「再起動」を選択して「OK」ボタンをクリックする

再起動後にサウンドドライバが有効になります。

以上で「内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ」は終了です。
次の「ワイヤレス通信機能ドライバのセットアップ」へ進んでください。

8. ワイヤレス通信機能ドライバのセットアップ

この手順は、ワイヤレスモデルにのみ必要な手順です。
ワイヤレス通信機能を利用するには、次の手順でドライバをセットアップします。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする
- 3 「その他のデバイス」に「NEC PIAFS64K DCXB」がある場合は選択し、「削除」アイコンをクリックする
「NEC PIAFS64K DCXB」がない場合は、手順5に進んでください。
- 4 「デバイス削除の確認」画面が表示されたら、「OK」ボタンをクリックする
- 5 「デバイスマネージャ」画面を閉じる
- 6 「システムのプロパティ」画面の「OK」ボタンをクリックする
- 7 電源を切る
- 8 電源を入れる
- 9 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックする
- 10 「NEC PIAFS64K DCXB」と表示されていることを確認し、検索方法で「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「場所を指定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 12 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力する

C: ¥WIN2K ¥PHS

- 13 「OK」ボタンをクリックする
- 14 「デバイス」『ドライバのある場所』として次のデバイスおよび場所が検出されるので、「次へ」ボタンをクリックする

デバイス :NEC PIAFS64K DCXB

場所 :c:¥win2k¥phs¥mdmnpf2.inf

15 「デジタル署名が見つかりませんでした」の画面が表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

16 「NEC PIAFS64K Wireless(DCXB)このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。」というメッセージが表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

17 パソコンを再起動する

以上で「ワイヤレス通信機能のセットアップ」は終了です。

携帯 / PHSインターフェイスの利用

Windows 2000で携帯 / PHSインターフェイスを使用する場合には、ドライバの更新が必要です。ドライバは、2000年7月以降に以下のホームページから入手できる予定です。

<http://www.nec.co.jp/98/>

機能一覧

本体

| | | | |
|--------------|--|---|--|
| 型名 | LM500J/32D2 LM500J/32D29 LM500J/32D LM500J/32D9 | LM40H/32D1 LM40H/32D19 LM40H/32D6 LM40H/32D69 | LM500J/32DW LM500J/32DW9 |
| 型番 | PC-LM500J32D2 PC-LM500J32D29 PC-LM500J32D PC-LM500J32D9 | PC-LM40H32D1 PC-LM40H32D19 PC-LM40H32D6 PC-LM40H32D69 | PC-LM500J32DW PC-LM500J32DW9 |
| CPU | Mobile Pentium プロセッサ 500MHz | Mobile Intel Celeronプロセッサ 400MHz | Mobile Pentium プロセッサ 500MHz |
| 内蔵キャッシュメモリ | 32Kバイト | | |
| セカンドキャッシュメモリ | 256Kバイト(CPU内蔵) | 128Kバイト(CPU内蔵) | 256Kバイト(CPU内蔵) |
| メモリ | ROM | 512Kバイト(BIOSほか) | |
| | メインRAM | 標準64Mバイト(システムバス100MHz対応) | |
| | | 最大 | 192Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を1枚増設した場合) |
| | ビデオRAM | 4Mバイト | |
| 表示機能 | 表示素子 | バックライト付12.1(XGA)型 TFTカラー液晶ディスプレイ ¹ | |
| | ウインドウアクセラレータ | Silicon Motion社製Lynx3DM標準搭載 640×480ドット(16色 / 26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(256色 / 65536色 / 1677万色) | |
| | 別売のCRT ディスプレイ接続時 | 640×480ドット(16色 / 256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(256色 / 65536色 / 1677万色) | |
| サウンド機能 | PCM録音・再生機能 | 内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 22.05KHz/44.1KHz) 全二重化対応(モノラル、量子化8ビット時) | |
| | MIDI音源機能 | 内蔵(拡張WAVE Table音源 [WAVE Table音源最大64音]) | |
| | スピーカ・マイク | ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵 | |
| | サラウンド | エンハンスト・ステレオ機能 | |

| | | | | |
|-----------|---|--|---|----------------------|
| 型名 | LM500J/32D2 LM500J/32D29 LM500J/32D LM500J/32D9 | LM40H/32D1 LM40H/32D19 LM40H/32D6 LM40H/32D69 | LM500J/32DW LM500J/32DW9 | |
| 型番 | PC-LM500J32D2 PC-LM500J32D29 PC-LM500J32D PC-LM500J32D9 | PC-LM40H32D1 PC-LM40H32D19 PC-LM40H32D6 PC-LM40H32D69 | PC-LM500J32DW PC-LM500J32DW9 | |
| 通信機能 | モデム | モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps (K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5) | ワイヤレスモデムステーション 添付ワイヤレスデータ通信機能内蔵(PIAFS64K対応 ²) モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90) エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5) | |
| | 携帯 / PHS インターフェイス | 携帯電話:9.6kbpsデータ通信 / 9.6kbps・28.8kbps/パケット通信 cdmaOne:14.4kbpsデータ通信 PHS:PIAFS 32Kデータ通信 / PIAFS 64Kデータ通信 (NTTドコモのみ) | なし | |
| | FAX | データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17) FAX制御クラス1 | | |
| 入力装置 | キーボード | 本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付 | | |
| | ポインティングデバイス | NXパッド標準装備 | | |
| 補助記憶装置 | フロッピーディスクドライブ | 外付3.5型フロッピーディスクドライブ×1(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応) | | |
| | 固定ディスクドライブ ³ | <ul style="list-style-type: none"> ・LM500J/32D2、LM500J/32D29の場合: 約20Gバイト⁴ ・LM500J/32D、LM500J/32D9の場合: 約12Gバイト⁵ | <ul style="list-style-type: none"> ・LM40H/32D1、LM40H/32D19の場合: 約10Gバイト⁶ ・LM40H/32D6、LM40H/32D69の場合: 約6Gバイト⁷ | 約12Gバイト ⁵ |
| | CD-ROMドライブ | 外付CD-ROMドライブ: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE&FORM1/2) マルチセッション対応、マルチリード対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 | | |
| インターフェイス | フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、ディスプレイアナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15) USB×3 | | | |
| | サウンド関連 | ヘッドホン出力 / ライン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミニジャック / 光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) | | |
| PCカードスロット | TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) ⁸ PC Card Standard準拠、CardBus/ZVポート対応 ⁹ | | | |
| パワーマネジメント | 自動または任意設定可能 | | | |
| セキュリティ機能 | ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック (市販の盗難防止用ケーブルを使用)、スマートカード(別売) | | | |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 型名 | LM500J/32D2 LM500J/32D29 LM500J/32D LM500J/32D9 | LM40H/32D1 LM40H/32D19 LM40H/32D6 LM40H/32D69 | LM500J/32DW LM500J/32DW9 |
| 型番 | PC-LM500J32D2 PC-LM500J32D29 PC-LM500J32D PC-LM500J32D9 | PC-LM40H32D1 PC-LM40H32D19 PC-LM40H32D6 PC-LM40H32D69 | PC-LM500J32DW PC-LM500J32DW9 |
| バッテリー駆動時間 ¹⁰ | LM500J/32D2、LM500J/32D29、LM40H/32D1、 LM40H/32D19の場合： 約1.1～1.8時間 (別売のバッテリー接続時約6.6～10.5時間) 上記以外の場合： 約1.1～2.0時間 (別売のバッテリー接続時約7.0～12.0時間) | | 約1.1～2.0時間 (別売のバッテリー接続時 約6.8～11.5時間) |
| バッテリー充電時間 ¹⁰ | 約2.1時間(電源OFF時約1.6時間) | | |
| バッテリーによるスタン バイ状態保持時間 ¹⁰ (バッテリーフル充電時) | 約3日 | | |
| 電源 | リチウムイオンバッテリー(DC10.8V、1,550mAh) ¹¹ またはAC100V ± 10%、50/ 60Hz(ACアダプタ経由 ¹²) | | |
| 消費電力 | 約13W 内蔵オプション最大接続時約45W | | |
| 温湿度条件 | 5～35、20～80% ¹³ (ただし、結露しないこと) | | |
| 外形寸法 | 283(W)×224(D)×21(H)mm(最上部27(H)mm 突起部含まず) | | |
| 質量 ¹⁰ | 約1.55kg | | 約1.57kg |

- 1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2: 米国特許第4,588,302号 ライセンス済み。Licensed under U.S.Patent 4,588,302
- 3: 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 4: Windowsのシステムからは、約18.5Gバイトと認識されます。
- 5: Windowsのシステムからは、約11.2Gバイトと認識されず。
- 6: Windowsのシステムからは、約9.3Gバイトと認識されます。
- 7: Windowsのシステムからは、約5.5Gバイトと認識されます。
- 8: MS-DOSモードでは使用できません。
- 9: ZVポート対応のPCカードは下のスロットのみで使用できます。
- 10: 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 11: バッテリーパックは消耗品です。
- 12: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。
- 13: 18～25、45～75%での使用を推奨。

内蔵FAXモデム

機能概要

| 項目 | 規格 |
|------------|---|
| CPU I/F | PCIローカルバスインターフェイス 16550A相当(I/Oアクセス、割り込み) |
| NCU部 | ・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能 |
| モデムチップセット部 | <ul style="list-style-type: none"> ・CPU直結パラレルアクセスによる高スループット K56flex、V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御) |

FAX機能

| 項目 | 規格 |
|--------------|--|
| 交信可能ファクシミリ装置 | ITU-T G3ファクシミリ装置 |
| 適用回線 | 加入電話回線 |
| 同期方式 | 半二重調歩同期方式 |
| 通信速度 | 14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps |
| 通信方式 | ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2 |
| 変調方式 | QAM:14400/12000/9600/7200bps |
| | DPSK:4800/2400bps |
| | FSK:300bps |
| 送信レベル | -13dBm |
| 受信レベル | -10 ~ -40dBm |
| 制御コマンド | EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1) |

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

| 項目 | 規格 |
|--------|---|
| 適用回線 | 加入電話回線 |
| 同期方式 | 全二重調歩同期方式 |
| 通信速度 | 送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/ 40000/38000/36000/34000/32000 ¹ |
| 通信規格 | K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21 |
| 変調方式 | TCM:56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/ 40000/38000/36000/34000/33600/32000/31200/28800/26400/ 24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps |
| エラー訂正 | ITU-T V.42 MNP class4 |
| データ圧縮 | ITU-T V.42bis MNP class5 |
| 送信レベル | -13dBm |
| 受信レベル | -10 ~ -40dBm |
| 制御コマンド | HayesATコマンド準拠 ² |

1 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2 ATコマンドについては、「サポートセンター」「パソコンを使いこなそう」「ハードウェア情報」「ATコマンド一覧」をご覧ください。

NCU機能

| 項目 | 規格 |
|--------|---|
| 適用回線 | 加入電話回線 |
| ダイヤル形式 | パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF) |
| NCU形式 | AA(自動発信/自動着信型) |
| 制御コマンド | HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1) |

ワイヤレス通信機能

ワイヤレス通信機能は、ワイヤレスインターネットモデルのみの機能です。

| 項目 | 規格 |
|--------|--|
| 適用回線 | 自営標準 第3版準拠 |
| 通信速度 | 32Kデータ通信:29.2Kbps(無線実行速度) 64Kデータ通信:58.4Kbps |
| 通信規格 | RCR STD-28 |
| 制御コマンド | ATコマンド ¹ |

1: ATコマンドについては、「サポートセンタ」「パソコンを使いこなそう」「ハードウェア情報」「ATコマンド一覧」をご覧ください。

PHSインターフェイス

PHSインターフェイスは、ワイヤレスインターネットモデルのみの機能です。

| 項目 | 規格 |
|-----------|--|
| 適用回線 | 移動電話回線(PHS 後位16芯)NTTドコモ/アステル |
| 自動発着信 | ATコマンド |
| 通信速度 | PIAFS 32Kデータ通信:29.2kbps(実効値) PIAFS 64Kデータ通信:58.4kbps(実効値) |
| 通信規格 | PIAFS2.0 |
| データ圧縮修復方式 | V.42bis |

ATコマンドについては、「サポートセンタ」「パソコンを使いこなそう」「ハードウェア情報」「ATコマンド一覧」をご覧ください。

携帯 / PHSインターフェイス

携帯 / PHSインターフェイス機能は、携帯 / PHSモデルのみの機能です。

個別仕様

| 種類 | 項目 | 規格 |
|---------------------------|------|--|
| PHS (NTTドコモ / アステル) | 適用回線 | 移動電話回線(PHS後位16芯) |
| | 通信速度 | PIAFS 32Kデータ通信: 29.2kbps(実効値) PIAFS 64Kデータ通信: 58.4kbps(実効値) |
| PHS (DDIポケット) | 適用回線 | 移動電話回線(PHS後位12芯) |
| | 通信速度 | PIAFS 32Kデータ通信: 29.2kbps(実効値) |
| 携帯電話 (DoPa/PDC) | 適用回線 | 移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯) |
| | 通信速度 | 9.6kbps(データ通信) 9.6kbps(パケット通信) 28.8kbps(パケット通信) |
| 携帯電話 (cdmaOne) | 適用回線 | 移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯) |
| | 通信速度 | 14.4kbps(データ通信) |

共通仕様

| 項目 | 規格 |
|--------|--------|
| 制御コマンド | ATコマンド |
| 網制御機能 | AA |

割り込みレベルとDMAチャンネル

割り込みレベルとDMAチャンネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

| IRQ | インターフェイス | IRQ | インターフェイス |
|-----|--------------------|-----|----------------------|
| 0 | システムタイマ | 8 | システムクロック |
| 1 | キーボード | 9 | ACPI用システム制御割り込み |
| 2 | 割り込みコントローラ | 10 | USBホストコントローラ |
| 3 | 赤外線通信 ¹ | | アクセラレータ |
| 4 | 通信ポート | 11 | (空) |
| 5 | サウンド | 12 | NXパッド |
| | 内蔵FAXモデム | 13 | 数値データプロセッサ |
| | CardBusホストコントローラ | 14 | IDEコントローラ(内蔵ハードディスク) |
| | PCIステアリングホルダー | | IDEコントローラ(内蔵CD-ROM) |
| 6 | フロッピーディスクコントローラ | 15 | (空) |
| 7 | プリンタポート | | |

1: 赤外線通信機能使用時

DMAチャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

| DMA | インターフェイス | | | |
|-----|-----------------|----------------------------|----------------------------|------------------|
| | デフォルト | プリンタポートをECPで使用する場合(#1使用時) | プリンタポートをECPで使用する場合(#0使用時) | 更にIRを使用する場合 |
| #0 | (空き) | (空き) | ECP | ECP ¹ |
| #1 | (空き) | ECP | (空き) | IR ² |
| #2 | フロッピーディスクコントローラ | | | |
| #3 | (空き) | (空き) | (空き) | (空き) |
| #4 | DMAコントローラ | | | |

1: ECPが#1のときはIR

2: IRが#0のときはECP

索 引

索引

英字

| | |
|---------------------------------|------------------|
| BIOSセットアップメニュー | 188 |
| CD-ROMドライブ | 31 |
| CD-ROMドライブ用コネクタ | 2 |
| CDの再生 | 136 |
| DCコネクタ | 3, 31, 139, 172 |
| DirectCD | 40 |
| DMAチャンネル | 232 |
| Easy CD Creator | 38 |
| FAT32ファイルシステム | 20, 24 |
| FDISK | 22 |
| 【Fn】(エフエヌキー) | 11 |
| Intellisync | 83 |
| Jet-Audio Player | 134 |
| MP3 | 134 |
| MS-DOSプロンプト | 204 |
| MS-DOSモード | 204 |
| MS-IME | 13 |
| NXパッド | 2, 15 |
| NXパッドの設定 | 16 |
| PCカード | 154 |
| PCカードイジェクトボタン | 157 |
| PCカードスロット | 3, 139, 154 |
| PHSインターフェイス | 3, 119, 139, 229 |
| USB | 166 |
| USBコネクタ | 2, 138, 166 |
| Windows 2000 Professional | 208 |

あ行

| | |
|-----------------------------|---------------|
| アクセスランプ(ハードディスク) | 5 |
| アクセスランプ(CD-ROMドライブ) | 31 |
| アプリケーションの再追加 | 181 |
| アプリケーションの削除 | 175 |
| アプリケーションの追加 | 174 |
| アンテナくん | 103 |
| イジェクトスイッチ(CD-ROMドライブ) | 31 |
| インストーラ-NX | 176, 181, 184 |

| | |
|----------------------|-------|
| インターネット設定切替ツール | 97 |
| 【インターネット】ボタン | 2, 6 |
| 液晶ディスプレイ | 2, 43 |
| お手入れ | 202 |
| オリジナルMDの作成 | 134 |
| 音楽の再生 | 134 |
| 音楽の編集 | 134 |

か行

| | |
|------------------------|-------------|
| 解像度 | 43 |
| 外部CRT用コネクタ | 3, 139, 151 |
| 外部ディスプレイ | 150 |
| 外部マイクロホン端子 | 2, 138 |
| 画面回転機能 | 48 |
| 画面の調整 | 43 |
| キーボード | 2, 9 |
| キーボードの設定 | 12 |
| キーボードロック | 78 |
| 輝度 | 43 |
| 起動セクタへのウイルス感染防止 | 79 |
| キャップスロックキーランプ | 5 |
| 休止状態 | 64, 69 |
| 休止状態から復帰 | 70 |
| 休止状態の再設定 | 71 |
| 休止状態の設定の解除 | 71 |
| 共有プリンタ | 149 |
| クリックボタン | 15 |
| 携帯電話2001 | 132 |
| 携帯 / PHSインターフェイス | 3, 124, 230 |
| 携帯電話連携機能 | 131 |
| 携帯連携 / i | 131 |
| ケーブル接続 | 84 |
| コントロールパネル | iii, 179 |

さ行

| | |
|--------------|---------------|
| サウンド機能 | 86 |
| サスペンド | 64, 66 |
| 周辺機器 | 138, 139, 140 |

| | |
|------------------------|------------|
| 省電力機能 | 64 |
| シリアルコネクタ | 171 |
| スーパバイザパスワード | 75 |
| スクロールロックキーランプ | 5 |
| スタンバイ状態 | 64, 66 |
| スタンバイ状態から復帰 | 69 |
| ストップボタン(CD-ROM)..... | 33 |
| スピーカ | 2 |
| スリープ状態 | 64 |
| セカンドバッテリー | 61 |
| セカンドバッテリー用コネクタ | 3, 61, 140 |
| 赤外線通信ポート | 2, 82 |
| 赤外線通信機能 | 81 |
| 赤外線転送 | 84 |
| 赤外線モニタ | 82 |
| セキュリティ機能 | 74 |
| 増設RAMボード | 140, 159 |

た行

| | |
|----------------------|----------|
| ダイヤル設定 | 121, 126 |
| タップ | 15 |
| ダブルタップ | 15 |
| 通風孔 | 3 |
| ディスプレイストレッチ機能 | 47 |
| デバイスドライバ | 144 |
| デュアルディスプレイ機能 | 49 |
| テンキーボード | 13 |
| 電源スイッチ | 2 |
| 電源ランプ | 4 |
| 電話回線用モジュラーコネクタ | 3 |
| 盗難防止用ロック | 2, 80 |
| ドライバ | 144 |
| ドラッグ | 16 |

な行

| | |
|-----------------------|----|
| 内蔵マイクロホン | 2 |
| 日本語入力 | 13 |
| ニューメリックロックキーランプ | 5 |

は行

| | |
|--|----------------|
| バーチャルスクリーン | 46 |
| ハードディスク | 20 |
| ハイバネーション | 64, 69 |
| パスワード | 75 |
| バックアップ | 20 |
| バッテリー | 51 |
| バッテリーアンロック | 3, 58 |
| バッテリー残量の確認 | 52 |
| バッテリー充電ランプ | 5 |
| バッテリーの充電 | 51 |
| バッテリーパック | 3, 51, 57, 140 |
| バッテリーパックの交換 | 57 |
| バッテリー容量 | 60 |
| バッテリーリフレッシュ | 54 |
| パッド | 15 |
| パラレルコネクタ | 3, 139, 171 |
| パラレル変換ケーブル | 145 |
| ピープ音の設定 | 89 |
| 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能 | 89 |
| 表示色 | 43 |
| 表示ランプ | 2, 4 |
| ファイル転送機能 | 81 |
| フォーマット(ハードディスク)..... | 23 |
| フォーマット(フロッピーディスク)..... | 30 |
| 復帰 | 64, 69, 70 |
| プラグ&プレイ | 144 |
| プリンタ | 145, 171 |
| プレーヤ-NX | 135 |
| プレイボタン(CD-ROM)..... | 33 |
| プロジェクト | 152 |
| フロッピーディスクアクセスランプ | 27 |
| フロッピーディスクイジェクトボタン | 27 |
| フロッピーディスクドライブ | 27, 139 |
| フロッピーディスクドライブ用コネクタ | 3, 29 |
| ヘッドホン / オーディオ / 光デジタル オーディオ(S/PDIF)出力端子 | 2, 138, 170 |

| | |
|-------------------|----|
| ヘッドホンジャック | 31 |
| ホットキー機能 | 11 |
| ボリュームコントロール | 86 |

ま行

| | |
|----------------|-------------|
| メール着信ランプ | 2, 5, 103 |
| 【メール】ボタン | 2, 6 |
| メモリ | 159 |
| メモリスロット | 3, 140, 160 |
| メモリ容量の確認 | 163 |
| モデム | 94, 227 |

や行

| | |
|----------------|----|
| ユーザパスワード | 75 |
|----------------|----|

ら行

| | |
|---------------|-----|
| リソースの競合 | 142 |
| 領域の確認 | 21 |
| 領域の確保 | 22 |
| レジューム | 64 |
| ロックレバー | 2 |

わ行

| | |
|-----------------------|----------|
| ワイヤレス通信機能 | 102, 229 |
| ワイヤレスフォン | 113 |
| ワイヤレスモデムステーション | 102, 113 |
| 割り込みレベル | 231 |
| ワンタッチスタートボタン | 6 |
| ワンタッチスタートボタンの設定 | 8 |

「サポートセンタ」を活用しよう

「サポートセンタ」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使って困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップ上の「サポートセンタ」をクリックする

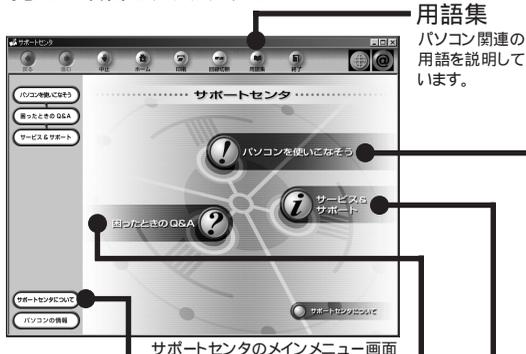


サポートセンタ

ここをクリックする

▼ サポートセンタのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする



サポートセンタのメインメニュー画面

サポートセンタについて
サポートセンタの内容と使いかたについて説明します。

用語集
パソコン関連の用語を説明しています。

！ パソコンを使いこなそう

・添付ソフトの使い方
このパソコンに添付されているソフトの使いかたの説明です。



- ・練習!パソコンの基本
このパソコンの使いかたを練習できるソフトを起動します。
- ・アプリケーションの追加と削除
各ソフトの追加と削除の方法を説明します。
- ・マニュアルの利用法
このパソコンに添付されているマニュアルを紹介します。
- ・ハードウェア情報
ハードウェアに関する情報を載せています。

? 困ったときのQ&A

- ・トラブル解決Q&A
トラブルの解決法をQ&A方式で説明します。
- ・トラブルの予防
トラブルを予防するソフトの使いかたを説明します。
- ・インターネットトラブルシューティング
インターネットに接続する際に起こるトラブルの解決法を説明します。



i サービス&サポート

- ・アプリケーションのサービス&サポート窓口
- ・NECのサービス&サポート窓口
- ・98OFFICIAL PASSメンバーへの登録

このマニュアルは再生紙
(古紙率:表紙50%、本文100%)
を使用しています。

LaVie

もっと知りたいパソコン



3版 2000年7月
NEC
P

808-883877-030-B

PC98-**NX** SERIES
LaVie

LM500J・LM40H



* 8 0 8 8 8 3 8 7 7 0 3 0 B *